

第二章 分課事務

官有物貸下料	五、二五三	四、二五三	四、二五三			△	三、〇九六	△	三、〇九六
建物貸下料	五、四三三	四、二五三	四、一五六			△	三、〇九六	△	三、〇九六
雑収入	八七、五九九	二九、四四〇	二九、四四〇			△	二、〇八二	△	二、〇八二
雑納金	一四、八〇〇	二四、五三〇	二四、五三〇			△	一、九七〇	△	一、九七〇
返納金	二、六七七	〇、一七〇	〇、一七〇			△	二、五二五	△	二、五二五
輸出酒類戻税還納金	三、五四七					△	三、五四七	△	三、五四七
輸出煙草戻税還納金	八、五七六	二四、四〇〇	二四、四〇〇				二、〇八三		二、〇八三
官吏遺族扶助法納金	七二、七九九	七九、八五〇	七九、八五〇				七、〇五二		七、〇五二
官吏遺族扶助法納金	七二、七九九	七九、八五〇	七九、八五〇				七、〇五二		七、〇五二
經常部合計	七、五九五	一〇、四〇二	一〇、四〇二				二、八〇八		二、八〇八
歳入臨時部									
官有物拂下代	五、一四一	二、一三五	二、一三五			△	二、七三七	△	二、七三七
物品拂下代	五、一四一	二、一三五	二、一三五			△	二、七三七	△	二、七三七
物品拂下代	五、一四一	二、一三五	二、一三五			△	二、七三七	△	二、七三七
製糞費補足金	七、七九〇					△	七、七九〇	△	七、七九〇
納付金	七、七九〇					△	七、七九〇	△	七、七九〇
納付金	七、七九〇					△	七、七九〇	△	七、七九〇
臨時部合計	七、七九〇	二、一三五	二、一三五				七、五八〇		七、五八〇
總計	八、三、四、九、七	一〇、四、〇、二	一〇、四、〇、二				二、八、〇、八		二、八、〇、八

二、倉庫課事務

十七、處務細則 二十六年十月各課處務細則を配布すると共に倉庫課に屬する該細則を左の如く規定す

倉庫課

- 第一條 倉庫課ニ本課管守係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 本課ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 借庫、雜庫、火藥庫ノ貯藏貨物及敷地積在ノ貨物ヲ管理スヘシ
- 第四條 貸庫ノ借用及返納願書ヲ受理シ約定書ヲ整理スヘシ
- 第五條 貨物ノ倉庫出入願書及貨物ノ在庫期限敷地借用期限ノ猶豫願書ヲ受けケ之ヲ整理スヘシ
- 第六條 假入手順ヲ以テ貯藏スル貨物ハ管守係ヨリ送付スル記票ニ依リ出庫スル貨物ハ假入品出庫願書ニ依リテ其出入ヲ整理スヘシ
- 第七條 入庫貨物ノ預證書ヲ附與シ及在庫貨物ノ見本品取出願書ヲ受理スヘシ
- 第八條 入庫貨物預證書手数料ノ仕出證ヲ調製シ及無請求品ヲ賣却シタルトキ税金庫租及諸費ヲ計算シテ其仕出書ヲ調製スヘシ
- 第九條 庫租及雜庫敷料敷地料ヲ計算スヘシ
- 第十條 無請求ニ關スル調査報告及公賣ノ手續ヲ爲スヘシ公賣代金ノ殘額ハ之ヲ收入官吏ニ交付スヘシ
- 第十一條 無請求品公賣代金ノ殘額ニ對シ請求者アルトキハ之カ還付ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十二條 巨大重量ノ貨物ヲ庫外ニ置クノ願書ヲ受理スヘシ
- 第十三條 在庫貨物ノ月表ヲ調製スヘシ

第二章 分課事務



- 第十四條 倉庫ニ關スル諸願書ヲ保管スヘシ
  - 第十五條 積荷目録ノ寫ヲ受領シ陸揚個數ト通關個數ノ通知ヲ得テ之ヲ目録ニ記入スヘシ
  - 第十六條 積荷目録中爆發物又ハ危險物ヲ記載シアルトキハ之ヲ其關係課ヘ通知スヘシ
  - 第十七條 庫租及雜庫敷料敷地料ニ關スル諸證憑書類ヲ取纏メ之ヲ會計検査院ニ送付スルノ手續ヲ爲スヘシ
  - 第十八條 管守係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
  - 第十九條 借庫雜庫敷地ノ貨物ヲ監督シ其位置ヲ整理シ及個數容積數量ヲ調査スヘシ
  - 第二十條 假庫上屋ヨリ本庫ニ移納スル貨物ハ假入貨物帳簿ニ記載シ本課ヘ通知スヘシ
  - 第二十一條 雜庫及敷地ニ出入スル貨物ノ個數容積數量記號番號貸主ノ氏名入庫ノ年月日ヲ貨物出入庫控簿ニ登錄シ又出庫貨物ハ庫敷料及輸入稅濟證書并輸入免狀等ヲ入庫願書ノ控簿ニ照査シ檢印ヲ捺スヘシ
  - 第二十二條 上屋期限ヲ經過シタル貨物ハ其記號番號及年月日控簿ニ登錄シ之ヲ假庫ニ納ムヘシ
  - 第二十三條 庫外ニ置ク巨大量ノ貨物ノ位置ヲ定メ其容積數量ヲ算計シテ之ヲ本課ニ通知シ及其品質記號番號個數ヲ記錄シ之ヲ監視部ニ通知スヘシ
  - 第二十四條 神戸港ヨリ稅未納及稅濟ノ火藥其他爆發物ヲ輸入シタルトキハ其搭載解船ハ田中新田倉庫ノ側ニ繫留セシメ現場ニ出張入庫ノ手續ヲ爲スヘシ
  - 第二十五條 前條ノ物品出庫ヲ願出タルトキハ出張ノ上引取ヲ許スヘシ
- 次て二十九年六月各課處務細則の改正と共に
- 第六條 輸出入貨物雜庫借用願書及損傷品入庫願書ヲ受理シ之ヲ整理スヘシ
- 右の一ヶ條を加へ二十六年規定の該細則第六條以下を遞下して全文二十六條に増加せしめたる

外一の改竄を加へざりし降つて三十一年四月各課分掌規定の制定と共に倉庫課の分掌を規定せり

第九條 倉庫課ニ於テハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

- 一、保稅倉庫、火藥庫、借庫及庶庫開閉并ニ鎖鑰ノ保管
- 二、入出庫貨物ノ諸願屆書其他倉庫ニ關スル文書ノ受理及整理
- 三、貨物入出庫ノ監督及在庫品ノ管守
- 四、出庫通知書及保稅倉庫ニ關スル諸免狀ノ附與
- 五、入庫品預證券ノ附與
- 六、取扱手数料ニ對スル登記印紙ノ調査及消印
- 七、保稅倉庫ニ關スル回送品假納稅ノ取扱
- 八、私設保稅倉庫ノ監督
- 九、貨物藏置期限ノ調査
- 十、倉庫内貨物ノ配置
- 十一、在倉腐敗品、藏置期限經過貨物、無請求品及滅却品ノ處分
- 十二、藏番ノ監督

十八、各倉庫及上屋 借庫、火藥庫及上屋に就ては既に本史第一期及び第二期に於て記述せるを以て關稅法發布以前に至る間何等記すべきの事なし但三十一年四月庶庫一棟貸渡の場合に於て左の事項を規定し同月一日より施行せしめたり即ち

大阪稅關倉庫借用ニ付遵守スヘキ條項

第一條 煉化又ハ木造倉庫(何)坪一ヶ月一坪ニ付庫租金七拾五錢トシ明治 年 月 日ヨリ同年 月 日迄全 ヶ月分庫租ヲ前納スヘシ



第二條 入庫ノ貨物ハ輸出入ノ貿易品ニ限ル輸入品ハ關稅既濟ノモノタルヘシ

第三條 火藥其他爆發物或ハ燃易キ危險物及倉庫内ヲ汚損スヘキ物品類ハ一切入庫ヲ許ササルヘシ

第四條 庫内ニ於テ吹烟及火氣ヲ用ユルコトヲ禁ス臨時點火スルコトアラハ船艙用ランブヲ使用スヘシ

第五條 休日又夜中開庫スルトキハ其時々稅關監視部ヘ届出許可ヲ受クヘシ

第六條 稅關官吏ハ何時ニテモ庫内ニ立入り臨檢スヘシ

第七條 借用倉庫損傷シタルトキハ速カニ其旨ヲ申立修繕ヲ求ムルヲ得ヘシ

但借主ノ不注意ニヨリ生スル破損ハ稅關ニ於テ元形ノ通り修繕シ其費用ハ借主ヨリ辨償セシム

第八條 貸與期限内倉庫ノ錠鍵共借主ニ相渡シ在庫品ニ對シ堅固保護ノ責ニ任セサルヘシ

第九條 期限内貸借ヲ廢止セントスルトキハ稅關ヨリスルモ借主ヨリスルモ壹ヶ月前ニ通知スヘシ

以上

右之條々遵守シ決シテ違背不致候也

明治 年 月 日

借主 姓

名 印

大阪稅關長 殿

倉庫借用願

何 坪

一第何號倉庫

右者海外貿易上必要ニ付借用仕度左記御命令ノ條項堅ク相守リ毫モ違背不致候ニ付御許可被成降

度此段奉願候也

年 月 日

借主 姓

名 印

大阪稅關長 殿

倉庫返上御届

何 坪

一第何號倉庫

右者豫テ借用致居候處 月 日ニテ期限滿了相成候ニ付返上致候間此段御届申上候也

年 月 日

借主 姓

名 印

大阪稅關長 殿

其他火藥庫に對しては三十年八月二日派出吏員の心得方を定め

大阪稅關所屬火藥庫派出吏員心得

一、火藥庫へ出入スル爆發品ハ何レモ納稅濟ノ輸入品ニシテ都度倉庫課員之ニ臨檢スルモノトス

一、藏置品ノ出庫ヲ願出ルトキハ庫租徵收ノ手續ヲ了シタル後出庫ノ取計ヲナスヘシ

一、入庫ノ物品及貨主ノ別ヲ明瞭ナラシムルタメ貨主口別ニ積別ケ標札ヲ掲クヘシ

一、庫内及出入口ニハ蕪荳ヲ敷キ摩擦ヨリ發スル危險ヲ豫防スヘシ

一、爆發品ニ接近スル派出員貨主其他關係人ハ燐寸吸烟器其他發火ヲ容易ナラシムヘキ危險品ヲ

携帯スヘカラス此等ハ都テ衣体ヨリ除却シ庫番ニ依托シ置クヘシ

一、庫内ニ出入スルモノハ必ス草履ヲ穿ツヘシ靴木履等ヲ用ユヘカラス

一、派出員ハ入出庫品ヲ取扱フヘキ貨主及雇人等ニ充分注意ヲ加ヘ危險ナカラシメント期スヘシ

又如何ナル事情アルモ夜中ハ倉庫ノ開閉ヲ許サス











第二章 發課事務

- 第九條 各課擔任外ノ諸務ヲ調理スヘシ
- 第十條 關印及關長ノ官印ヲ管守スヘシ
- 第十一條 諸法令ヲ調査シ年報書ヲ編纂スヘシ
- 第十二條 各課ヨリ資料ヲ蒐集調理シ本港外國年報ヲ編纂スヘシ
- 第十三條 現員取調表並職員原籍表ヲ調製スヘシ
- 第十四條 吏員ノ勤怠ヲ調査シ職員勤務表ヲ調製スヘシ
- 第十五條 吏員ノ分課録印鑑簿履歷簿住居簿ヲ整理スヘシ
- 第十六條 外國人ノ諸文書ヲ接受翻譯シ其答案ヲ起草シ及之ヲ發遣スヘシ
- 第十七條 外國人ノ應接ニ通辯シ及外國人引合始末ヲ登錄スヘシ
- 第十八條 難船報告船難證書ノ證明手續ヲ取扱フヘシ
- 第十九條 外國人ノ往復書類ヲ編纂整理スヘシ
- 第二十條 內國新聞紙ヘ公告ノ事項ヲ取扱フヘシ
- 第二十一條 諸文書ヲ接受發遣シ及ヒ之ヲ件名簿ニ登錄スヘシ
- 第二十二條 諸文書ヲ淨寫シ及文書回達諸表送達ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 第二十三條 接受ノ文書中回答ヲ要スルモノニシテ主任者ヨリ回答案ノ具申回付等延引遲退スルトキハ之ヲ督促ヲ爲スヘシ
- 第二十四條 郵便料電信料ノ受渡ヲ爲スヘシ
- 第二十五條 吏員出勤簿ヲ整理スヘシ
- 第二十六條 當宿直員ノ配布指定ヲ整理スヘシ
- 第二十七條 諸法令及諸文書ヲ編纂整理保管スヘシ

- 第二十八條 監視部長ヨリ具申セル監吏補賞罰ノ撰定ヲ審査シ及其辭令案ヲ起草スヘシ
- 第二十九條 文書保存規則ノ規定ニ從ヒ文書ノ保存期限ヲ撰定シ關長ニ具申シテ之ヲ處理スヘシ
- 第三十條 公文簿冊ノ貸借ハ渾テ文書借覽規則ニ依リ之ヲ取扱フヘシ
- 第三十一條 吏員ノ出張俸給ノ増減及賞罰金等ノ事項ニ關シ其都度收入支出方通知ノ手續ヲ擔任スヘシ
- 第三十二條 統計係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三十三條 輸出入物品ノ數量元價稅額及輸出入貨幣出入船舶ニ關スル諸件ノ統計ヲ爲スヘシ
- 第三十四條 輸出入品簿輸出入貨幣並地金簿出入船舶簿其他事務上必要ナル帳簿ヲ整理シ諸表編製ノ資料ニ備フヘシ
- 第三十五條 每半月官房第三課ヘ送付スル輸出入貨幣並地金表ヲ調製スヘシ
- 第三十六條 毎月官房第三課ヘ送付スル輸出品表輸入品表輸出入元價國別要計表輸出入貨幣並地金表出入船舶表輸出入無檢査無稅品表博覽會出品積良品表及輸入藥種表輸出燐寸表等ヲ調製スヘシ
- 第三十七條 每半年官房第三課ヘ送付スヘキ外國往來船賃價格表ヲ調製スヘシ
- 第三十八條 每年主稅局ヘ送付スヘキ外國貿易年報ニ要スル前年比較表ヲ調製シ期限前順次ヲ以テ速ニ鑑定課ヘ送付スヘシ
- 第三十九條 輸出入申告書ノ諸項ヲ審査シ疑義アルモノハ之ヲ主務ノ課係ヘ通牒シ又ハ過誤アルヲ發見セハ尙之ヲ關長ヘ具申スヘシ
- 第四十條 輸入品元價及輸出入貨幣價格ハ總テ成規ニ依リ日本銀貨ニ換算スヘシ
- 第四十一條 貨物輸出入申告書並船舶出入港届書ヲ保管スヘシ

第二章 分課事務



- 第四十二條 製表材料ヲ蒐集保存シ及統計ニ關スル諸件ヲ調査スヘシ
- 第四十三條 每半年主稅局ヘ送付スヘキ輸出入品噸量内外船舶表ヲ調製スヘシ
- 第四十四條 毎月各出張所ヨリ送付スル輸出入物品表輸出入國別要計表輸出入貨幣表出入船舶表輸入藥種表博覽會出品及積返品月表等ヲ審査シ及保存スヘシ
- 第四十五條 每半年各出張所ヨリ送付スル外國往來船貨價格表及輸出入品噸量内外船舶表ヲ審査スヘシ
- 第四十六條 每半月各出張所ヨリ送付スル輸出入品價格及收稅要計輸出入金銀貨幣表ヲ審査スヘシ
- 第四十七條 前項ニ揭ケサル統計ニ關スル諸件ヲ臨時調査處理スヘシ
- 第四十八條 輸出入重要品ノ前年比較表ヲ調製シ毎月之ヲ關長ニ呈出スヘシ
- 第四十九條 輸出入品價格及輸出入貨幣ノ前年ニ比較セル要計表ヲ調製スヘシ庶務課ハ第五十條ヨリ以下悉皆適用ス
- 第五十條 出納係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第五十一條 每年度經費ノ概算ヲ調理シ并租稅外諸收入ノ豫算計算書ヲ調製スヘシ
- 第五十二條 經費概算決定ノ達アルトキハ仕拂ノ細目豫定書ヲ調製スヘシ
- 第五十三條 經費ノ仕拂命令案其他收入ニ係ル回議ヲ起案スヘシ
- 第五十四條 經費仕拂命令案ノ決議ニ依リ仕拂命令ヲ調製スヘシ
- 第五十五條 經費仕拂領收證ヲ檢定シ其仕拂切符ヲ交付スヘシ
- 第五十六條 租稅外諸收入ノ納入ニ對シ納入告知書ヲ調製スヘシ
- 第五十七條 歲入歲出證憑書類ヲ調査シ之ヲ本省ヘ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第五十八條 租稅外諸收入納入告知書ヲ納入ニ交付シ納入ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 第五十九條 從價稅品買上代金仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六十條 出納官吏ノ身許保證金及辨償金等ニ關スル事項ヲ調査スヘシ
- 第六十一條 關稅及稅關諸收入并輸出酒類醬油烟草等ニ係ル返稅ヲ願出タルトキハ願人ヨリノ書類金額等ヲ調査シ之カ返戻ノ取扱ヲナスヘシ
- 第六十二條 每月本金庫ヨリ送付セル月計對照表雜部其他ノ對照表照合ヲ爲シ之カ證明ヲ爲スヘシ
- 第六十三條 歲出入諸報告書計算書并仕拂内譯書ヲ査閱スヘシ
- 第六十四條 工事其他ノ契約ニ關シ諸受負人ヨリ差出ス身許保證金ノ保管預ヲ取扱フヘシ
- 第六十五條 宿直并徹夜勤務ノ食料及出張旅費ヲ計查スヘシ
- 第六十六條 臨時開應并荷仕役ノ時間出勤人員及臨時勤勞手當支給額ニ係ル調査ヲ爲スヘシ
- 第六十七條 用度品ノ購買ニ係ル回議ニ對シ其物品及代價ヲ照查スヘシ
- 第六十八條 新營并修繕ニ係ル回議ニ對シ其費額ヲ計畫スヘシ
- 第六十九條 會計ニ關スル諸文書ヲ起草スヘシ
- 第七十條 雇人ノ採用罷免及給料増減ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 第七十一條 經費及收入并雜部金諸拂戻金用度物品ノ出納ヲ各其帳簿ニ記錄スヘシ
- 第七十二條 經費及收入ニ關スル諸報告書諸計算書并仕拂内譯書等ヲ調製スヘシ
- 第七十三條 諸帳簿及諸計算表ヲ整理保管スヘシ
- 第七十四條 用度係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第七十五條 用度諸物品豫算ヲ調製スヘシ



- 第七十六條 用度品ノ購買及不用品從價稅買上品沒收品ノ賣却ニ關スル回議ヲ起草スヘシ
  - 第七十七條 廳中所要ノ諸物品ハ競争又ハ隨意契約ヲ以テ購入スヘシ
  - 第七十八條 廳中所要ノ諸物品ハ各課ノ請求ニ依リ當否ヲ査定シ交付ノ手續ヲ爲スヘシ
  - 第七十九條 物品購買代價及營繕ニ關スル仕拂金ノ受取人及其證書ノ確否ヲ査定スヘシ
  - 第八十條 從價稅買上品不用品及沒收品ハ競争又ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スヘシ
  - 第八十一條 建物船舶其他ノ新營修繕又ハ變更ヲ要スルトキハ設計書及圖面ヲ調製シ回議ヲ起草スヘシ
  - 第八十二條 新營及修繕工事ノ指揮監督ヲ爲スヘシ
  - 第八十三條 工事其他ノ受負ニ關シ契約書ヲ調製スヘシ
  - 第八十四條 土地家屋買上拂下及貸借ノ方案ヲ調査シ并ニ登記等ノ手續ヲ爲スヘシ
  - 第八十五條 在庫物品其他保管ニ屬スル物品ハ時々検査シ毀損セサル様注意スヘシ
  - 第八十六條 各課使用ノ物品ヲ臨時檢閲スヘシ
  - 第八十七條 本關所屬ノ地所建物并ニ官舎ヲ管理シ且臨時檢閲スヘシ
  - 第八十八條 小使ノ勤惰ヲ視察シ及之カ指揮ヲ爲スヘシ
  - 第八十九條 雇ハテ使役シ廳中其他ノ掃除ヲ爲サシムヘシ
  - 第九十條 非常ノ際職人及驅付人足ヲ使用スヘシ
- 然るに後二十九年六月九日分課規程一部の改正を行ひ新たに稅關長官房を置き其結果庶務課の處務細則を頒てり

庶務課

第一條 本課ニ出納係及用度係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

- 第二條 出納係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 毎年度經費ノ概算及豫算ヲ調理シ並租稅外諸收入ノ豫定計算書ヲ調製スヘシ
- 第四條 經費概算決定ノ達アルトキハ仕拂ノ細目豫定書ヲ調製スヘシ
- 第五條 經費ノ仕拂命令案其他收入ニ係ル回議ヲ起草スヘシ
- 第六條 經費仕拂命令案ノ決議ニ依リ仕拂命令ヲ調製スヘシ
- 第七條 經費仕拂領收證ヲ檢定シ其仕拂切符ヲ交付スヘシ
- 第八條 租稅外諸收入ノ納入ニ對シ納入告知書ヲ調製スヘシ
- 第九條 歲入歲出證憑書類ヲ調査シ之ヲ本省ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 租稅外諸收入納入告知書ヲ納入ニ交付シ納入ノ取扱ヲナスヘシ
- 第十一條 從價稅品買上代金仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十二條 出納官吏ノ身元保證金及辨償金等ニ關スル事項ヲ調査スヘシ
- 第十三條 關稅及稅關諸收入并輸出酒類醬油烟草等ニ係ル返稅ヲ願出タルトキハ願人及書類金額等ヲ調査シ之レカ返戻ノ取扱ヲナスヘシ
- 第十四條 毎月本金庫ヨリ送付スル月計對照表雜部金其他ノ對照表ノ照合ヲナシ之カ證明ヲナスヘシ
- 第十五條 歲出入諸報告書計算書并仕拂内譯書等ヲ査閲スヘシ
- 第十六條 工事其他ノ契約ニ關シ諸受負人ヨリ差出ス身元保證金ノ保管預ヲ取扱フヘシ
- 第十七條 宿直並徹夜勤務ノ食料及出張旅費ヲ計査スヘシ
- 第十八條 臨時開廳並荷仕役ノ時間出務人員及臨時勤勞手當支給額ニ係ル調査ヲナスヘシ
- 第十九條 用度品購買ニ係ル回議ニ對シ其物品及代價ヲ照査スヘシ

第二章 分課事務



- 第二十條 新營並修繕ニ係ル回議ニ對シ其費額ヲ計查スヘシ
- 第二十一條 會計ニ關スル諸文書ヲ起草スヘシ
- 第二十二條 雇人ノ採用罷免及給料増減ノ取扱ヲナスヘシ
- 第二十三條 經費及收入並雜部金諸拂戻金用度物品ノ出納ヲ各其帳簿ニ記録スヘシ
- 第二十四條 經費及收入ニ關スル諸報告書諸計算書並仕拂内譯書等ヲ調製スヘシ
- 第二十五條 諸帳簿及諸計算表ヲ整理保管スヘシ
- 第二十六條 用度係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第二十七條 用度諸物品ノ豫算ヲ調査スヘシ
- 第二十八條 用度品ノ購買及不用品從價稅買上品沒收品ノ賣却ニ關スル回議ヲ起草スヘシ
- 第二十九條 廳中所要ノ諸物品ハ競争又ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ購入スヘシ
- 第三十條 廳中所要ノ諸物品ハ各課ノ請求ニ依リ當否ヲ調査シ交付ノ手續ヲナスヘシ
- 第三十一條 物品購買代價及營繕ニ關スル仕拂金ノ受取人及其證書ノ確否ヲ査定スヘシ
- 第三十二條 從價稅買上品不用品及沒收品ハ競争又ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スヘシ其賣却シ得サルモノハ棄却ノ手續ヲナスヘシ
- 第三十三條 建物船舶其他ノ新營修繕又ハ變更ヲ要スルトキハ設計書及圖面ヲ調製シ回議ヲ起草スヘシ
- 第三十四條 新營及修繕工事ノ指揮監督ヲナスヘシ
- 第三十五條 工事其他ノ受負ニ關シ契約書ヲ調査スヘシ
- 第三十六條 土地家屋ノ買上拂下及貸借ノ方案ヲ調査シ並ニ登記等ノ手續ヲナスヘシ
- 第三十七條 在庫物品其他保管ニ屬スル物品ハ時々検査シ毀損セサル様注意スヘシ

- 第三十八條 各課使用ノ物品ヲ臨時檢閱スヘシ
  - 第三十九條 本關所屬ノ地所建物並ニ官舎ヲ管理シ且隨時檢閱スヘシ
  - 第四十條 小使ノ勤惰ヲ觀察シ及ヒ之カ指揮ヲナスヘシ
  - 第四十一條 雇人ヲ使役シ廳中其他ノ掃除ヲ爲サシムヘシ
  - 第四十二條 非常ノ際職工及ヒ駈付人足ヲ使用スヘシ
- 後三十一年四月各課分掌規程の改定配布と共に庶務課に屬する分掌を定めて曰
- 第十條 庶務課ニ出納係、營繕係ヲ置ク
  - 第十一條 出納係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
    - 一 經費ノ豫算及決算
    - 二 支拂命令ノ調製
    - 三 關稅及稅關諸收入并輸出酒類、烟草醬油ノ返稅其他諸支出金ノ取扱
    - 四 金庫歳出月計對照表ノ證明
    - 五 出納官吏金櫃帳簿ノ検査ノ取扱
    - 六 出納官吏身元保證金辨償金ノ取扱
    - 七 工事其他契約保證金ノ保管
    - 八 經費其他支出金ニ係ル計算、報告、證憑書類ノ調製提出
    - 九 諸物品ノ購買保管供給其他傭人被服ノ保管
    - 十 不用品從價稅買上品及沒收品ノ賣却
    - 十一 土地建物ノ賣買貸借
    - 十二 所屬官舎ノ貸與ニ關スル事項



第二章 分課事務

- 十三 傭人ノ進退勤惰及指揮監督
- 十四 事務所内外ノ取締掃除及備付
- 十五 官有財産ノ管理
- 十六 税關申告諸書式用紙販賣ノ監督
- 第十二條 營繕係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
  - 一 土地建物用船等ノ新營修繕ニ關スル設計及圖按ノ調製
  - 二 新營及修繕工事ノ受負契約
  - 三 新營及修繕工事ノ指揮監督并検査
  - 四 土地建物其他圖按ノ保管

所屬建物及以地所 卅四年一月現在當關所屬の建物及地所は左の表に就て之を見るへし

大阪税關所屬建物表

(三十四年一月調査)

所在地	名稱	構造	坪數		價	建築年月	備考
			二階	平			
大阪市北區富島町貳番地	本關	煉化造	六六、四三七		明治二十六年三月四六八七圓〇二一		
同	鑑定課	木造		三一、三	同 三五四〇七八		
同	上屋	同		七五、〇	同 廿二年十一月八六六、四一〇		
同	同	同		七五、〇	同 二十八年一月一、二四八、〇〇〇		
同	小使詰所	同		一四、八七五	同 二十五年七月八四、五〇〇		

大阪市北區富島町貳番地	炭薪物入所	木造		六、〇	明治二十五年七月一八、〇〇〇		廿五年取毀
同	便所	同		三、〇	同 十九年六月七〇、三八二		
同	書物庫	土藏造	七、五〇		同 十九年五月三〇九、五〇〇		
同	借庫	煉化造		八七、五〇	同 十九年六月三、五三一、六〇三		
同	同	同		一〇一、七五	同 二十年三月三、八九八、〇〇〇		
同	同	土藏造	三四、〇		同 八年二月一、〇五一、二三六		
大阪市北區富島町四番地	同	同	一一五、〇		同 元年五月五、一五一、三六四		
大阪市北區富島町五番地	同	同	五〇、〇		同 元年五月二、〇六一、〇〇〇		
同	同	同	五〇、〇		同 〇六年〇〇〇		
大阪市北區富島町一番地ノ内	監視部	木造		二六、〇	同 三十一年二月一、三三二、一一〇		
同	上屋	同		一六五、〇	同 〇八年三月四、〇〇八、一〇〇		
大阪市西區田中新田ノ内二番地	火藥庫	煉化造		六〇、〇	同 三十年三月三、一九五、八七〇		
大阪市天保町一丁目	天保町監所	木造		二一、九五	同 七三、〇〇〇		
同	水夫詰所	同		一四、五〇	同 十九年九月九四、五〇〇		

第二章 分課事務



大阪府北區玉江町 二丁目十番地	官舎	木造	五、一〇	一一一、二五	同十六年五月編入	所在所ハ 大阪府ヨリ 借受ケ無料
同	同	同	六八	同三十二年三月五日	同三十二年三月五日	所在所ハ 大阪府ヨリ 借受ケ無料
西成郡川南村大字 淺屋道路ノ内	監所	同	三、二五	同三十二年三月五日	同三十二年三月五日	所在所ハ 大阪府ヨリ 借受ケ無料
大阪府西區中南大 字中口第百五十二 番ノ二大阪府船 場付屬地	監所	同	三、二五	同三十二年三月五日	同三十二年三月五日	所在所ハ 大阪府ヨリ 借受ケ無料

大阪税關所屬地坪數表

(同上)

所名	所在地番	坪數	備	考
本關構内	大阪府北區富島町 四番地五番地	一、五六四・九〇〇	内二二八、〇〇	大阪府ヨリ引繼ノ分 但荷揚場 選信省ヨリ引繼ノ分 大阪府ヨリ買上ノ分
監視部構内	大阪府北區富島町 一番地ノ内	五五一、九四〇	内四九五、五〇	同上
計		二、一一六、八四〇	明治三十二年度新築ノ餘本關構内五番地ノ 分々割シタル分	
關長官舎	大阪府北區富島町 五番地ノ内	一七〇、一九〇	内六四、〇〇	二十八年一月 川岸地大阪府ヨリ引繼ノ分
火藥庫	大阪府西區田中新田 ノ内二番地	四〇五、〇〇〇		
天保町監所	大阪府西區天保町一 番地	三四二、五九六		
各官舎	大阪府北區玉江町二 丁目十番地	六八〇、〇〇〇		
總計		三、六一四、六二六		

二十一、給與 二十四年四月一日以降備(月給拾圓以下) 日給參拾五錢以下) 以下の輩にして宿直若しくは徹夜勤務に  
服するものに限り左の區別に據り食料を支給せり

- 一 備 月給拾圓以下 宿直 二夕 食料 一度分
- 日給參拾五錢以下 徹夜 小夜食 一度 參錢五厘
- 一 給仕、小使以下 同 上 食料 一度分 貳錢五厘

後七月九日横濱税關の上請に據り税關監吏補にして月給拾圓以下のものも亦認可せられたるを以て  
各港均しく此例規に倣へり後二十五年四月九日大藏省より官吏以下食料支給方法を改正し之を各税  
關に達せり

當省官吏以下食料支給方明治二十五年四月一日ヨリ別紙ノ通改正ス

明治二十五年四月九日

但税關長ハ適宜廢減スルコトヲ得尤モ廢減シタルトキハ其旨届出ヘシ  
大藏省官吏食料支給規程 (明治二十五年四月一日改正)

- 一 判任傭員 宿直 一回 金 七 錢
  - 一 同 徹夜 一回 金 拾 錢
  - 一 取締掛員 宿直 一回 金 拾 錢
  - 一 給仕小使以下小者ノ類宿直 一回 金 五 錢
  - 一 同 徹夜 一回 金 七 錢 五 厘
- 右取締掛員ノ外宿直ニシテ徹夜勤務スルトキハ徹夜ノ額ヲ給ス



後二十六年十二月給仕小使以下の死亡或は解雇に對し給與方法を定め之を税關長より達せしむ  
達第拾號

庶務課

給仕小使定人足藏番水夫等勤務中死亡又ハ官ノ都合ニ據リ解雇シタルトキハ自今左ノ通給與方可  
取計此旨相達ス

大阪税關長 穎川君平 印

明治二十六年十二月二十二日  
給仕小使定人足藏番水夫等勤續滿一ケ年以上十ケ年未滿ノ者死亡又ハ滿五ケ年以上十ケ年未滿勤  
仕ノ者官ノ都合ニ依リ解雇シタルトキ

各其日給三十日分 但月給ノ者ハ壹ケ月分勤續十ケ年以上ノ者死亡又ハ官ノ都合ニ依リ解雇  
シタルトキ

各其日給六十日分 但月給ノ者ハ二ケ月分勤務上怠惰不品行其他不都合ノ所爲アル爲メ解雇  
シタルトキハ前二項ノ限リニアラス

二十二、宿直 二十五年一月宿直員郵便物取扱に關する假規定を配布して曰

一宿直者ハ午後九時及翌午前九時ノ兩度ニ郵便物ヲ開披シ宿直日誌ニ記載シ開關ノ節直ニ文書課  
ヘ引渡シ證印ヲ受ケ置クヘシ文書課ハ宿直員ヨリ引繼ヲ受ケタル郵便書ハ夫々其主任者ヘ配付シ  
受取人ヨリ證印ヲ受ケ置クモノトス

但至急郵便書及電信ハ受信者ヘ直ニ使送シ其旨日誌ニ記入シ受取人ヨリ證印ヲ受ケ置クヘシ

一文書課ハ郵便函ノ鎖鑰ヲ閉關時限迄ニ其當日宿直者ヘ引繼キ可申ニ付翌日郵便物引渡シト同時  
ニ同課ヘ返付スヘシ

右之通相定ム

後二十六年四月宿直員にして開關時間前後に於ける手數濟貨物の取扱方に關し訓示する處あり

開關時間前後ニ於テ輸入稅濟貨物引取願出候時宿直員ニ於テ上屋事務取扱居候處近來貨物輻湊之  
爲メ内許シ等ハ數人之手ニ相涉リ候様ノ場合モ有之精算之際頗ル繁雜ヲ來シ候由ニ付以後ハ宿直  
員必ス立合之上ニ層記號個數等精密ニ相調ヘ内許ノ時ハ免狀ヘ裏書ノ上扱ヒ者ノ捺印致スヘキ旨  
課長ヨリ被達候條爲念及御通知候也

明治二十六年四月十三日

翌二十七年八月宿直若しくは當直は從來雇員をも服務せしめたるも爾後判任以上を以て當らしむる  
ことゝなせり蓋し傭員を以て責任官吏と伍せしむるは不當なればなり

當宿直之義ハ是迄雇員打混シ居候處明十九日ヨリ判任以上(課長ヲ)ヲ以相勤メ貨物掛ノ事務ヲモ廉  
畧ノ取扱無之様嚴守相行候様關長ヨリ被達候間此段御了承相成度候也

明治二十七年八月十八日

庶務課長 小林敬直

鑑定課	檢査課
收入課	庶務課
統計係	貨物係

後二十九年四月當宿直員心得を配布せり

當宿直員心得

- 一失火ノ豫防トシテ各室一回巡視スヘシ
- 一至急ノ來書及電報ハ課長ノ宅ヘ送致スヘシ
- 一臨時開廳及仕役願ハ課長ノ宅ヘ願人ヲシテ出頭セシムヘシ
- 一仕役追願許可ハ當宿直及監視部ニテ取計フヘシ



右條々堅ク相守ルヘキモノ也

明治二十九年四月一日

大阪税關

二十三、電話交換機の架設 明治二十六年六月二十八日電話交換機架設の加入書を提出せるも以來公加入者多き故を以て交換局より永く之れか架設に着手せず遂に翌年五月二日當關より

諸第二十六號

電話交換機備付之義ニ付去二十六年六月二十八日加入申込書差出置候得共其後今日迄御着手無之ニ付過日當關吉村屬ヲ以テ都合及御問合候處現時加入者夥多ノ爲メ來年度ニモ不相成候テハ設置之順次ニ迫ハサル哉ノ赴然ルニ當關ノ如キハ神戸大阪兩税關間ノ照會往復頻繁タルハ勿論公用ノ敏捷ヲ企圖スルニハ交換電話機設置ノ須要一日モ欠クヘカラス候條特別之御取計ヲ以テ申込順序ノ如何ニ係ラス速ニ架設有之様致度此段譯テ及御依頼候也

二十七年五月二日

大阪税關

電話交換局 御中

と要求して同月上旬之れか架設を終れり後三十年四月監視部と天保町出張所との間に特用電話線を大阪府警察用既設の電柱に添架せんとし先づ之れを大阪府に交渉して曰

税關ヨリ天保町出張所マテ電話線架設可致ニ付貴府警察用既設ノ電柱ヲ借用添架致度過般係官ヲシテ御内談申入候際將來電柱ヲ修理スル費用分擔可致云々ハ素ヨリ當然ノ義ニ有之候條右電柱借用方御承諾相成度此段及御照會候也

明治三十年四月十日

大阪税關長 穎川君平

大阪府知事 内海忠勝殿

大阪府は直ちに左の如く回答し來れるを以て遂に五月二十二日之れに同意して監視部と天保町出張

所との間に於ける特用電話線の架設を了れり大阪府の回答は左の如し

警第一九三七號

本月十日地第二一號付ヲ以テ警察部及天保町水上巡查派出所間ニアル電柱へ電線添架之義御照會之趣領承右添架上別紙契約ニ御異存無之ニ於テハ何等差問無之候條此段及御回答候也

明治三十年五月五日

大阪府知事 内海忠勝

大阪税關長 穎川君平殿

(別紙)

契約書

- 一 大阪府警察部及天保町水上巡查派出所間電話柱ヲ借受ケ大阪税關及天保町出張所間ニ電話線ヲ添架ス
- 一 電柱補修費及電柱敷地料ハ線條數ノ割合ヲ以テ大阪税關之ヲ負擔スルモノトス
- 一 添架六ヶ月ニ滿タサルトキハ其年度ノ敷地料ハ負擔セサルモノトス
- 一 大阪府ヨリ添架線ノ撤去方申込アルトキハ其通知ヲ受ケタルトキヨリ三ヶ月以内撤去スルモノトス

右ノ通契約取結候也

年月日

大阪税關

府知事 宛

二十四、土曜日半休の廢止 從來我税關其他各官衙に於て毎土曜日の勤務時間を半日に限れるは果して何の時よりの慣行にや今俄かに調査するに暇なしと雖も土曜日の半休は今も猶各官衙に於て慣行する處なり然るに我税關に於ては二十八年十一月十三日を以て左の如く達し土曜日半休の慣行

第二章 分課事務

百十五



を廢止せむ

從來土曜日ハ半休致來候處爾來廢半休候旨關長ヨリ御口達有之候間御心得迄ニ及御回達候也

二十八年十一月十三日

文書係

各課御中

監視部御中

二十五、經費 曩き大阪税關をして神戸税關の出張所と指定せし以來當税關の經費は神戸税關と合併支辨せしめ後十三年度に於て一旦之れを獨立せしめたるも翌年關長の申請によりて再び之れを合併す本史第二期六篇經費の章參照し爾來當關の經費は常に神戸税關の手に於て支辨せられたり而して二十九年開始めて當税關より直接支辨すること、なれり是即ち大阪税關經費の獨立と見て不可なるへし今試みに當時之れか爲めに大阪本金庫と往復せる公文書類を示して當時の事情を悉すの一端とせん

庶第五〇號

從來本關經費仕拂方神戸税關ニ於テ取扱來候處二十九年ヨリ分離特ニ當關ヨリ直ニ仕拂可申就テハ成規ニ基キ仕拂命令大阪本金庫宛發行可致就中至急即日拂ヲ要スル場合ハ該案内仕拂命令欄外ニ即日拂ヲ要ス云々記入送付候事ニ致度右以前及御打合候也

附言 神戸税關ニ於テモ至急ヲ要スル場合ニハ本文ノ通取計居候間爲念申添候

明治二十九年三月三十一日

仕拂命令官

大阪税關長 額川君平

大阪本金庫御中

右回答

國第七六號

二十九年ヨリ貴關經費仕拂方之儀ニ付庶第五〇號ヲ以テ御照會之趣承知致候其中至急支拂ヲ要スル仕拂命令ハ特ニ其旨ヲ記シタル請求書ヲ案内命令ト共ニ御送付相成候様致度此段及御答候也

大阪本金庫

金庫出納役代理人

日本銀行大阪支店長

鶴原定吉 印

大阪税關御中

而して左に二十五年以降三十一年度に於ける當關の經費を示せば左の如し

科 目	年度別					
	廿五年度	廿六年度	廿七年度	廿八年度	廿九年度	三十年度
俸給及諸給	五、四八四、九九	五、三三〇、〇六	五、〇三三、一八	四、九七六、二八	五、七九一、三三	七、九七二、九七
應 費	一、七六六、五九	一、五八八、八〇	八、六二一、〇八	七、九四一、六四	一、〇一四、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇
修繕費	六九七、三二	五七九、三〇	六二八、九〇	一、〇三三、一〇〇	六八、〇〇〇	五九六、〇〇〇
旅費	一四、四四〇	一六、四一〇	二〇、三三〇	二二、三三〇	二四、三三〇	五〇〇、一〇〇
雜給及雜費	二、五八、八三	二、〇六、一八	二、〇五、四四	三、三三、八三	三、三三、四四	四、七五〇、一四
密輸出入申告者給與			六、七六、〇〇	一、六四、六六	一、〇九、九四	三、四四、七六
諸拂戻金	九、一四、九九	八、六四、六三	七、七〇、九七	一、六四、六六	一、〇九、九四	三、四四、七六
臨時		五、三、〇〇		四、一、三〇	三、九七、〇四	九、〇四、五六
新 營 費						一、〇八、七九
神戸大阪兩税關風害修繕費					二、四、七四	



部	震災新營費	四八五、九〇二
	震災修繕費	九四、九〇〇
計		

二十六、經費に關する注意二件 二十九年十二月經費節約に關する注意を與へて曰  
 本年度ハ諸物價ノ暴騰ニ依リ經費ニ欠乏ヲ告ケ日々消耗スル木炭石炭ノ如キ非常ノ節約ヲ加ヘサ  
 レハ會計年度末則チ二三月ノ頃ニ至リ不得止木炭石炭等ノ使用ヲ中止スルノ不幸ニ立到ルヤモ難  
 計故ニ今ヨリ各自注意シ殊ニ午後二三時頃ヨリハ木石炭ヲ火鉢煖爐ニ投スルコトニ意ヲ用ヒ退關  
 ノ刻ニハ火氣ノ灰ニ化シ去ランコトニ勉メ猥リニ未燃盡或ハ灼熱ノモノヲ捨去ル等無益ノ冗費ヲ  
 省カンコトニ致度此段各位御心得相成度候也

明治二十九年十二月八日

小林 敬 直

各位

翌三十年二月公金騙取の徒出沒せるを以て大阪本金庫より左の注意を喚ひ來れり

國第六一號

近來仕拂命令地紙ヲ窃取シ仕拂命令官偽造印章ヲ押用シテ金庫ニ就キ現金ヲ騙取セル者各地ニ徘徊シ實ニ容易ナラサル次第ニ有之候ニ付殊ニ注意方其筋ヨリ通示有之就テハ案内仕拂命令及送金仕拂命令授受ノ手續最モ鄭重ニ取扱致度ニ付左ノ廉々及御打合候間御差支ノ義モ無之候ハ、速ニ實行可致候條何分ノ御回報煩シ度此段及御協議候也

明治三十年二月十九日

大阪本金庫

金庫出納役場代理人

日本銀行副支配役

小野英三郎

仕拂命令官

大阪税關長 穎川 君平 殿

一案内仕拂命令送付用トシテ金庫ニ於テ狀函ヲ造リ御廳ト金庫ノ間ニ用ユル合鍵ヲ添付差出シ  
 置候ニ付右鍵ハ相當官吏ニ保管セシメラレ命令書ハ必ス之ニ藏メ閉鎖ヲ施シテ御送達有之度  
 候尤モ送達ニハ可成一定ノ使丁ヲ使用セラレ度候  
 一仕拂命令地紙及從來使用ノ送付簿紛失ノ場合ニハ直チニ御通知ヲ要シ度候  
 一仕拂命令ノ印章ハ不明瞭ノ廉ナキ様正確ニ押捺相成度候

監視部事務

二十七、處務細則 二十三年七月税關官制の改正と同時に發布せられたる税關分課規程に據れば  
 新たに旅具検査に關する事務を監視課の(當時未だ部と稱せず)分掌に歸せしめたりしか税關法及税  
 關規則の施行後に於ても一般の監視事務は從來と異なるどころなきを以て單に監吏監吏補心得書に  
 據りて其事務を執れり然るに二十六年税關分課規程の改正によりて更らに監視課を監視部と改め之  
 と同時に監視部に屬する處務細則を頒てり

監視部

第一條 監視部ニ本部及海務係陸務係貨物係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム  
 第二條 本部ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ  
 第三條 海陸各監區ヲ巡視シ監吏補ノ勤怠ヲ監察シ輸出入貨物ノ陸揚船積諸船舶及内外諸解艇ニ  
 關スル取締ヲ爲スヘシ

第二章 分課事務



- 第四條 入港船舶ノ來意ヲ尋問シ船籍及噸數尺度ヲ調査シ其他要件ヲ尋問簿ニ登記セシメ番號ヲ附シテ之ヲ關係ノ各課ニ通知スヘシ
- 第五條 條約書中緊要ノ條款及港内ノ慣行等ヲ船長ニ示スヘシ
- 第六條 關外ヨリ陸揚船積ノ特許ヲ得タル貨物監視ノ爲メ監吏補ヲ派出セシムヘシ
- 第七條 密商脱稅及國禁物ヲ發見シ又ハ密商脱稅品及ヒ國禁物ナリト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ其他成規ニ違犯シタルモノアルトキハ部長ニ通知シ部長ハ其事由ヲ審案シテ關長ニ具申スヘシ
- 第八條 解船及沖商業取締規則ノ違犯者アルトキハ部長ニ通知シ部長ハ之ヲ告發シテ其旨關長ヘ具申スヘシ
- 第九條 本關管轄區域内ニ於ケル船舶ノ難破及寄港密商等ニ關スル取締ヲナスヘシ
- 第十條 本關附屬船ノ取締及水火夫ノ勤務ニ關シ指揮ヲ爲スヘシ
- 第十一條 旅具提携品自用品食及料品ヲ検査シ課稅外ノモノハ檢印若クハ證票ヲ附シテ通關ヲ許可スヘシ
- 第十二條 輸出入無検査品ノ通關ヲ許可スヘシ
- 第十三條 沿海通航船ノ尋問ヲ爲シ本船ニ關スル諸願書ヲ受理シ及其回漕貨物ノ目表ヲ調製スヘシ
- 第十四條 解船及沖商業ニ關スル願書ヲ受理シ許可ノ檢印ヲ與ヘ又號旗ヘ檢印スヘシ
- 第十五條 輸出入船卸高ト積荷目録トヲ對照調査シ悉皆卸濟ノ上關係ノ課ヘ通報スヘシ
- 第十六條 沿海通航船ヲ以輸入未濟ノ貨物ヲ他港ヘ回漕スル免許ヲ與ヘタルトキハ船會社ヨリ其貨物ノ目録ヲ徵シ別ニ通知書ヲ添ヘ仕向港稅關ニ送付スヘシ

- 第十七條 監吏補ノ勤怠功過ヲ觀察シ賞罰例ニ依リ之ヲ擬定シ關長ニ具申スヘシ
- 第十八條 監視部日誌ヲ調製スヘシ
- 第十九條 部務執行ノ成績及監吏補ノ勤怠年表ヲ調製シ關長ニ提出スヘシ
- 第二十條 内外船舶尋問簿同扣簿ヲ調査シ部務必要ノ諸規則ヲ類纂シ及内外人民ノ諸願届ヲ類別保管スヘシ
- 第二十一條 出港船舶ノ報告ヲ關係ノ課ヘ通知スヘシ
- 第二十二條 内外航資格變換ノ船アルトキハ船内ヲ調査シ之ヲ検査調ニ通知スヘシ
- 第二十三條 内國郵船入港手數前貨物ヲ解船ヘ假卸スルヲ許可スヘシ
- 第二十四條 船舶船口ノ個所ヲ精査シ鎖鑰封緘圖ヲ調製スヘシ
- 第二十五條 船舶船口封緘開披ノ際必ス之ニ臨監スヘシ
- 第二十六條 船舶船口封緘免除願ヲ許可シ監吏補ヲ乘監セシムヘシ
- 第二十七條 船舶船口ノ鎖鑰封緘ヲ毀損スルコトアラハ其實況ヲ審査シ船長ヨリ事由書ヲ徵シテ之ヲ部長ニ報シ部長ハ其事由ヲ審案シテ關長ニ具申スヘシ
- 第二十八條 沖商業者ノ號旗鑑札ヲ調査スヘシ
- 第二十九條 海務係ハ左ノ條項ニ依リテ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三十條 各船舶ニ乘監シ及海上ヲ巡視スヘシ
- 第三十一條 貨物ノ船卸船積及船移共總テ免狀ニ照應シ船積品ノ檢印ヲ閱シ手簿ニ記シテ許可スヘシ
- 第三十二條 船舶船口封緘ノ開鎖ヲ爲シ之カ毀損アルトキハ實況ヲ精査シテ速ニ部長ニ通知スヘシ
- 第三十三條 爆發品ヲ搭載シ又ハ搭載セントスル船舶ノ港外船卸ヲ監視スヘシ



第卅四條 密商脱税并國禁物ヲ看破シタルトキハ本品ヲ押獲シ其他成規ニ違反ノモノアルトキハ直ニ部長ニ通知スヘシ

第卅五條 輸入提携品へ附票ヲ與へ船卸ヲ許可スヘシ

第卅六條 輸出提携品ハ其附票ニ照シテ船積ヲ許可スヘシ

第卅七條 陸務係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第卅八條 各監區ヲ監守シ及陸上ヲ巡視シ上屋并門戸ノ鎖鑰ヲ監守スヘシ

第卅九條 輸出入貨物ノ免狀并檢印ノ有無ヲ調査シ手簿ニ記シテ通關ヲ許可スヘシ

第四十條 船用品又ハ食料品及沖商業品中課税外物品ノ檢査ヲ爲シ通關ヲ許可スヘシ

第四十一條 閉關中前條ノ物品中ニ有税品ト認ムルモノアルトキハ開關ノトキ迄之ヲ監視スヘシ

第四十二條 陸揚旅具ハ海務係ノ附票ニ照シテ貨物係へ送附セシメ船積旅具ハ貨物係調査濟ノ證アルモノハ放許スヘシ

第四十三條 密商脱税及國禁物ヲ看破シタルトキハ之ヲ差押へ其他成規ニ違反ノモノアルトキハ直ニ部長ニ通知スヘシ

第四十四條 關内及近傍ニ失火アルトキハ本部ニ急報シ防拒ヲ爲スヘシ

第四十五條 關内ノ電燈ニ異狀アルトキハ本部ニ急報シ防拒ヲ爲スヘシ

第四十六條 關内ニ出入スル車馬及荷役人夫ノ取締ヲ爲スヘシ

第四十七條 貨物係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第四十八條 輸入貨物ノ記號番號個數上屋入日時等ヲ調査シテ記録スヘシ

第四十九條 定規場所外陸揚船積特許ノ貨物及揮發物爆發物檢印ノ爲メ關外へ出張スヘシ

第五十條 上屋内外ニアル貨物ノ位置ヲ整理シ若シ異狀ヲ發見シタルトキハ之ヲ部長ニ報告スヘシ

第五十一條 輸出入貨物ハ願書及免狀ニ對照シ檢印ヲ爲シ出入通關ノ證票ト爲スヘシ

第五十二條 舁船内ニ於テ檢査免許ノ貨物ハ其舁船内ニテ之ニ檢印スヘシ

第五十三條 獸類其他檢印シ難キ貨物ニハ檢印ノ代證ヲ付スヘシ

第五十四條 輸出ノ爲メ豫メ檢査ヲ受ケタル見本品ニシテ課税外ノモノハ檢印ノ後封印ヲ施シ關外ニ引取又ハ他ノ波止場ニ運送スルコトヲ許可スヘシ

第五十五條 起重品ノ借用願ヲ許可スヘシ

第五十六條 陸揚貨物上屋規則ノ規定ヲ過クルモノハ倉庫課へ通知スヘシ

第五十七條 輸出入貨物種類員數記號番號噸數調查簿免狀控簿等ヲ整理保存スヘシ

第五十八條 輸出入無檢査品ノ通關ヲ許可スヘシ

第五十九條 船用品ヲ檢査シテ其船積願ヲ許可スヘシ

第六十條 直許ノ輸入見本品ハ積荷目録ニ詳記スヘシ

第六十一條 輸出入自用品食料品船用品及旅具提携品ヲ調査シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第六十二條 閉關中輸入無稅畜類ノ假通關願ヲ許可スヘシ

後三十一年四月廿六日先きの處務細則を廢し更らに監視部に屬する規程を示せり

第十三條 監視部ニ總務係、貨物係、海務係、及陸務係ヲ置ク

第十四條 總務係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一 外航船舶ノ尋問及檢査

二 内航船舶ニ關スル諸願届書ノ取扱

三 貨物積卸特許追願ノ取扱



第三章 分課事務

- 四 提携品及船用品ノ取扱
  - 五 海陸ノ巡視
  - 六 船口ノ封鎖及開鎖ノ立會
  - 七 舢舨ノ取締
  - 八 冲商業ノ取締
  - 九 部員ノ監督
  - 十 監吏補賞罰ニ關スル取扱
  - 十一 税關構内車馬人夫ノ取締
  - 十二 税關所屬船及水夫ノ取締
  - 十三 火災其他異常ノ際ニ於ケル取扱
  - 十四 外航船舶ノ漂流難破并未條約國ニ關スル取扱
  - 十五 監視部諸表ノ調製
  - 十六 内航船ノ船籍證書保管
  - 十七 監吏補被服ノ取締
  - 十八 防火器具ノ管理
  - 十九 漁業獎勵法ニ依ル船舶發着ノ證明
- 第十五條 貨物係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
- 一 輸出入貨物ノ記號、番號、及個數ノ調査
  - 二 貨物ノ陸揚并船積ニ關スル取扱
  - 三 輸出入貨物ニ關スル諸免狀ノ處理

- 四 輸出入貨物檢印ノ取扱
  - 五 輸出入品帳簿ノ記入
  - 六 上屋内外貨物ノ整理
  - 七 危險物藏置場所ノ指定
  - 八 爆發物港外積卸ノ監視
  - 九 押印夫運搬夫ノ指揮監督
- 第十六條 海務係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
- 一 船舶ノ乘監
  - 二 船卸、船積及船移貨物ノ取扱并各免狀ノ處理
  - 三 提携品及船用品附箋ノ受授
  - 四 船口ノ封鎖及開鎖
  - 五 水上ノ巡視
  - 六 内航船ノ尋問
  - 七 船積帳ノ記入及整理
  - 八 舢舨號旗ノ調査
  - 九 出入船舶ノ監視
- 第十七條 陸務係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
- 一 監區ノ監視
  - 二 門戶ノ監守
  - 三 輸出入禁制品出入ノ監視

第二章 分課事務



第二章 分課事務

四 旅具携携品ノ調査

二十八、吏員の配置 曩きに監吏監吏補心得書の示すところに據れば監視官吏の部署を定め本課及び海務陸務の配置に就かしめたるも新たに監視部の分掌を定むると共に新たに貨物係を置く等監視事務の上に一段の擴張を爲せり試みに當時の監視官吏の配置を示せば左の如し

大阪税關監視部吏員配置明細書 (△ハ兼務) (廿八年調査)

監視本部	一部長	税關兼稅關監吏	△一人	但晝間毎日勤務
	一神戸税關在勤ニシテ大阪税關監吏ヲ兼ヌル者		△一人	同上
	一巡察兼部長補助	監吏	一人	同上
	一本部詰(本部ニ服務シテ監吏ナラズ)	監吏補	二人	但一名ツ、晝夜隔日勤務
	一本部詰補助(陸海ヲ巡視ス)	同	一人	夜間毎日勤務
天保町支部	一主任	監吏	△一人	但晝間毎日勤務
	一支部詰(陸海ヲ巡視ス)	監吏補	二人	但一人ツ、晝夜隔日勤務
海務係	一主任	監吏	△一人	但一名ツ、晝夜隔日勤務
	一海上巡回	監吏補	二人	但晝四名夜二名ノ割合
	一商船乘監	同	六人	但一名ツ、晝夜隔日勤務
	一乘監豫備	同	△二人	
	一四日市出張所豫備	同	△一人	

陸務係

一主任	監吏	△一人	但晝間毎日勤務
一波止場監守	監吏補	四人	但二名ツ、晝夜隔日勤務
一主任	監吏補	一人	但晝間毎日勤務
一補助	稅關屬	一人	
一検査課補助	監吏補	一人	晝間毎日勤務

以上

二十九、執務規定の配布 三十一年七月監視部分掌規程に基き此月二十二日を以て監視上各執務規程を配布せり 一、各監所執務規定 二、監船員執務規定 三、水上巡回執務規定 四、貨物係執務規定 五、水陸巡察規定 六、船内検査手續等とす今左に順次之を示さん

一、各監所執務規定

東波止場監所

- 第一條 本監所監視位置ハ本部以東構内全體及波止場一圓トシ其本位ヲ正南門南側トス
- 第二條 本監所監視員ハ監區内ヲ巡視シ密商稅禁制品ノ出入其他犯則違例ニ注意シ上屋内外貨物ノ窃取ヲ防遏スルモノトス
- 第三條 東波止場ハ専ラ輸入貨物ノ陸揚上屋入等ニ設備シタル場所ナルヲ以テ若シ輸出貨物ヲ構内ニ搬入セントスルモノアレハ懇ロニ諭シ之ヲ西波止場ニ致サシムヘシ
- 但特許セシモノハ此限ニ非ス

第二章 分課事務



- 第四條 輸入手數濟貨物ヲ引取ラントスルトキハ每個ノ檢印ヲ點檢シテ放許ス可シ若シ檢印ナキモノアラトキハ現品ヲ差押ヘ監吏ニ具申ス可シ
- 第五條 輸入手數濟貨物中檢印ヲ押捺シカタキモノ若クハ多數ニシテ載車ノ儘檢印ヲ點檢シカタキモノハ檢印代證又ハ每個點檢證ニヨリ記號品種個數及貨主ノ氏名等ヲ調査シ手簿ニ記シテ放許シ其證票ハ領收シ置キ皆濟ノ後本部ニ差出ス可シ
- 第六條 輸入手數濟貨物中ニ手數未濟ノ貨物ヲ混淆シ又ハ無手數ノ貨物ヲ構外ニ運搬セントスルモノアラハ之ヲ差止メ監吏ヘ具申ス可シ
- 第七條 輸入手數濟貨物ヲ船ニテ引取ラントスルモノアラハ本部ノ海路引取證ニ照シ記號品種個數及貨主ノ氏名等ヲ手簿ニ記シ檢印又ハ檢印代證ヲ檢シテ之ヲ放許シ其證票ハ領收シ置キ皆濟ノ後本部ニ差出ス可シ
- 第八條 誤テ陸揚シタル手數未濟輸入貨物ヲ本船ヘ積戻サントスルモノアラハ貨物係ノ積戻證ニ照シ第七條ノ如ク手簿ニ記シテ解積ヲ許シ該證ニハ認印ヲ押捺シ扱人若クハ解船夫ヲシテ本船乘監員ニ致サシム可シ
- 第九條 輸入手數濟貨物ヲ本船ヘ積戻サントスルモノアラハ檢査課ヨリ發スル再輸出免狀ニ捺セシ貨物係ノ認印ヲ確認シ第七條ノ如ク手簿ニ記シ解積ヲ許シ該免狀ニ認印ヲ押捺シ扱人若クハ解船夫ヲシテ本船乘監員ニ致サシム可シ
- 第十條 手數未濟貨物ヲ軍艦用品トシテ船積セントスルモノアラハ檢査課ヨリ發スル許證ニ貨物係ノ押捺セシ認印ヲ確認シ之ヲ領收シテ第七條ノ如ク手簿ニ記シ解積ヲ許シ該許證ハ追テ本部ニ差出ス可シ
- 第十一條 休日又ハ成規ノ時間外ニ特許ヲ得スシテ荷役ヲ爲サントスルモノアラハ直チニ之ヲ制止ス可シ

- 止ス可シ
- 第十二條 日没又ハ臨時荷役ヲ終リタルトキハ上屋各扉ノ閉鎖ニ注意シ人夫ハ悉皆出門セシム可シ
- 第十三條 構内ニ出入スル人夫ニハ其組合ノ取締ヨリ鑑札ヲ交付スルヲ以テ之ヲ携帯セサルモノ及夜荷役人夫ノ夜鑑札ヲ携帯セサルモノハ直ニ關外ニ出ス可シ尤モ貨主ノ自ラ雇來リシ事實明瞭ナルモノハ此限ニ非ス
- 第十四條 馬車荷車等ノ雜沓ヲ制止シ貨物運搬ノ便宜ヲ與フ可シ
- 第十五條 日没ノ際其監區内ニアル貨物ヲ點檢シ其記號品種個數位置等ヲ手簿ニ記シ置キ翌朝之カ檢閱ノ便ニ供ス可シ
- 第十六條 構内ニ於テ喫烟スルモノアラハ懇ロニ禁止ノ旨ヲ諭示シテ制止ス可シ若シ聽從セサルトキハ其氏名ヲ尋子之ヲ監吏ニ具申ス可シ
- 第十七條 輸出入貨物中鐵葉其他修繕等ノ爲メ蠟付ヲナシ又ハ封蠟ヲ施ス等ノ場合火器ヲ用ユルモノハ必ス指定ノ場所ニ於テナサシムヘシ
- 第十八條 特許ヲ得テ輸出貨物ヲ解積セントスルトキハ每個檢印ヲ點檢シ第七條ノ如ク記號品種個數貨主ノ氏名等ヲ手簿ニ記スヘシ
- 第十九條 輸入貨物中小量ノ部分ヲ見本品トシテ取出サントシ未納稅品ナレバ査定係ノ許證ヲ認メ稅濟品若クハ無稅品ナレハ貨物係ノ許證ヲ認メテ放許ス可シ
- 第二十條 輸入金銀貨幣紙幣等陸揚以後手數完了マテノ間貨主自家ニ之ヲ保監スルコトヲ特許シ貨物係ニ於テ施封シタルモノハ其封印ヲ確認シテ放許シ記號品種及貨主ノ氏名等ハ手簿ニ



記入シテ次番者ニ申送り追テ手數履行ノ爲メ再ヒ持來ルトキハ其旨手簿ニ記ス可シ  
第廿一條 陸揚セシ旅具提携品及船用品等ハ乘監者ヨリ發スル附票ニ照シテ個數ヲ調査シ旅具檢査係ニ致サシメ檢査済ノ證アルモノハ放許シ又船積ス可キ同品モ同係ニ致シ檢査済ノ證アルモノハ船積ヲ許ス可シ

西波止場監所

第廿二條 本監所監視位置ハ本關構内全体及波止場一圓トス  
第廿三條 本監所監視員ハ第二條ノ規定ニ據リ諸般ノ取締ヲナス可シ  
第廿四條 西波止場ハ専ラ輸出貨物ノ上屋入船積等ニ設備シタル場所ナレハ輸入貨物ハ東波止場ニ致サンメ當所ニ陸揚スルヲ許ス可カラズ但特許セシモノハ此限ニアラス  
第廿五條 輸出手數濟貨物ヲ船積セントスルトキハ每個ノ檢印ヲ點檢シ第七條ノ如ク記號個數品種及貨主ノ氏名等ヲ手簿ニ記シテ放許ス可シ若シ檢印ナキモノアルトキハ現品ヲ差押ヘ監吏ニ具申スヘシ

第廿六條 輸出手數濟貨物中ニ手數未濟ノ貨物ヲ混淆シテ船積セントスルモノアラハ之ヲ差止メ監吏ニ具申ス可シ手數未濟品ノミナルトキモ亦同シ

第廿七條 輸出手數濟貨物ニシテ檢印ヲ押捺シ難キモノハ貨物係ノ檢印代證ヲ點檢シ第七條ノ如ク手簿ニ記シテ船積ヲ許シ該證ニ認印ヲ押捺シ扱人又ハ船積夫ヲシテ本船乘監者ニ致サシムヘシ

第廿八條 輸出貨物中小量ノ部分ヲ見本品トシテ取出サントスルトキハ貨物係ノ許證ヲ認メタル上放許ス可シ

第廿九條 輸出金銀貨幣紙幣等手數濟後船積マテ貨主自家ニ之ヲ保監スルコトヲ特許シ貨物係ニ

於テ施封シタルモノハ其封印ヲ確認シテ放許シ記號個數品種及貨主ノ氏名等手簿ニ記入シテ次番者ニ申送り追テ船積ノ爲メ持來ルトキハ其旨手簿ニ記ス可シ

第三十條 誤テ船積出シ又ハ破損過剩其他本船ニ於テ船積セサル等ニ因リ積戻リタルモノハ之ニ對スル免狀附箋ハ貨物係ニ致サシメ現品ハ直ニ陸揚セシム可シ

第卅一條 成規外時間ノ荷役、上屋各扉ノ閉鎖、構内人夫車馬ノ取締、喫烟、火器ノ使用、日没時監區内貨物ノ點檢等ハ第十一條以下第十七條迄ノ諸例ニ依リ處理ス可シ

第卅二條 本關所屬ニシテ商賈ニ貸與シアル倉庫ニ出入ノ貨物ハ平日休日ノ別ナク之カ構内通過ヲ許シ輸出入貨物ト混淆紛雜セサル様監視シ同品ノ陸揚船積ハ一切許ス可カラズ但特許アルモノハ此限ニ非ス

天保町監所

第卅三條 本監所監區ハ湊屋新田以西ノ安治川口、沖合及其各沿岸トス

第卅四條 本監所監視員ハ海務係監吏補及水夫ヲ指揮監督シ又常ニ監區ヲ巡回シ第二條ノ主旨ニ遵ヒ輸出入貨物及旅具提携品ヲ監視ス可シ

第卅五條 外國船外國通航内國船及沿海通航船ヲ尋問シ又其出港ヲ認メタルトキハ其都度本部ニ報告ス可シ

第卅六條 船舶ノ船内檢査ヲナストキハ時宜ニ依リ水上巡回員又ハ乘監豫備員ヲシテ補助セシメ船内檢査手續ニヨリ檢査ヲ執行ス可シ

第卅七條 所屬關船ノ取扱ニ注意シ船具ノ毀損散失セサル様水夫ヲ指揮シ修理新調スヘキモノハ之カ請求ノ手續ヲナス可シ

第卅八條 各船舶艙口封鎖及解除ノ際ハ必ス之ニ立會其精粗ニ注意ス可シ



第卅九條 前條ノ船舶艙口封鎖ヲ破毀シタルハ現狀及時刻ヲ尋問シ直ニ之ヲ監吏ニ報告ス可シ

第四十條 各艙口封鎖圖ヲ調製シ以テ施封ノ便ニ供ス可シ

第四十一條 艙口封鎖用具ノ整理保管ヲナスヘシ

第四十二條 水上巡回員ハ本務ノ側本關所屬火藥庫ヲ巡檢ス可シ

二、監船員執務規程

第一條 監船員ハ外國船及外國通航内國船ハ成規ニ從テ乘監シ其位置ハ本船甲板上下シ監區ハ船

内一圓及其船ノ周圍トス

第二條 監船員ハ乘監中常ニ監區内ヲ監視シ貨物及船用品旅具提携品并ニ諸人ノ出入ニ注意スヘ

シ

第三條 監船員ハ乘監中專ラ左ノ事項ヲ視察シ直ニ處理シ得可キモノハ之ヲ執行シ然ラサルモノ

ハ之ヲ海上巡察又ハ本部若クハ天保町監所ヘ報告ス可シ

一 免狀ヲ受ケスシテ貨物ノ積卸又ハ船移ヲナスモノナキヤ否

二 密商脱稅其他犯則若クハ其幫助ヲナスモノナキヤ否

三 船用ニ供スル定量以外ノ阿片ヲ有スルモノナキヤ否

四 入出港届ヲ怠ルモノナキヤ否

五 成規ノ場所外ニテ貨物ヲ揚卸スルモノナキヤ否

六 舁船夫及沖人足ニ於テ貨物取扱上弊害ナキヤ否

七 外航内國船ニ阿片及其器具ヲ有スルモノナキヤ否

八 輸出入禁制品ヲ積卸スルモノナキヤ否

九 舁船及沖商業規則違反ノモノナキヤ否

十 艙口封印ニ異狀ナキヤ否

第四條 船卸貨物ハ陸揚免狀ニ照シテ之ヲ許シ本船名記號番號品種個數貨主ノ氏名舁船番號ヲ手簿ニ記入シ皆卸シハ本免狀裏面ニ其旨ヲ記載シ捺印シテ貨主ニ返附シ内卸控簿ニ記入シテ内卸免狀ヲ附與シ本免狀ヲ預リ置キ之ニ裏書ヲナス可シ又積積貨物モ同上ノ例ニ倣ヒ輸出免狀ニ照シ皆積ハ本免狀ヲ貨主ニ返附シ内積ハ貨物係ヨリ監船員ニ向ケ發スル内積證ニ照シテ船積セシムト雖モ本船ヘ運搬シタル貨物中内積トナリシモノハ再ヒ積入ノ有無ヲ確メ歸部ノ上孰レモ監吏ニ申告ス可シ

但沿海通航船ヲ以テ回漕スル輸入手數未濟貨物ノ積卸ハ本條ノ例ニ依リ處理ス可シ

第五條 内外軍艦及其附屬船ヨリ本船ヘ又ハ本船ヨリ内外軍艦及其附屬船ヘ船移セントスル貨物ハ其品種個數記號番號艦名等ヲ手簿ニ記載シテ放許シ歸部ノ上監吏ヘ申告ス可シ但軍人ニ屬スル提携品モ之ニ準シテ處理ス可シ

第六條 積卸貨物中記號番號個數品種等免狀ニ符合セサルモノハ積卸ヲ許ス可カラ然レトモ若シ免狀ノ誤謬タルコト明瞭ナルモノハ之レカ取扱ヲナシ置キ本部若クハ天保町監所ヘ報告ス可シ

第七條 無免狀ニテ貨物ノ積卸ヲナサントスルモノアラハ停止シ其手數ヲ經サシム可シ若シ説諭ヲ聽カス擅ニ積卸ヲナスモノアラハ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ヘ急報ス可シ

第八條 旅具提携品中商品ト認ムルモノアルトキハ「ビルヲフヒーラング」ノ有無ヲ調査シ之ヲ有スルモノハ陸揚免狀ヲ得サシ然ラサル者ハ許票ニ其旨ヲ記シテ附與シ第四條ノ如ク手簿ニ記ス可シ又船中不用品又ハ乗組員ノ委托物品ニシテ多量ナルモノハ陸揚免狀ヲ得タル後ニアラサレハ船卸ヲ許ス可カラス



- 第九條 船積ス可キ貨物ハ每個手數濟ノ檢印又ハ檢印代證ヲ點檢シテ許可ス可シ其證ナキ者ハ船積ヲ止メ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ヘ報告スヘシ
- 第十條 船積ス可キ船用品及旅具提携品ハ當該者ノ許票アルモノハ之ヲ許シ若シ其證ナキモノハ解船夫等ニ就キ出所ヲ尋問シ積戻ノ上檢査ヲ受ケシム可シ
- 第十一條 船積貨物ハ甲船ニ於テ記號番號品種個數等ヲ免狀ニ照シ之ニ裏書ヲナシ認印ヲナシ放許ス可シ又乙船ニ於テハ該裏書ニ照シテ積入ヲ許シ免狀ニ裏書ヲナシ認印ヲ捺シテ貨主ニ返附シ手簿ニハ甲船名又ハ乙船名及各其入港番號ヲ明記シ輸出入貨物ト區別シテ記入ス可シ
- 第十二條 他港ヘ陸揚ス可キヲ誤テ陸上シタル輸入貨物ノ積戻ハ貨物係ノ許票ニ照シテ記號番號品種個數等四條ノ如ク手簿ニ記シ船積ヲ許ス可シ
- 第十三條 制規ノ時間外特許ヲ得スシテ貨物ノ積卸ヲナスモノ又ハ入港手數前及出港手數後ニ特許ヲ受ケス貨物ノ積卸ヲナスモノハ制止シ監吏ヘ報告ス可シ但出港手數前許可ヲ受ケタル貨物ハ出港手數後ト雖モ積卸ヲ許ス可シ
- 第十四條 船船ノ艙口ヲ封鎖開除スルハ監船員ノ任ニシテ日出前ニ開封シ日没後ニ封鎖スルモノトス故ニ出務ノ際封鎖圖ヲ熟視シ手簿ニ記載シアル申繼ニ照シ艙内ニ通スル口々ヲ精覈調査シテ施封ス可シ但封鎖及解除ノ際ハ船司若クハ代理人ヲシテ立會又ハ點檢セシム可シ
- 第十五條 前條ノ船船艙口封鎖ヲ破毀シタルハ臨監者ニ報告シ現狀及之ヲ認タル時刻ヲ確査シ置ク可シ
- 第十六條 艙口封鎖ノ際豫メ貨物積在位置ヲ視察シ破封事件ノ參考ニ供スルヲ要ス又貨物ノ艙外ニアルモノハ之ヲ艙内ニ運ハシム可シ若シ止ムヲ得サル物品アラハ其所ニ就テ施封スルカ又ハ船司ヨリ證明書ヲ徵スルカ臨監者ニ議シテ之ヲ處理ス可シ

- 第十七條 乘監中本船出港手數濟トナルカ或ハ出帆ノ準備ヲナスモノアラハ出帆時刻ヲ船司又ハ士官ニ尋問シ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ヘ報告ス可シ
- 第十八條 船内ニ於テ非常ノ事故アルカ又ハ船舶ノ危険アルヲ認知セハ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ニ急報ス可シ
- 第十九條 試運轉若クハ困難船隻船等ノ許可ヲ得テ港外へ出ル船舶ノ乗組員ハ途中不開港場へ立寄ルヲ許ス可カラス
- 第二十條 船内檢査ヲ要スル船舶アルトキハ船舶檢査手續ニヨリ檢査ス可シ
- 第二十一條 輕荷又ハ塵灰等ヲ港内へ投棄セントスルモノアラハ之ヲ説諭シ陸上若クハ港外へ棄テシム可シ
- 第二十二條 乘監員交代又ハ下船ノ際ハ乘監中處理セシ事項等ヲ詳細手簿ニ記入認印ヲナシ次直者へ引繼クカ又ハ歸部ノ上監吏ニ差出ス可シ
- 第二十三條 火藥搭載船許可ヲ得港外ニテ之ヲ船卸シタルトキハ其解船ノ碇繫場或ハ陸揚所ヲ確メ歸署ノ上監吏ヘ申告ス可シ
- 第二十四條 積荷目録拔書ヲ送付セシキハ必ラス其物品ノ所在ニ就キテ照合シ船卸セントキハ其旨ヲ該目録及手簿ニ記載捺印シ歸部ノ上監吏ニ差出ス可シ
- 第二十五條 監船員ハ監吏ノ命ニヨリ領事館又ハ商館ニ就キ必要ノ事項ヲ調査スルコトアル可シ
- 第二十六條 各自取ノ荷物ヲ船卸センキハ歸部ノ上必ス其記號個數ヲ監吏ニ申告ス可シ
- 三、水上巡回執務規程
- 第一條 水上巡回員ハ成規ノ時間中港内ヲ巡回シテ左ノ事項ヲ視察シ直ニ處理ス可キモノハ之ヲ處理シ然ラサルモノハ監吏ニ報告ス可シ



第一外國船及外航内國船沿海通航船其他解船内外人所有船等ニシテ密商脱稅或ハ之カ幫助ヲナスモノナキヤ否

第二輸出入貨物ヲ窃盜スルモノナキヤ否

第三解船夫冲商業人ノ犯則違令又ハ其舉動ニ不審ノ廉ナキヤ否

第四碇船船名位置及貨物搭載解船ノ繫泊處ヲ知了シ之カ異狀ナキヤ否

第五内外船舶規定ノ時間内ニ入出港手數ヲ怠ルモノナキヤ否

第二條 外國船及外航内國船ノ入港セントスルヲ認ムルトキハ直チニ之ヲ監吏ニ報告ス可シ

第三條 前條ノ船舶出港セントスルハ豫メ其出港手數ノ濟否ヲ了知シ置キ迎船ノ來ラサル場合ニハ乘監者ヲ下船セシメ之ヲ監吏ニ報告ス可シ

第四條 除監ノ船舶ニ於テ荷役ヲ始ムルハ之ヲ監視シ直ニ監吏ニ報告シテ其指揮ヲ受ク可シ

第五條 成規時間外ニ特許ヲ受ケスシテ貨物ヲ積卸スルモノ又ハ入港手數前及出港手數後ニ特許ヲ受ケスシテ貨物積卸ヲナスモノアラハ之ヲ制止シ監吏ニ報告ス可シ

但出港手數後ニ於テ手數濟ノ貨物及船用品ヲ船積スルモノハ此限ニアラス

第六條 沿海通航船ノ出入ヲ監視シ其入港シタルハ直ニ之カ尋問ヲナシ出港シタル時ハ時刻ヲ手簿ニ記載シ置キ歸部ノ上帳簿へ謄寫ス可シ但内外國軍艦ハ其國名及入出港時刻ヲ記載ス可シ

第七條 臨時發生ノ事件若クハ事務上ニ就キ監船員ヨリ援助又ハ指示ヲ求ムルハ之ヲ處理シ或ハ監吏ニ報告スヘシ

第八條 船内検査ヲナス船舶アルハ監吏ノ指揮ニ從ヒ普通巡察員ヲ補助シ船内検査手續ニヨリ検査ヲ行フモノトス

第九條 監吏ノ指揮ニ從ヒ本部事務ヲ補助スルコトアル可シ

第十條 巡回セシ場所及ヒ時刻其他處理セシ事故ヲ巡回簿ニ記載ス可シ

第十一條 成規時間外ニ貨物積卸特許ヲ受ケタルモノアルハ監吏ノ命ニ依リ之ヲ乘監員ニ報告セシムルコトアル可シ

第十二條 他港稅關若クハ其支署ニ於テ追テ外國行船ニ資格ヲ變更シ併テ其搭載貨物ノ輸出手數ヲ爲スノ豫定ヲ以テ外國輸送貨物ヲ船積スル船舶アルトキハ其船名船種積量船主及船長ノ氏名出帆日時貨物ノ個數品名等詳細ニ取調ヘ監吏ニ報告ス可シ

第十三條 他港稅關若クハ其支署ニ於テ已ニ内航船ニ資格ヲ變更シ併テ其搭載貨物ノ輸入手數ヲ爲シタル外國歸航船入港シタルハ稅關ヨリ附與セシ免狀證書類及事實ヲ確認スルニ必要ナル本船備付ノ記録等ヲ檢閲シ輸入手數ヲ脱漏セシ貨物ナキヤ否詳細ニ課查ヲ遂ケ監吏ニ報告ス可シ

四、貨物係執務規定

貨物係ハ上屋規則ニ從ヒ輸出入貨物ノ整理ヲ擔任シ日出日没ニ上屋并ニ各門ノ開閉ヲ掌リ上屋内外ヲ巡視シ貨物ノ取締ヲナシ火災其他非常ノ事アルハ及フ限リ豫防ヲナシ本部へ急報ス可シ

第一條 埠頭へ陸揚スル輸入貨物ハ監船員ノ裏書ヲナシタル陸揚免狀及同内卸免狀或ハ神戸稅關貨物係員若クハ海務係員ノ認許證アル大阪船送免狀及同内送免狀等ヲ受理シ其解船毎ニ該貨物ノ記號番號本船名解船番號及貨主ノ氏名上屋入日時等詳細陸揚簿ニ記入スヘシ尤モ該貨物中本港又ハ他港ノ檢印アルカ或ハ過不足アラハ免狀ノ裏面ニ其旨ヲ記入シ認印ヲナシ速ニ檢査課ノ目錄係ニ通知ス可シ

第二條 陸揚貨物ハ總テ帳簿ニ依リ廿四時間ヲ經過シタルハ記號番號包裝個數船名等貨物入庫請求簿ニ記入シ倉庫課ニ通知ス可シ



- 第三條 上屋入ノ貨物ハ錯雜セサル爲メ當該者ニ於テ豫メ其位置ヲ指定整理ス可シ又損傷貨物ヲ發見セハ記號通知書ニ記入シ置キ速ニ其旨貨主又ハ引受人ニ告知シ指定ノ場所ニ運搬セシムヘシ若シ上屋内外ノ貨物中紛失シタルモノアルハ直ニ監吏ニ申告シ監吏ヨリ部長ニ具申ス可シ
- 第四條 火藥石炭油等爆發若クハ揮發質ノ物品ハ上屋内ニ入ル、ヲ許サ、ルモノナレハ定規ノ場所ニ回漕セシム可シ又赤燐硝石水油類及危害有臭汚穢ナル物品等モ構内定規ノ場所ヘ置カシメ速ニ之ヲ引取ラシム可シ
- 第五條 埠頭ニ設置セル起重機ハ制限以内ノ噸量ニ限り揚卸ヲ許可スト雖モ若シ器械ニ損所ヲ生シタルハ其事由ヲ調査シ監吏ニ申告ス可シ
- 第六條 重量貨物或ハ石炭コークス等ノ如キ陸揚ヲナシ難キモノニテ検査課ノ許可セシモノハ解船内ニ於テ點檢シ陸揚貨物一般ノ例ニヨリ取扱フ可シ
- 第七條 時々上屋内外ヲ巡視シ貨物ノ整理取締ニ注意シ且ツ上屋ノ開閉及各門ノ開閉ヲ擔掌ス可シ
- 第八條 貨物ノ陸揚ヲ終リタルハ必ス解船内ヲ検査ス可シ
- 第九條 陸揚シタル貨物中記號番號等ヲ改正セントスルモノアルハ直ニ停止シ其理由ヲ調査シ監吏ニ申告ス可シ
- 第十條 上屋内外ニアル人夫ニ注意シ取締上不都合アルカ或ハ組合鑑札ナキモノアラハ直ニ監吏ニ報告ス可シ尤モ貨主自ラ雇來リシ事實明瞭ナルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 輸入免狀ヲ受理シタルトキハ該免狀面ト實物トヲ照合シ符合セハ押印夫ヲシテ毎個輸入檢印ヲ押捺セシメ皆許ハ其免狀面及陸揚簿ニ記入シ認印ヲ捺シ免狀ハ貨主ニ返付シ又免狀面内許ノ片ハ放許ノ都度其個數月日及時ヲ免狀ニ記入シ認印ヲナシ皆濟ノ後ハ陸揚簿ニ記入シ認

- 印ヲ捺シ免狀ハ貨主ニ返付ス可シ但免狀面ニハ何個ノ殘何個ヲ放許シテ皆濟ト記入スルヲ要ス
- 第十二條 輸入免狀ノ貨物實際不足ヲ生シ戻稅若クハ次便船ニ引取リノ爲メニ不足證明ヲ願出タルトキハ該免狀ハ検査課ノ目錄係ニ送致ス可シ
- 第十三條 假納稅引取ノ貨物ハ輸入申告書ニ検査課及徵收課主任假納稅濟ノ認印アルヲ確認シ皆濟内許ヲ輸入貨物一般ノ例ニヨリ取扱ヒ貨主ニ返付セス監吏ノ調査ヲ經テ検査課ニ送付ス可シ
- 第十四條 検査課ニ於テ検査ス可キ貨物ヲ指定シ假通關ヲ許可スルモノハ申告書ニ記載アル指定貨物ノ個數番號ト同課主任ノ認印トヲ確認シ指定以外ノ分ノミ放許ス可シ尤モ申告書ハ前條ノ如ク貨主ニ返付セス監吏ノ調査ヲ經テ検査課ヘ送付スヘシ
- 第十五條 品種ニヨリ檢印押捺シ難キモノハ監視員ニ宛テ檢印代證ヲ發シ必ス之ニ認印ヲナス可シ但該代證ハ記號番號品種個數貨主又ハ引受人ノ氏名年月日ヲ記入スルモノトス
- 第十六條 輸入貨物ノ記號番號免狀ニ符合スルモ其品種又ハ數量等ニ差異アリト認ムルトキハ精密ニ調査シ檢印ヲ停止シテ監吏ニ申告ス可シ又貨物ノ記號番號免狀ニ符合セサルモノハ鑑定課査定係若クハ検査課ニ報告シ其事由取調ノ上之ヲ許放ス可シ
- 第十七條 重量貨物又ハ石炭コークス等ノ如キ物品検査課ニ於テ許可セシモノハ其證ヲ認メタル上解船内ニテ點檢許放ス可シ
- 第十八條 公使并ニ公使館用品等無検査通關ノ通牒アルモノハ當該者其裏面ニ月日ヲ記入シ認印ヲナス等凡テ定例ノ輸入手續ニ從ヒ處理ス可シ
- 第十九條 誤テ陸揚シタル手數未濟ノ貨物又ハ貨主都合ニヨリ本船ヘ積戻サントスルトキハ願書ヲ出サシメ検査課ノ證明ヲ得船名記號等相違ナキ片ハ記號番號包裝個數等積戻簿ニ記載シ貨物積戻用紙ニ記入シ認印ヲナシ本品點檢ノ上許可シ該積戻書ハ貨主ヲシテ監船員ニ出サシム可シ



- 第二十條 手數濟輸入貨物ヲ積戻シ又ハ回漕セントスルモノハ検査課ヨリ發セシ免狀ヲ認メ輸出  
檢印ヲ押捺シテ許放スヘシ
- 第二十一條 手數未濟ノ出庫積戻及軍艦用品トシテ船積セントスル貨物ハ検査課ヨリ發出セシ免狀  
ニ照合シテ檢印代證ヲ附與シ許可スヘシ
- 第二十二條 手數未濟ノ輸入貨物ヲ沿海通航船ニテ開港間ニ回漕セントスルモノハ検査課ヨリ發セシ  
免狀ニ照シ相違ナケレハ該免狀ニ月日ヲ記シ認印ヲナシ檢印代證ヲ附與シテ許放シ検査課ニ通  
報ス可シ
- 第二十三條 輸出貨物ハ其免狀ヲ受理シ記號番號個數等實品ト照合シ符合スルモノハ輸出檢印ヲ押捺  
シ免狀面ニハ月日及時輸出控簿ニハ記號番號個數品名本船名及貨主ノ氏名等ヲ記入シ何レモ認  
印ヲナシテ放許ス可シ内許ノモノハ内積證書ヲ解船毎ニ付與シ皆濟ノ際本免狀ヲ貨主ニ返付ス可  
シ
- 第二十四條 海外へ輸出スル目的ヲ以テ神戸迄解テ以テ輸送スル手數濟貨物ヲ許放スルモノハ通常ノ  
輸出品ノ例ニ依リ取扱フ可シ
- 第二十五條 輸出貨物ノ記號番號免狀ニ符合スルモノ其品種又ハ數量等ニ差異アルヲ認知セシトキハ  
第十六條ノ例ニ據リ處理ス可シ
- 第二十六條 少量ノ船用品ヲ積出サントスルモノアルトキハ調査ノ上相當ト認ムルモノハ許票ヲ付  
與シ直ニ許放ス可シ尤モ多量ノ品ハ検査課ノ手數ヲナサシム可シ
- 第二十七條 輸出ノ爲メ上屋内ニ假入シ未タ手數ヲ爲サ、ル貨物ヲ貨主ノ都合ニヨリ引戻ヲ出願ス  
ルモノハ許票ヲ付與シテ監視員ニ出サシム可シ
- 第二十八條 輸出見本品等ノ回漕ヲ船會社ノ便船ニ托センカ爲メ關外へ運送スルヲ出願セハ些少ノ

- 品ニテ徵稅ニ關セサルモノ、如キハ之ニ封印ヲ施シ許放ス可シ尤モ徵稅ヲナス物品ハ検査課ノ  
手數ヲナサシム可シ
- 第二十九條 金銀貨幣紙幣等ノ貴重品ニシテ其輸入セシモノハ陸揚以後手數濟マテノ期間其輸出ス  
ルモノハ手數濟以後解積マテノ期間貨主自ラ之ヲ自家ニ保管スルコトヲ願出タルモノハ之ヲ許可  
ス其場合ニ於テハ現品ニ封印ヲ施シ願書ノ餘白若クハ裏面ニ「施封」ノ二字及月日時ヲ記入シ認  
印ヲナシテ之ヲ保管シ置キ追テ輸入手數又ハ解積ヲナサン爲メ再ヒ運搬シ來ルモノハ封印ヲ解「解  
封」ノ二字及月日時ヲ記入シ認印ヲ爲シ置ク可シ
- 第三十條 輸出手數濟ノ貨物ヲ貨主ノ都合ニヨリ引戻サントスルモノハ検査課ニ申告ノ取消ヲ出  
願セシメ然ル後其檢印ヲ抹消シ許票ヲ與ヘテ監視員ニ出サシム又免狀ニ記載アル船名ヲ變更セ  
ントスルモノモ同課ニ出願セシメ書改ノ後許放ス可シ
- 第三十一條 無検査通關ノ通牒アル輸出品ハ第十八條ノ例ニヨリ許放ス可シ
- 第三十二條 輸出又ハ積戻ノ爲メ上屋ニ假入タル貨物ヲ二十四時内ニ積出サ、ルモノハ第二條ノ例ニ  
ヨリ其上倉庫課へ通報ス可シ
- 第三十三條 輸出貨物ヲ水上運搬シ來リ之ヲ陸揚セントスルモノアラハ他ノ貨物ノ妨害トナラサル  
様注意シ陸揚セシムヘシ
- 第三十四條 輸出貨物手數濟ノ後本船ニ於テ悉皆積入ヲナサス其幾分ヲ積戻スルモノハ監船員ニ於テ  
免狀へ内積ノ箇數ヲ記入シ歸部ノ上監吏ニ出シ更ニ本部ヨリ送致セルヲ以テ實品ヲ點檢シ第卅  
條ノ例ニヨリ消印シ免狀ハ監吏へ送致ス可シ
- 第三十五條 輸入貨物中見本ノ爲メ少量ノ部分ヲ持歸ランコトヲ貨主ヨリ出願スルトキ手數濟若ク  
ハ無稅ノ品ナレハ許票ヲ付與シテ放許シ若シ未手數有稅品ナルトキハ鑑定課査定係ノ許證ヲ請



ハシム可シ

但輸出貨物ハ手數既済未済ノ別ナク輸入無稅品同様取扱フ可シ

五、水陸巡察規程

第一條 巡察ヲ分テ特別巡察普通巡察ノ二種トス

第二條 特別巡察ハ監吏之ヲ行ヒ普通巡察ハ本部詰監吏補及天保町監所詰監吏補之ヲ行フ

但特別巡察ハ普通巡察ノ事項ヲモ檢案スルモノトス

第三條 巡察中各船乗監者ヨリ事故ノ報告ヲ得ハ直ニ其船ニ到リ之ヲ處辨スヘシ

第四條 第五條中第二第三第四第七第八ノ場合ニ於テ相當ノ處理ヲナシ若クハ注意ヲ惹クカ如キ

モ他ノ見聞ニ觸レサルコトヲ勉ム可シ

第五條 巡察員ハ晝夜適宜ノ時間ヲ刻シテ水陸ヲ巡廻シ特別巡察者ハ第一乃至第八普通巡察者ハ

第五乃至第八ノ事項ヲ視察檢案スルモノトス

第一諸規則及指令ノ行ハル、ヤ否

第二監吏補ノ行爲及服務ノ能否

第三監吏補内外人民ニ對スル措置ノ可否

第四監吏補職務上緩慢又ハ煩雜ノ爲メ人民ノ不便或ハ不取締ノ虞ナキヤ否

第五密商脫稅其他犯則違例ノ虞ナキヤ否

第六部内ニ異狀又ハ危險ノ虞ナキヤ否

第七監吏補ノ職務ニ於テ過失怠慢及命令達示ニ反スルコトナキヤ否

第八監吏補ノ服裝姿勢舉動端正ナルヤ否

第六條 特別巡察員ハ巡察中視察檢案セシ事項ノ直チニ處理ス可キモノハ之ヲ行ヒタル後部長ニ

報告シ其他ノ事項ハ總テ部長ニ具申ス可シ

第七條 貨物係ノ巡察ハ監吏ヲシテ之ヲ行ハシメ第七條ノ事項ヲ視察檢案スルモノトス

第八條 普通巡察員ハ巡察中視察檢案セシ事項ノ直チニ處理スヘキモノハ之ヲ行ヒタル後監吏ニ

報告シ其他ノ事項ハ總テ監吏ニ具申ス可シ

第九條 除監ノ船舶ニ於テ荷仕役ヲ爲サントスルモノアラハ海上巡回員ヲシテ一時監視セシメ置

キ本部へ通報ス可シ

第十條 巡察セシ場所及時刻其他處理セシ事故等ヲ巡察簿ニ監載シ毎朝部長ニ差出ス可シ

六、船内検査手續

船内検査ハ本部詰監吏若クハ天保町監所詰監吏等之ヲ執行シ本手續ニ定メタル事項ニヨリ密商脫

稅豫防ノ目的ヲ以テ船内ヲ精密ニ検査ス可キモノトス

第一條 検査ヲ執行スル船舶ハ左ノ如シ

一入港シタル船舶(宿直乘監者ナキモノニ限ル)

二貨物卸済ノ船舶

三資格變換ノ船舶

四賣買ノ船舶

五入渠上架ノ船舶

六未津川回航ノ船舶

第二條 検査ヲナス可キ要部ハ船内各室船用品貯藏所見本貯藏所其他貨物ヲ容レ得ル場所ニシテ

船司又ハ士官ヘ其旨ヲ告ケタル上検査ヲ執行ス可シ

第三條 監吏ハ其船舶ノ種類ニ由リ相當ノ検査員ヲ配付スルモノトス



但乘監員ハ毎ニ検査ヲ補助ス可シ

第四條 入港船舶アルトキハ直チニ本船ニ到リ第二條中船内ノ部分ヲ除キテ検査シ貨物又ハ見本品委託品或ハ乗組員ニ屬スルモノニシテ商品ト認ムルモノアルトキハ船司又ハ士官ニ就キ本港へ陸揚ス可キモノナルヤ否ヲ尋問シ陸揚スヘキモノハ其手續ヲ示シ其儘積在シ置クモノハ證明書ヲ徴ス可シ尤モ紙包小箱等ノ類ハ可成一室ニ集メシメ通常ノ貨物ハ船内ニ運ハシメ施封ニ便ナラシム可シ但入港船中輕荷ノミニテ貨物ナシト稱スルモノハ一應船内ヲモ検査ス可シ

第五條 税關規則第十一條ノ資格變換并ニ賣買船ハ検査課ヨリ通報アラハ監吏ハ同課ヨリ送付セラル船用品目錄ヲ検査主務員ニ交付シ直ニ本船ニ到リ検査ヲ行ハシム可シ

前項ノ命ヲ受ケタルトキハ検査主務員ハ本船ニ到リ船用品目錄ニ照合シ第二條ノ要部ヲ検査シ卸殘ノ貨物アルカ又ハ積荷目錄外ノモノアルトキハ陸揚ノ手續ヲナサシム可シ

第六條 貨物卸濟ノ船舶ハ乘監者ノ通報ニ隨ヒ検査主務員ハ直チニ本船ニ到リ船内ヲ検査シ若シ卸殘ノ貨物又ハ積荷目錄外ノモノアラハ陸揚ノ手續ヲ爲サシム可シ

第七條 修繕ノ爲メ入渠上架若クハ木津川へ回航スル船舶ハ検査課ヨリノ通報ニ隨ヒ監吏ハ検査主務員ヲシテ直チニ本船ニ到リ検査ヲ行ハシム可シ

検査主務員ハ前項ノ命ヲ受ケタルトキハ直チニ本船ヲ検査シ卸殘ノ貨物又ハ積荷目錄外ノモノアラハ陸揚ノ手續ヲ爲サシメ又乗組員ノ手荷物ヲ検査シ若シ有税ニ屬スル品アラハ假リニ税關迄陸揚セシムルカ或ハ船司ヨリ保管ノ證明書ヲ徴ス可シ

第八條 資格變換賣買船入渠上架木津川回航船ノ検査ヲ結了シタルトキハ検査主務員ハ歸部ノ上直チニ其旨ヲ監吏ニ報告シ監吏ハ之ヲ検査課へ報告ス可シ

第九條 検査主務員ハ第一條ニアル船舶ノ検査ヲ結了シタル片ハ船舶検査簿へ其旨ヲ詳記シ認印

ヲ押捺ス可シ

後三十一年二月六日更らに監視官吏執務提要进行を配布して執務上の指針を示せり

監視官吏執務提要

凡ソ監視事務ノ目的ハ關稅ニ關スル脱稅犯則ヲ防遏シ其既犯ニ在テハ之カ事實ヲ搜索查明シ其處分ノ手續ヲ履行スルニ在リ是ヲ以テ監視官吏ハ一方ニハ其主タル犯則ノ取締ヲ嚴重ニスルト同時ニ他ノ一方ニハ正實ナル納稅義務者ヲ保護シ其取引交通土ニ妨害ヲ蒙ラサシムルノ注意ナカルヘカラス因テ此ニ其執務ノ梗概ヲ舉示シ各自遵由スル所ヲ知ラシメ以テ萬一ノ失誤ナカラシムコトヲ期ス

第一監視官吏ハ上長ニ對シ恭順ヲ旨トシ職事ニ服スル忠實ニシテ假令危難ニ遭遇スルモ慎重自カラ持シ任務ノ目的ヲ達スルノ覺悟ナカルヘカラス

第二監視官吏ハ善ク其素行ヲ慎ミ職務上内外人民ニ對シテハ言語動止溫和丁寧ヲ要スト雖モ或爲メニ緩慢ニ流レ威嚴ヲ損スル等ノヲアルヘカラス

第三監視官吏ハ職務上勉メテ嚴正靜肅ヲ旨トシ假令人民ニ於テ無禮過言其他粗暴ノ舉動アルモ其職務ヲ妨害セサル以上ハ徐ニ之ヲ諭止シ彼ヲシテ反省ノ念ヲ起サシムルヲ要ス然レトモ若シ其職務ヲ妨ケ威嚴ヲ失墜スル等ニ至テハ苟モ假借スヘカラス其事情ヲ上官ニ具申シ指揮ヲ乞フヘシ

第四監視官吏ハ自己ノ職掌ヲ忽ニスヘカラサルハ勿論同僚互ニ相輔翼匡正シテ同功一体タルノ精神ヲ遺忘スヘカラス

第五監視官吏ハ一般ニ監視部長ノ監督ニ屬シ監視監區ニ於テハ其監區主任ノ監督ニ從フモノトス第六監視官吏ハ密商脱稅ニ關スル犯則其他ノ違例ヲ防止スルハ勿論尙常ニ左ノ各項ニ注意スルヲ



要ス

(一) 監区内ニ於ケル外國貿易及船舶舟車ニ關係アル營業者及既往犯則者等ノ行爲ヲ觀察スル事

(二) 輸出入貨物荷造ノ異狀アルモノヲ觀察スル事

(三) 輸出入貨物運送舟車ノ往來ヲ注視スル事

(四) 海陸交通ノ人夫及旅客旅具等ニ注意スル事

第七 監視官吏密商脱税ノ所爲ヲ發見シタルトキハ本品ヲ差押ヘ本人及關係人ノ住所氏名及物品ノ出處運搬ノ手續等ヲ詳細ニ尋問シ成ルヘク本人ヲ同伴シ本部ニ開申スヘシ其運送船客船其他行商等各其規則違犯ノ場合ニ於テモ亦本條ノ例ニ依ル

第八 監視官吏輸出入貨物又ハ官品ヲ窃取セル者ヲ取押ヘタルトキハ贓物ト共ニ犯人ヲ引致シ其旨ヲ本部ヘ具申スヘシ

第九 監視官吏密商脱税等ノ犯則者アルヲ知り又ハ之カ密告ヲ受ケタルハ速ニ之カ防遏及差押等ノ手續ヲ爲シ一面ニハ直ニ本部ニ通告スヘシ

第十 人民ノ家屋倉庫内等ニ於テ犯則ヲ發見シ若クハ之カ搜查ヲ爲ス場合ニハ成ルヘク主人若クハ主タル者ヲ立會ハシメ他日證左ノ湮滅セザランコトヲ期スヘシ

第十一 犯則物件ヲ差押ヘタルトキハ其品名個數記號等ヲ詳細ニ之ヲ查明シ令狀ヲ以テ執行シ直ニ本部又ハ監區ニ送致スヘシ若シ其物件ニシテ本部又ハ監區ヘ送致スルコト能ハサル場合ニ於テハ其占有者ニ於テ以後ノ處權ヲ行フヘカラサル旨ヲ告知シ十分ノ警戒ヲ加ヘ置クヘシ

第十二 前條若シ送致シカタクキ場合ニ在テハ尙保全ニ掛念アルハ相當ノ監守者ヲ附スルカ若クハ警察官吏市町村吏等ニ保管ヲ委託スヘシ

第十三 活動物腐敗物若クハ危險物等ニシテ性質上送致シカタクキモノト思考スルトキハ本部又ハ監

區ニ急報シテ上官ノ指揮ヲ乞フヘシ

第十四 國禁阿片ノ密輸入品ヲ差押ヘタル場合ニハ左項ノ手續ヲ注意シテ措置スヘシ

(一) 犯者條約國ノ外國人ニシテ住所氏名分明ナラス且逃亡ノ虞アルトキハ其國領事ノ承認ヲ得テ地方警察官ニ引渡スカ又ハ領事ノ保管ニ任シ住所氏名ヲ確認シ置クヘシ

(二) 犯者内國人若クハ條約未濟國人ナレハ總テ地方警察官ニ引渡スモノトス

第十五 各監所監視員ハ其監所ヲ通過スル貨物旅客ニシテ國禁物若クハ密輸出入品ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ不審ノ旨ヲ告ケ之ヲ検査シ事實果シテ例規ノ不慣ニ出スルモノナルハ其手續ヲ示諭シ若脱税ノ構意ニ出シモノト認ムルハ本品ヲ差押ヘ若クハ現場ニ留置キ犯人ノ住所氏名ヲ調査シ本人同伴シテ本部ニ申報スヘシ

第十六 監視監區ハ其區域ヲ畫定スト雖モ若シ他ノ監區ノ區域内ニ於テ犯則ヲ發見シタルハ自他ノ區別ヲ爲サス相當ノ手續ヲ爲シ直ニ該リ監區主任ヘ引繼クヘシ

第十七 監視官吏ハ他ノ課員ヨリ職務上委嘱セララル、コトアルハ職掌上許ス限リハ之ニ應スルモノトス此場合ニ於テハ速上官ニ申報スヘシ

第十八 脱税犯則違例其他要件ニ關シ上官ヘノ報告等ハ其事件ノ發生シタル時ヨリ遅クモ二日以内ニ提出スルモノトス

但シ詳細ノ調書若クハ圖表等ニテ此日限内ニ呈出シカタクキモノハ其旨申報スヘシ

總テ報告書類ハ其係監吏又ハ監區主任ニ致シ監吏及主任ハ之ヲ部長ニ提出スルモノトス

第十九 監視區ニハ主任ノ外開閉ヲ許サ、ル書函ヲ備ヘ置キ左ノ書類等ヲ保管スヘシ

(一) 監視事務ニ必要ナル諸書類

(二) 諸書式及標本



- (三) 諸達及諸命令
- (四) 部長及監區主任其内外官吏間ニ往復セシ秘密書類及時々定ムル諸暗號
- (五) 監視區圖解

第二十各監視監區ニハ監視ニ關スル日記表ヲ備ヘ置キ左ノ事項ヲ記載捺印スヘシ

- (一) 脱税犯則違例等ノ件
- (二) 監視出務時間及主任巡回時間
- (三) 時々口頭若クハ書面ノ命令
- (四) 本部及諸官衙ト照會往復ノ件
- (五) 臨時發生ノ事故天候等

第廿一 監視官吏ノ手記スヘキ帳簿ハ式ニ從ヒ精密ニ記載スヘク若シ失誤アルヲ發見セハ速ニ訂正スルヲ要ス

第廿二 職務ニ關スル書類帳簿等ハ嚴密ニ保管シ他見ヲ避クル様注意スヘシ

第廿三 職務執行ニ關シ見聞セシ人民ノ機密若クハ官務ノ秘密ニ屬スル者ハ一切他ニ漏洩スヘカラズ

第廿四 各監視員同僚ト交代スルルハ必ス監視位置ニ於テシ且監視中事況ノ詳細ヲ申繼クヘシ何等ノ事故アルモ其位置外ニ於テ交代スルヲ許サズ

三十、旅具検査 明治二十三年以前旅具検査に關する慣行に就ては既に本史第二期(第八篇第四章參照)に於て述ふるどころの如し二十三年七月新に發布せられたる税關分課規程によりて旅具検査事務は全然監視課の手に移されたりしか降て二十八年始めて之に關する検査内規を定む

大阪税關旅具検査内規

第一

外航船へ上下スル旅客及乗組人ノ携帶スル旅具ノ検査ハ專ラ監視部ノ擔任トス

但時宜ニ依リテハ宿直員ニテ検査スルコトアルヘシ

第二

本船乗監者ヨリ提帶上陸ヲ認タル個數又ハ品名ハ當日亦ハ翌日本部へ通報スヘシ

第三

風雨ノ片天保町ヨリ直ニ上陸スル旅客ノ提帶品又ハ沖賣營業者等ニ於テ些少ノ有税品ヲ提帶スルモノアルルハ見積代價一ト口拾圓迄ハ天保町本部詰ニ於テ直ニ税金ヲ假納シ後本關へ送付スヘシ但代價拾圓以内ト雖モ商品ト認ルルハ二重税ヲ取立ヘシ

第四

見積代價拾圓以上ノ物品ヲ徵税スルルハ本部詰并ニ本關吏員ト協議ノ上評價ヲ決定スヘシ

第五

旅其中有税品アルルハ自用品又ハ商品ノ區別ヲ判別シ拾圓以上ノ商品ハ翌日開關時刻マテ留置クヘシ亦拾圓以上ト雖モ全ク自用旅具用品ト判決シタルルハ直ニ單税ヲ假納シ許放スヘシ

第六

提携スル自用品ニシテ徵税スル代價ハ凡ソ百圓ヲ限リトシ以上ノ高價品ハ自用品ト雖モ開關ノ上本手數ヲ爲サシムルモノトス

第七

有税品ト雖モ全ク自用ニ供スルモノト見認ムルルハ五圓以内ノ物品ハ免除スヘシ

以上

第二章 分課事務



第二章 分課事務

是れと同時に左の如く旅具中特に免税すべきものを示し適従するところを知らしむ

旅具中無税ニ屬スル品類

- 帽、傘、杖
- 長短杵及(スループ)ノ類 各一二個
- 旅氈、肩掛、フランクセット 各一二個
- 手巾 凡貳打
- 化粧道具 一組
- 衣服及自体粧飾品 一組
- 懷中時計及付屬品 一組
- 自用藥品
- 旅用自轉車 一個
- カメラ 一個
- 望遠鏡 一個
- 旅用食器類 一組
- 同 小寢及椅子
- 同 小兒自携ノ玩具 少許
- 同 筆紙墨 少許
- 同 飲食物 凡ソ五圓以下
- 烟草ノ已ニ使用シタル殘品包裝ヲ開キタルモノ自家職業又ハ研究ニ關シ必用携帯ノ學術用具及工
- 藝用品遠洋出漁ノトキ豫メ届ケ置キタル潜水器具漁具類

右之通確定ス

廿八年十月

大 阪 税 關

後明治三十年二月右の内規を廢して更らに検査及徵稅規定を定め爾來之によりて検査事務を執れり

監視部検査并徵稅規定

凡ソ外國旅客ノ出入及其旅具携帶品ノ検査ハ監視部内ノ一分掌ニ屬スト雖モ其實ハ關務ノ一要部ト云フモ可ナリ蓋シ來航ノ外國人ニ在テ始テ我官吏ニ接シ吏務ノ整否官民相對スルノ情態ヨリ四邊ノ事物ニ至ル迄先ツ眼ニ入ル者ハ此検査ノ時ニアリ是ヲ以テ職ヲ該務ニ執ル者ハ尤モ注意ヲ加ヘサルヘカラス然ラスンハ其過失ハ徒ニ關吏ノ聲譽ヲ損スルノミナラス時ニ延ヒテ一國ノ体面ニ關スル者ナシトセス豈慎マサルヘケンヤ本則掲クル所ノ要ハ左ノ數項ニ過キス曰ク執務慎重人ヲ遇スル懇切曰ク方正敏活事ニ臨デ果斷曰ク奸ヲ防ク嚴密曰ク課稅荷モセサル等ナリ當務者能ク其意ヲ体シ服膺忘レズ以テ職責ヲ辱シメサランコトヲ

第一條 本部検査係ハ外國出入旅客ノ狀況ニ注意シ其旅具携帶品ヲ検査ス

第二條 凡ソ検査官吏ハ左項ニ注意シ検査ヲ爲スハ敏活ニシテ粗漫ナラサルヲ要ス

第三條 検査上事務若シ他日ノ參考トモナルヘキ者アラハ其人品氏名國籍船名ヨリ往來發着ノ地名

若クハ所持品等可及的ノ記載ヲ爲シ置クヘシ

(一) 旅客ノ人体資格

(二) 總テノ場合ニ於テ有稅品ヲ有スルヤ否ヲ問フ

(三) 検査員ノ視察上必要アル場合ニハ制禁品若クハ貴重寶石類ヲ所持スルヤ否ヲ問フ

(四) 旅客ノ現ニ出頭セサル場合ニ於テハ其所有主人人名國籍及資格ノ概要等

第四條 検査ノ事務ハ左項ニ從ヒ係長豫シメ其事務ノ繁簡ヲ察シ適宜各員ヲ配當シ執務セシムヘ

第二章 分課事務



シ  
一) 常時ニ在テノ執務  
二) 入船若クハ出船ノ一ナル場合  
三) 入船出船ノ同時ナル場合  
第五條 検査係員ハ受檢貨物ノ排列并検査済否ノ區分ヲ明瞭ニシテ混雜セシメサル様指示シテ整理スヘシ

第六條 旅具提携品中有税品アルトキハ本人ヨリ有税品仕譯書ヲ提出セシメ徵税ノ手續ヲ爲スヘシ其商品ト見認ムルモノハ申告書ヲ出サシメ調書ヲ經タル後徵税スヘシ但無税品ト雖モ價格ノ高キモノ多量ナルモノ若クハ積荷目録ニ掲ゲアルモノト思料スルトキハ申告書ヲ出サシメ直許ヲ爲スヘシ

第七條 前條仕譯書等ヲ提出シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ其更正ヲ要スルモノハ本人ヲシテ之ヲ更正セシムヘシ

- (一) 記載ノ事項ニ相違ナキヤ否
- (二) 記載外ノ品物ハ本人ノ身分狀況ニ照シ相當ナリヤ否
- (三) 受檢人ニ於テ事物ノ上ニ隱蔽虚偽ノ狀況ナキヤ否

第八條 凡ソ検査ハ仕譯書提出ノ順序ニ依リ之ヲ行ヒ其成績ハ仕譯書ノ裏面ニ記載スヘシ

第九條 前條ノ調査ヲ爲シタル後係長監吏ハ係員ト共ニ其税額ヲ檢定シテ之ヲ徵收シ領收證ヲ本人ニ交付スヘシ

第十條 税額ノ檢定ハ鑑定課ニ於テ時々調査スル所ノ價格表及税目類別表ニ照シテ之ヲ爲シ係長監吏及係員ハ其檢定ノ概要ヲ仕譯書ノ裏面ニ記載シ各自表面ニ認シ之ヲ検査課ニ送付スヘシ

第十一條 検査課及鑑定課ハ前條ノ仕譯書ヲ審査シ認印ヲ捺シテ之ヲ徵收課ニ送付スヘシ但シ意見アルトキハ速ニ之ヲ係長監吏ニ通知スヘシ

第十二條 係長監吏ニ於テ鑑定課審査係ノ檢定ヲ要スルモノト思料スルトキハ之ヲ同係ニ回付シ若クハ其出務ヲ待チテ鑑定ヲ經テ徵税スヘシ

第十三條 旅具提携品中隱匿セシ物品ヲ發見セシトキハ係長ヲ經テ部長ニ報シ其處分ヲ請フヘシ

第十四條 禁制物其他贗造貨幣又ハ風俗ヲ害スル繪畫等ヲ發見シタルトキハ假リニ差押ノ手續ヲ爲スト同時ニ係長ニ報シ係長ハ部長ニ申請シ速ニ其處分ヲ爲スヘシ

第十五條 旅具提携品中彼ニ於テ他見テ憚ル如キ物品アラハ成ヘク他人ノ目ニ觸レサル様検査スヘシ

婦人所屬品検査ノ如キモ亦本條ノ精神ニ依リ成ヘク注意ヲ加フヘシ

第十六條 外國又ハ本邦外交官携帶ノ旅具提携品ハ無検査ニテ通關ヲ許シ本邦外交官ノ所屬品ニシテ携帶ニアラサルモノハ部長ノ通達ニ依リ無検査ニテ通關ヲ許スヘシ

但領事貿易事務官等ノ所屬品ハ此限ニアラス

第十七條 外國外交官所屬品ニシテ外務省ヨリ無検査通關ノ通牒アルモノハ記號個數等該通牒ニ照シ無検査通關ヲ許スヘシ

第十八條 旅具提携品ノ通關ヲ許ストキハ輸出ハ附票又ハ白票ヲ以テ許票トシ輸入ハ白票ノミヲ用キルモノトス

第十九條 旅具提携品ヲ留メ置カントスル者アルトキハ先之ヲ検査シ而シテ廿四時間ハ本人ノ責任ニ附シ之ヲ許スモ廿四時間ヲ過クルトキハ管守係ヘ報シテ入庫セシメ庫租及之ニ關スル費用ヲ拂フヘキ旨荷主ヘ示諭シ他日受授ノ證トシテ名刺又ハ他ノ證票ヲ預リ其渡方ヲ約シ置クヘシ



第二十條 碇泊諸船舶ヨリ贈答品又ハ雜品等ヲ提帶シ來リタルトキハ之ヲ検査シ有税品ハ相當ノ手續ヲ爲サシメ無税品ハ第六條ノ如ク取扱フヘシ

第廿一條 直許ヲ爲ス輸出入品ノ價額品名船名人名等ハ詳細帳簿ヘ記載シ置クヘシ輸入見本品ニシテ積荷目録中ニアルモノハ貨物係ヘ送附シ然ラサルモノハ検査ノ上之ヲ許放シ本條ノ記載ヲ爲シタル後本部ヘ通知スヘシ其徵稅スヘキモノハ相當ノ手續ヲ履マシムヘシ

第廿二條 検査官吏ハ特ニ姿勢言動ヲ正フシ其旅客ニ接スル寛厚ニシテ又威信ヲ失スヘカラス

第廿三條 旅具提携品ノ検査ハ敏活ニシテ其要ヲ得ルヲ主トス緻密ヲ名トシテ苛刻ニ涉リ煩ヲ旅客ニ與フル等ノコナカルヘシ

三十一、積卸特許と信號規定 天保山沖即ち大阪港に出入せる船舶にして貨物積卸の繼續を特許せんとするに中り本船乗監吏に對し之か通知をなさんと欲するも由來天保山監所所在の位地と本船の投錨點は常に少くも約二哩の距離を隔つるか故に之か處置に不便尠からざるを以て遂に二十八年十月信號内規を定め爾來天保山監所に於て之を實行せしめ今日に至るも現に此方法を取れり

天保山出張所ト乗監船舶間ニ於ケル荷物揚卸繼續特許ノ信號内規

第一條

一 本部出張所及碇泊船間ノ距離遠隔セルカ爲メ通信ノ時期ヲ失シ願主ノ不便ヲ來スノ虞アリ故ニ荷役及其繼續ノ特許ヲ紅白青ノ三色ニ區別シタル旗ヲ以テ信號トス

第二條

一 荷物揚卸繼續ノ船アルキハ天保山出張所ヨリ信號ヲ以テ本船ニ報スヘシ

第三條

一 乗監者ハ午後四時ヨリ日没ニ至ル迄ノ間ハ監守ノ傍ヲ出張所信號ノ有無如何ニ注目シ決シテ觀察ヲ怠ルヘカラス

第四條

一 沖合碇泊船ノ追願ハ晝夜ノ別ナク天保山出張所ニ於テ許可シ晝間ハ旗ヲ以テ之ヲ示シ夜間ハ直ニ本船ニ通知スヘシ  
但電話貫通ノキハ本關ニ於テ追願受理スルコトアルヘシト雖モ電話濟迄ハ願主ヲ待タセ置クヘシ

第五條

一 沖合碇泊ノ船舶最初入港ノモノハ赤旗次ニ入港ノ分ハ白旗トシ其何レカ一方ノ船舶仕役ヲ許可セシキハ紅白其一ヲ掲ケ兩隻共ニ許シタルキハ兩色ノ旗ヲ掲クルモノトス

第六條

一 川内碇泊ノ船舶ハ仕役特許アレハ青色ノ信號ヲ揭示スヘシ沖川碇泊ノ各船仕役スレハ紅白青ノ三種ノ旗ヲ連掲スルモノトス

第七條

一 天保山出張所詰ノモノハ沖合又ハ碇泊船豫定信號外ニ多數ノ船舶アルキハ其當日貨物揚卸ノ繁閑ヲ見計ヒ乗監者ト信號ノ連絡ヲ定メ置キ其以外ノ者仕役シタルキハ人ヲシテ通知スヘシ

第八條

一 本關本部詰ノモノハ荷役特許ノ際電話不通ナルキハ川内碇泊船ヘハ直ニ本船乗監者ヘ沖合碇泊船ヘハ天保山出張所ヘ小使ヲ以テ急報スヘシ  
但場合ニ依リ腕車ヲ以テ通スルコトアルヘシ

第三章 分課事務



白
赤
青

明治廿八年十月廿八日

注意

一 當分ノ内沖合ハ二隻川内ハ一隻碇泊ノ豫定ヲ以テ信號通信ノ規定ヲ設クルト雖モ沖合ニ二隻以上碇泊船アリテ川内ニ碇泊船ナキハ又ハ川内ニ一隻以上ノ碇泊船アリテ沖合ノ碇泊船二隻ニ滿タサルトキハ臨時一方ノ號旗ヲ他方ニ融通利用スヘシ

但此場合ニ於テ出張所詰ト乘監者ハ相互ニ牒合シ決シテ誤解失實ナキコトヲ注意スヘシ

一 乘監吏ハ肉眼ヲ以テ信號旗ノ色合ヲ見別ケ難キトキハ双眼鏡又ハ望遠鏡ヲ備用スヘシ

三十二、監視官吏の賞罰 明治二十三年七月税關官制の改正に伴ひ同年十月八日敕令第二一八號を以て税關監吏補賞罰規則を發布せり該規則は左の如し

第一條 監吏補其職務上勤勞アル者ハ事ノ大小難易ニヨリ毎年五圓以下ノ賞ヲ與フ

第二條 監吏補其職務上怠慢過失アル者ハ情狀ニヨリ左ノ懲罰ニ處ス

第一 誹 責 第二 罰 俸 第三 免 職

第三條 罰俸ハ月俸額百分ノ一以上二箇月以下トス

第四條 罰俸ハ毎月俸ヲ以テ納付セシム但月俸額三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 罰俸ニ處セラレタル者罰俸完納前退官免職又ハ死去スルトキハ之ヲ追徴

第六條 大藏大臣ハ本規則ノ執行ヲ税關長ニ委任スルコトヲ得  
右規則第六條によりて其賞罰の執行方は依然税關長に委任せらるゝこととなりしを以て當關に於ては從來の監吏補賞罰例擴充を以て之に宛てたりしも二十八年更らに監吏補賞罰例を規定施行せしむ  
達第八號

監 視 部

本關監吏補賞罰例別冊之通相定候條此旨相達ス

但シ賞罰例中貨物係ニ關スル事項ハ當分ノ内之ヲ實施セス

明治廿八年五月二十九日

大阪税關長

穎川 君 平

(別紙)

大阪税關監吏補賞罰例

賞 例

第一條 監吏補其職務上功勞アルモノハ例ニ照シテ之ヲ賞シ又事ノ難易輕重ヲ計量シテ本賞ヲ加等スルヲアルヘシ

第二條 本則ニ掲ケサル事項ト雖モ職務上功勞ノ賞スヘキモノハ諸條ニ比附シテ之ヲ賞シ或ハ賞詞ニ止ム

第三條 密商脱税ノ構意ヲ以テ價格五圓以上ノ輸入有税品又ハ價格五拾圓以上ノ輸出有税品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シテ押獲シタルモノハ賞第六等

第四條 押獲シタル貨物輸入品ニシテ價格五圓以上拾圓毎ニ一等ヲ加ヘ輸出貨物ニシテ價格五拾圓以上百圓毎ニ一等ヲ加フ

第五條 押獲シタル貨物價格五圓未滿ノ輸入有税品又ハ價格五拾圓未滿ノ輸出有税品ハ賞第十等

第三章 分課事務

百五十七



第二章 分課事務

百五十八

- 第六條 國禁阿片ヲ密運シ又ハ密運セントスルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第六等其量半斤以上一斤毎ニ一等ヲ加フ半斤未滿ノ阿片及其吸煙器具ヲ押獲シタルモノハ賞第九等
- 第七條 第三條及第六條ノ場合ニ於テ犯人ノ暴壓ヲ受ケ又ハ負傷スルモ屈セス職務ヲ盡シタルモノハ賞第一等
- 第八條 輸入若クハ輸出禁止ノ物品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シ押獲シタルモノハ賞第六等
- 第九條 稅關ノ手數ヲ避クル爲メ無稅品ヲ密運シ若クハ密運セントスルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第十等其物品ノ沒收ニ歸スルハ賞第九等
- 第十條 手數既濟ノ貨物中ニ手數未濟ノ貨物ヲ混シ運搬スルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第十等
- 第十一條 稅關區內ニ於テ火藥爆發物其他危險質物ヲ發見シ成規ノ手順ヲナサシメタルモノハ賞第六等
- 第十二條 稅關ノ印章記標ヲ偽造シ使用シタルモノヲ發見シタルモノハ賞第六等又稅關附屬ノ物品ヲ盜取スルヲ發見シタルモノハ賞第九等
- 第十三條 職務ヲ執行スルニ當リ輸出入貨物ヲ盜ミ又ハ盜マントスルヲ發見シ押獲シタルモノハ賞第十等
- 第十四條 暴行脅迫ヲ以テ輸出入貨物ヲ強取シ又ハ強取セントスルヲ押獲シタルモノハ賞第二等
- 第十五條 第十二條以下ノ條項ニ當リ其物品ヲ追回シ得ルモ其犯人ヲ押獲セサルモノハ各本賞ニ一等ヲ減ス然レモ其難易ヲ審議シ或ハ減等セサルコトアルヘシ
- 第十六條 海又ハ陸ニテ輸出入貨物ニ火ヲ失シタル時或ハ暴風雨等ニ際シ自己ノ危險ヲ顧ミス貨物ヲ救護シタルモノハ賞第一等
- 第十七條 稅關ノ廳舎建物又ハ貨物等ニ火ヲ失シタルヲ發見シ直ニ撲滅セシモノ若クハ急報シテ大事ニ至ラシメサリシモノハ賞第五等
- 第十八條 夜間故ナク本關構內及建物又ハ輸出入貨物ヲ貯藏シタル處へ入りタルモノヲ發見シ門外へ放逐シ若クハ告發ノ手續ヲ爲シタルモノハ賞第十等
- 第十九條 密商脫稅犯則盜犯其他取締手續ニ違ヒタルモノヲ發見シテ同僚ニ告知シ若クハ同僚ニ助力シテ之ヲ禁遏セシメタルモノハ賞第十等
- 第二十條 賞ヲ分テ十等トナス左ノ如シ

一	等	五	圓	二	等	參圓五拾錢	三	等	貳圓五拾錢
四	等	貳	圓	五	等	壹圓五拾錢	六	等	壹
七	等	七	拾	錢	八	等	五	拾	錢
十	等	貳	拾	錢	九	等	參	拾	錢

罰例

- 第一條 監吏補職務上怠慢過失アルモノハ例ニ照シ之ヲ罰ス其違犯ノ諸條ニ涉ルモノハ一ノ重キニ從フ又事ノ輕重情狀ニヨリ本罰ヲ加減シ又ハ全免スルコトアルヘシ
- 第二條 罰例ニ觸ル、事アルモノ自ラ覺悟シテ事ニ害ナキモノハ本罰ヲ減輕シ若クハ全免スルコトアルヘシ
- 第三條 本例ニ掲ケサル怠慢過失ハ譴責ニ付ス
- 第四條 凡テ官吏ノ体面ヲ汚辱シタルモノハ其職ヲ免ス

第二章 分課事務

百五十九



- 第五條 監視中密商脱税品アルヲ覺ラヌ又誤テ放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第六等
- 第六條 前條ノ貨物輸入有税品ナレハ價格五圓以上拾圓毎ニ一等ヲ加ヘ輸出有税品ナレハ價格五拾圓以上百圓毎ニ一等ヲ加フ
- 第七條 保管物ノ紛失ヲ覺ラサルモノハ罰第六等誤テ保管物ヲ毀損スルモノハ罰第十等
- 第八條 手數未濟ノ貨物ニ檢印放許シ海關稅ニ害アルモノ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノ及ヒ手數濟貨物ノ檢印ヲ遺脱シタルモノハ罰第十等
- 第九條 手數既濟未濟ニ論ナク無檢印貨物ノ脱漏ヲ覺ラヌ又誤テ之ヲ放許シ海關稅ニ害ナキモノハ罰第十等
- 但貨物ヲ追回シタルモノハ罰ヲ論セス
- 第十條 貨物ノ記號番號ヲ誤認シ貨主ノ區別ヲ混シ之ヲ放許シタルモノハ罰第十等
- 第十一條 國禁物阿片ノ密輸ヲ覺ラサルモノ又ハ誤テ之ヲ放許シタルモノハ其量半斤未滿ハ罰第九等以上一斤毎ニ一等ヲ加フ吸煙器具ノ密輸ヲ覺ラサルハ罰第九等
- 第十二條 監區内ニ於テ稅關ノ廳舍建物又ハ貨物等ニ火ヲ失シタルヲ覺ラサルモノハ罰五等
- 第十三條 船口封鎖又ハ其解披ニ疎漏アルモノハ罰第八等
- 第十四條 船口封鎖又ハ解披ノ時期ヲ失スルモノハ罰第九等其時期ヲ過ルニ時毎ニ一等ヲ加フ
- 第十五條 封鎖又ハ解披ノ疎漏ニ由テ密商脱稅其他ノ事害ヲ生セシメタルモノハ罰第五等
- 第十六條 出務時期又ハ欠勤届ヲ遅延スルモノハ罰第十等其二時ヲ過クルモノハ一等ヲ加ヘ四時已上ニ及フモノハ更ニ一等ヲ加フ病氣ニテ欠勤中漫ニ他行スルモノハ罰第九等
- 第十七條 就務時間ヲ後ル、モノハ罰第十等其後ル、コト一時以上ハ一時毎ニ一等ヲ加フ
- 第十八條 規定ノ交代時期外ニ於テ擅ニ交代スルモノハ罰第十等

- 第十九條 交代ノ際次直ヘノ授囑ヲ遺忘シ又ハ疎漏ニシテ爲メニ事害ヲ生セシメタルハ罰第九等
- 第二十條 監視中公務ニ非スシテ談話スルモノハ罰第十等
- 第二十一條 監視中擅ニ監區ヲ離ル、モノハ罰第十等
- 第二十二條 監視中遮目ノ場所ニ到リタルモノハ罰第十等其横臥又ハ睡眠スルモノハ罰第八等
- 第二十三條 監視中家屋又ハ室内ニ入ルモノハ罰第九等其横臥又ハ睡眠スルモノハ罰第八等
- 第二十四條 監視中衣帽等ヲ脱シ若クハ睡眠スルモノハ罰第十等其横臥スルモノハ罰第九等
- 第二十五條 監視中擅ニ監區ヲ去リ其隣區ニ至リタルモノハ罰第十等他ノ場所ニ至リタルモノハ罰第七等
- 第二十六條 監區外ニ出張中擅ニ監所ヲ去リタルモノハ罰第五等
- 第二十七條 在官中上官ノ許可ヲ得ス他出スルモノハ罰第十等其歸部セサルモノハ罰第八等
- 第二十八條 公文又ハ官品ヲ遺失シ若クハ誤テ毀損シタルモノハ罰第十等
- 但辨償スヘキ成規アルモノハ仍ホ之ヲ辨償セシム
- 第二十九條 監視中書籍ヲ閱覽スルモノハ罰第十等
- 第三十條 監視中喫煙スルモノハ罰第十等其禁制ノ場所ニ於テスルモノハ罰第六等
- 第三十一條 監視中失体ノ所爲アルモノハ罰第十等
- 第三十二條 上官ノ令達ニ違ヒタルモノハ罰第六等
- 第三十三條 罰俸ヲ分テ十等ト爲ス左ノ如シ

月俸	一ヶ月	百分ノ四十	百分ノ廿七
一等	百分ノ五十	百分ノ卅五	百分ノ廿五
二等	百分ノ四十五	百分ノ卅二	百分ノ廿三



第二章 分課事務

百六十二

百分ノ廿二半	百分ノ十六半	百分ノ十一
百分ノ二十	百分ノ十五	百分ノ十
百分ノ十八	百分ノ十三	百分ノ九
百分ノ八	百分ノ五半	百分ノ三半
百分ノ七	百分ノ五	百分ノ三
百分ノ六	百分ノ四半	百分ノ二半
百分ノ二		
百分ノ一		
百分ノ一		

次て三十年十一月に至り再ひ之を改正せり左に掲げて参考に資せん  
達第一七號

大阪税關監視部

監吏補賞罰令別冊之通改定本月十五日ヨリ施行候條此旨相達ス

明治三十年十一月十三日

大阪税關長

穎川君平

監吏補賞例

第一條 監吏補職務上功勞アルモノハ本例ニ照シテ之ヲ賞ス

但事ノ難易輕重ヲ計量シテ本賞ヲ加減シ或ハ賞詞ニ止ムルコトアルヘシ

第二條 本例ニ明文ナシト雖モ職務上功勞アルモノハ相當ノ條項ニ比擬シ之ヲ賞シ或ハ賞詞ニ止

第三條 賞ハ之ヲ十等ニ分ツ

第一等	五圓	第二等	參圓五拾錢	第三等	貳圓五拾錢
第四等	貳圓	第五等	壹圓五拾錢	第六等	壹圓
第七等	七拾錢	第八等	五拾錢	第九等	參拾錢
第十等	貳拾錢				

第四條 職務執行ニ當リ他ノ暴行ヲ受ケ又タ負傷スルモ屈セス其職務ヲ盡シタルモノハ其難易輕重ニ從テ本賞ヲ加等シ第一等ニ至ルヲ得

第五條 密商脱税ノ構意ヲ以テ價格五圓以上ノ輸入有税品又ハ價格拾圓以上ノ輸出有税品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シテ之ヲ押獲シタルモノハ賞第六等其貨物ニシテ輸入有税品ナルハ價格五圓以上拾圓ヲ増ス毎ニ一等ヲ加ヘ輸出有税品ナルハ價格拾圓以上貳拾圓ヲ増ス毎ニ一等ヲ加フ

第六條 押獲シタル貨物價格五圓未滿ノ輸入有税品又タ價格拾圓未滿ノ輸出有税品ナルハ賞第九等

第七條 税關ノ手數ヲ避クル爲メ無税品ヲ密運セントスルモノアルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第九等

第八條 國禁ノ阿片ヲ密運シ又ハ密運セントスルモノ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第五等其量半斤以上一斤ヲ増ス毎ニ一等ヲ加フ

第九條 輸入若クハ輸出禁止ノ物品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第六等

第二章 分課事務

百六十三



第二章 分課事務

第十條 手數未済ノ貨物ヲ運搬シ若クハ運搬セントスルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第十等

手數既済ノ貨物中ニ手數未済ノ貨物ヲ混シ運搬セントスルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第九等

第十一條 免狀又ハ其他ノ許可證面ノ數ヨリモ過數ヲ運搬セントスルヲ發見シタル者ハ賞第十等

第十二條 稅關ノ印章記標等ヲ偽造使用シ又ハ盜用セシモノヲ發見シタルモノハ賞第三等

第十三條 稅關ニ關スル文書ヲ偽造シテ行使シタルモノヲ發見シタルモノハ賞第七等其事ノ輕重ニ從ヒ本賞ヲ加等シテ第二等ニ至ルヲ得

第十四條 稅關構内及輸出入貨物ヲ貯藏スル場所ニ於テ火藥爆發物其他危險質物ヲ發見シ定規ノ手續ヲナサシメタルモノハ賞第六等

第十五條 稅關構内及輸出入貨物ヲ貯藏スル場所ニ於テ火ヲ失シタルヲ發見シ之ヲ消止メ若クハ急報シテ大事ニ至ラシメサリシモノハ賞第五等

第十六條 風雨水害ノ際ニ當リ功勞アルモノハ前條ニ準シ各二等ヲ減ス

第十七條 稅關所屬ノ物品ヲ盜取スルヲ發見シ其犯人ヲ押獲シタルモノ及輸出入貨物ヲ盜取スルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第八等其暴行強迫ヲ以テ前述ノ貨物ヲ其犯人強取セントスルヲ取押タルモノハ其難品ノ輕重ニ應シ之ヲ加等シ賞二等ニ至ルヲ得

第十八條 前條ノ場合ニ於テ其物品ヲ追回シ得ルモ其犯人ヲ押獲シ得サルモノハ前條ニ準シ一等又ハ二等ヲ減ス然レトモ其難易ヲ審議シ或ハ減等セサル事アルヘシ

第十九條 夜間故ナク本關構内及建物若クハ輸出入貨物ヲ貯藏セル場所ニ入りタルモノヲ發見シ之ヲ門外ニ放逐シ若クハ告發ノ手續ヲ爲シタルモノハ賞第十等

第二十條 諸種ノ違法犯則アルヲ發見シ之ヲ制止シタルモノハ賞第十等

第二十一條 第五條以下ニ揚ケタル諸般ノ場合ニ際シ其違法犯則及危險ノ事實ヲ發見シ同僚ニ告知シタルモノ若クハ其告知ヲ受ケテ之ヲ制止防壓シタルモノハ各本條ニ照シ本賞ニ一等ヲ減ス

監吏補罰例  
第一條 監吏補職務上怠慢過失アル者ハ本例ニ照シ之ヲ罰ス其違犯ノ諸條ニ涉ルモノハ一ノ重キニ從フ

但シ情狀ヲ詮考シテ本罰ヲ加減シ或ハ譴責ニ止メ又ハ全免スルコトアルヘシ

第二條 本例ニ明文ナキ怠慢過失ハ譴責ニ付シ又ハ違犯ノ情狀ニ依リ相當ノ條項ニ擬シ之ヲ處罰ス

第三條 本例ニ觸ルノ事アルモ自ラ覺舉シテ事ニ害ナキモノハ本罰ヲ減輕シ或ハ譴責ニ止メ又ハ全免スルコトアルヘシ

第四條 罰ヲ分テ十等トス

一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等	九 等	十 等
月俸ノ一ヶ月 百分ノ五十五	月俸ノ一ヶ月 百分ノ四十五	月俸ノ一ヶ月 百分ノ三十五	月俸ノ一ヶ月 百分ノ二十五	月俸ノ一ヶ月 百分ノ十五	月俸ノ一ヶ月 百分ノ十	月俸ノ一ヶ月 百分ノ五	月俸ノ一ヶ月 百分ノ三	月俸ノ一ヶ月 百分ノ二	月俸ノ一ヶ月 百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一
百分ノ四十五	百分ノ三十五	百分ノ二十五	百分ノ十五	百分ノ十	百分ノ五	百分ノ三	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一



- 第五條 凡テ官吏ノ体面ヲ汚辱シ其他重大ナル怠慢過失アル者ハ其職ヲ免ス
- 第六條 監視中貨物ノ脱漏ヲ覺ラス又誤テ之ヲ放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノハ罰第十等
- 其貨物ニシテ輸入有稅品ナレハ價格五圓以上拾圓毎ニ一等ヲ加ヘ輸出有稅品ナレハ價格拾圓以上貳拾圓毎ニ一等ヲ加フ
- 第七條 手數未濟ノ貨物ニ檢印放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノ及手數濟貨物ノ檢印ヲ遺脱シタルモノハ罰第十等
- 第八條 手數既濟未濟ニ論ナク無檢印貨物ノ脱漏ヲ覺ラス又タ誤テ之ヲ放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノハ罰第十等
- 但シ貨物ヲ追回シタルモノハ罰ヲ論セス
- 第九條 貨物ノ記號番號或ハ免狀ヲ誤認シ貨主ノ區別ヲ混シ之ヲ放許シタルモノハ罰第十等
- 第十條 免狀ノ記入ニ粗漏アルモノハ罰第十等
- 第十一條 定期ノ時間外貨物ノ積卸ヲ放許セシモノハ罰第十等
- 但臨時特許ノ場合ニ於テモ亦同シ
- 第十二條 國禁阿片ノ密輸ヲ覺ラサルモノ又ハ誤テ之ヲ放許シタルモノハ其量半斤未滿ハ罰第八等其量一斤ヲ増ス毎ニ一等ヲ加フ吸煙器具ヲ密輸スルヲ覺ラサルモノハ罰第九等
- 第十三條 輸入若クハ輸出禁止ノ物品ヲ密輸スルヲ覺ラサルモノハ罰第八等
- 第十四條 船舶ノ入出港ヲ覺ラサルモノハ罰第十等其入港ヲ當該監吏ニ報告セサルモノ亦同シ
- 第十五條 定期ノ手續ニ反シテ貨物ノ積卸ヲナサシメシモノハ罰第十等
- 第十六條 監區内ニ於テ稅關ノ廳舍建物又ハ貨物等ニ火ヲ失シタルヲ覺ラサルモノハ罰第五等

- 第十七條 船口封鎖ニ粗漏アルモノハ罰第九等其他場所封鎖ニ粗漏アルモノハ罰第十等其之ニ因テ密商脫稅其他ノ事害ヲ生セシメタルモノハ各一等ヲ加フ
- 第十八條 解封ニ粗漏アルモノハ前條ニ準シ各一等ヲ減ス
- 第十九條 船口封鎖又ハ解披時期ヲ失スルモノハ罰第九等
- 第二十條 出務時間又ハ欠勤届ヲ遅延スルモノハ罰第十等其二時ヲ過クルモノハ一等ヲ加ヘ四時以上ニ及フモノハ更ニ一等ヲ加フ
- 同僚ノ欠勤届ヲ依托セラレ之ヲ遅延スルモノハ罰本人ト同シ病氣欠勤中漫ニ他行スルモノハ罰第八等
- 第二十一條 欠勤届ヲ出サスシテ欠勤スルモノハ罰第八等其二日以上ニ及フモノハ一日毎ニ一等ヲ加フ
- 第二十二條 三日以内ニ轉居届ヲ出サ、ルモノハ罰第十等
- 身元保證人轉居ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ亦同シ
- 第二十三條 病氣中定日ニ醫案ヲ差出サ、ルモノハ罰第十等
- 第二十四條 就務時間ヲ後ル、モノハ罰第十等其後ル、一時間ニ及フ毎ニ一等ヲ加フ
- 第二十五條 規定ノ時間外ニ於テ擅ニ交代スルモノハ罰第十等
- 第二十六條 夜時交代時期ノ報告ヲ遅延シ若クハ報告セサルモノハ罰第十等
- 第二十七條 交代ノ際次直者へ授囑ヲ遺忘シ又ハ粗漏ニシテ爲ニ事害ヲ生セシメタルモノハ罰第九等
- 第二十八條 監視中公務ニアラスシテ談話スルモノハ罰第十等
- 第二十九條 監視中擅ニ監區ヲ離ル、モノハ罰第十等其他ノ場所ニ至ルモノハ罰第七等







服		夏			衣	
外	套	上	衣	胴	袴	帽
地製	袖鈕	製袖	鈕	地鈕	地製	地製
質式	卸章	質式	卸章	卸質	質式	質式
紺羅紗 折襟胸二重後帯ヲ 附ス	紺羅紗 金櫻花二行 幅一分黒線一條	紺薄羅紗	正服ニ同シ	白「リンチル」 正服ニ同シ	白「リンチル」 普通	白「セルジ」 兜形圖ノ如シ 金櫻花ノ鈕釦ヲ兩 側ニ附ス
同	同	同	同	同	同	同
同	同	紺「セルジ」	同	紺「セルジ」	紺「セルジ」	同
同	同	同	同	同	同	同

(圖ハ畧ス)

斯の如くにして後三十一年二月六日監視官吏服装姿勢及禮式に關する心得方を示せり

監視官吏服装姿勢心得

- 第一條 服装ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
- (一) シャーツ、襟、カフ及晝間ノ手袋ハ白色ヲ用ヒ襟飾ハ黒色ヲ用フヘシ
  - (二) 制帽ハ端正ニ冠載シ偏倚スヘカラス
  - (三) 制帽ノ締革ハ臑部ニ懸クルノ外他ニ移スヘカラス
  - (四) 被服ハ常ニ清潔ニスヘシ
  - (五) 室内執務ノ場合ノ外上衣并外套ノ鈕釦ハ正シク嵌ムヘシ且釧ヲ生セサル様注意スヘシ
  - (六) 上衣ノ襟ハ常ニ折ルヘシ
  - (七) 雨雪ノ外執務中晝間頭巾ヲ着スヘカラス
  - (八) 頸卷ヲ用ユヘカラス
  - (九) 茶褐色ノ靴ヲ用ユヘカラス
  - (十) 外套ハ室内ニ於ケル禮式ノ時ハ脱スヘシ
- 第二條 姿勢ハ左ノ各項ニ注意シ情色濫容アルヘカラス
- (一) 執務中漫リニ衣袴ノ「ポケット」ニ手ヲ入レ或ハ柱其他ニ倚掛ルヘカラス
  - (二) 監所ニ於テ擅ニ眼鏡ヲ用イ又ハ扇ヲ用ユヘカラス
  - (三) 制服ヲ着シタルトキハ傘ヲ使用スヘカラス
  - (四) 頭髮ハ常ニ見苦カラサル様梳ルヘシ

監視官吏禮式心得

第一條 監視官吏制服ヲ着シタルトキハ本式ニ依リ禮式ヲ行フモノトス

第二章 分課事務



第二章 分課事務

百七十二

第二條 禮式ハ分テ左ノ三種トス

最敬禮 停歩正面シテ直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニ帽ノ前底ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股

ニ對セシメ左手ヲ垂下シ頭ヲ垂レ体ノ上部ヲ前ニ傾ク

敬禮 室外ニ在テハ正面シテ姿勢ヲ正フシ右手ヲ舉ケ五指ヲ伸シ掌ヲ左方ニ向ケ諸指ヲ接シ

テ食指ト中指トヲ帽ノ右側ニ當テ左手ヲ垂下シ其眼ニ注目スルモノトシ其雨中頭巾ヲ

被リタル場合モ亦之ニ準ス

室内ニ在テハ正面シ姿勢ヲ正フシ兩手ヲ垂下シ其眼ニ注目シ体ノ上部ヲ少ク前ニ傾

クルモノトス

同班禮 輕ク右手ヲ舉ケ諸指ヲ伸シ帽底ニ觸ル

第三條 本式中上官ト稱スルハ監吏補ノ監吏以上ニ於ケル監吏ノ部長以上ニ於ケル部長ノ税關長

ニ於ケルヲ云フ

第四條 天皇三后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ奉對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ其外國皇帝

皇后以下及大統領ニ於ケルモ亦然リ

第五條 前條ノ場合ニシテ水上ニ於ケルトキハ監視船ハ進行ヲ止メ端舟ハ權ヲ捧ケ在船ノ監吏

吏補ハ適宜ノ場所ニ於テ最敬禮ヲ行フヘシ

第六條 天皇奉祝ノ奏樂ヲ聞クトキハ時ト場トヲ問ハス必ス姿勢ヲ正フスヘシ其外國皇帝奉祝ノ

場合モ亦之ニ準ス

第七條 職務執行ノ爲メ止ムヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ其高等官ニ對シテハ停

歩シテ之ヲ行フヘシ他廳又ハ外國高等官ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第八條 同僚ハ同班禮ヲ行フヘシ

第九條 物品ヲ携帶スル等ニテ相當ノ禮式ヲ行フ能ハザルトキハ禮スヘキ人ニ注目シ体ノ上部ヲ

少シク前ニ傾ケ若シ左手ニ携帶スルトキハ右手ヲ帽ニ當ツヘシ

第十條 内外官民ヨリ禮ヲ受ケタルトキハ必ス相當ノ答禮ヲナスヘシ

第十一條 室内ニ於テハ帽ヲ脱スヘシ

第十二條 上官室内ニ來ルトキハ椅子ヲ離レテ禮ヲ爲スヘシ

第十三條 船舶乗艦中船長役員等近傍ヲ通過スルカ若クハ相逢フトキハ適宜相當ノ禮ヲ爲スヘシ

但船積船卸貨物調査中ハ此限ニアラス

同年六月税關官制の改正によりて新たに監視官を置き翌月勅令二百三十二號を以て監視官の制服を定めたり當時當關に監視官を置かざりしを以て之を畧す而して以上述べたる制服は明治十年六月以來監吏補のみに對して給與せられたるも二十三年の制服改正と共に監吏に對しては初任の際に限り制服料を支給せしも二十七年三月に至り之を廢し監吏補に對する制服料は二十六年六月以降一ケ年三拾圓を月賦支給することゝなせり元來當關に於ては被服に關する事務は總て庶務課に於て取扱ひ來たりしか二十九夏季より現品の給與保管其他の監督に關する事務は便宜之を監視部に於てせり後三十一年七月監吏補被服并に被服料取扱内規を定め監視部に於て之を分掌せしむ

監吏補被服并ニ被服料取扱内規

第一條 監吏補轉免等ノ節ハ後任者ヘ必ラス其儘被服ヲ讓渡サシム

但保存期限前二ヶ月以後ノ者ニ限リ被服ノ下渡ヲ望ム者ハ未償金ヲ一時ニ仕拂ハシメ被服ヲ

下渡ス事アルヘシ

第二條 後任者ノ讓受ケタル被服着用ニ適セサル爲メ仕立直シ等ヲナス時ハ其費用ハ凡テ後任者

第二章 分課事務

百七十三



ノ自辨トス

第三條 後任者第一條但書ノ場合ニ該當セシ時ハ特ニ次期ノ被服ヲ新調セシム

第四條 増員等ノ爲メ中途拜命ノ者(保存期限前二ヶ月以後ノモノハ第三條ニ據ル)ハ新ニ被服ヲ製シ拜命ノ日ヨリ下賜ナル等ノ被服料豫算額ヲ被服代價ヨリ引去リ殘額ハ當人ノ負擔トシ一時又ハ月賦トシテ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシム

第五條 減員等ノ爲メ中途轉免等ノモノハ被服料仕拂殘額(増金アレハ其殘額ヲモ)ヲ一時ニ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシメ被服ハ當人ニ下渡ス

第六條 被服保存期限ハ左之通相定ム

一夏 服 五月一日ヨリ十月三十一日迄

一冬 服 十一月一日ヨリ翌年四月三十日迄

一外套、帽 十一月一日ヨリ翌年十月三十一日迄

第七條 別仕立等ノ爲メ増金セントスル者ハ當該監吏ニ必ラス届出テ許可ヲ得ヘシ

第八條 増金仕拂方ハ六ヶ月以内(一ヶ月ノ月賦ヲ下ラス)ノ月賦トシ新調ノ月又ハ其翌月ノ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシム

但壹圓未満ハ月賦トスルヲ許サス

第九條 被服地撰定等ハ監吏立會ノ上之ヲ定ム

第十條 被服請負者ヘ仕拂ノ方法ハ外套帽ハ十一月ヨリ翌年十月迄冬服ハ十一月ヨリ翌年四月迄夏服ハ五月ヨリ十月迄ニ仕拂皆濟トス而シテ外套帽ノ冬夏二期代金仕拂ノ割合ハ大凡冬六分夏四分トス

第十一條 未償金并増金等ヲ一時又ハ月賦トシテ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシムル場合ニ

ハ當該監吏ハ直ニ其金額ヲ當人ノ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ引去リ被服受負者ヘ仕拂フヘシ

第十二條 毎月十五日被服ノ検査ニ當リ破損又ハ紛失等アルモノニハ直ニ修繕ヲ命ス可シ其費用ハ自辨トス

但當人ニ於テ修繕等ヲナサ、ルトキハ當該官吏ハ直ニ被服受負者ニ命シテ修繕セシメ其費用

第十三條 此内規ニ記載ナキモ被服料支給規定ニアルモノハ勿論其規定ニ據ルモノトス

第十四條 被服ニ關スル事故本人ニ於テ處辨セサルトキハ身元保證人ニ於テ一切負擔スヘシ

三十四、欠勤償金の配與 監吏補の病氣其他の事故を以て勤務を欠けるものより償金を徴し之を代勤者へ給與せるは既に古き以前よりの慣例なりしか後三十一年四月之れか配與方を内定しすへて是に據つて欠勤償金を分配給與せしむ

監吏補欠勤償金配與法

一各分掌ノ欠勤償金(前月二十一日ヨリ)參分ノ一ヲ一ヶ月(前月二十一日ヨリ)間ニ於ケル皆勤者(十日ヲ超引交通遮断及出張ハ之レヲ除ク)並ニ參回以内ノ欠勤者ニ配與ス

但其割合ハ皆勤者ヲ物數五個トシ一回欠勤者ヲ同三個貳回欠勤者ヲ同二個參回欠勤者ヲ同壹個ト定ム

一各分掌ノ欠勤償金(前月二十一日ヨリ)參分ノ二ヲ壹ヶ月(前月二十一日ヨリ)間ニ於ケル勤務總數ヲ其人員ニ平均シタル度數ニ超過スル數ニ應シテ配與シ超過數ナキトキハ各平均數ノ得者ニ等分給與ス

即チ平均度數ヲ超過スルレドト一度ナレハ之ヲ物數一個トシ三度ナレハ同三個トシ若シ平均度數ニ超過スル數ナクシテ各自ノ得數相等シキトキハ配與金全額ヲ其總人員ニ等分スルカ如シ

第二章 分課事務



- 但十日ニ滿タサル勤務日數ハ加入計算セス
- 一各分掌ノ欠勤償金配與計算方ハ欠勤償金取立ノ階級ニ準シ月俸二十圓十九圓十八圓ヲ物數一個六分トシ十七圓十六圓ヲ同一個四分十五圓十四圓ヲ一個二分十三圓十二圓ヲ同一個十一圓十圓ヲ同八分九圓八圓ヲ同六分六圓ヲ同四分ト定ム
- 一各分掌違ノ助勤ヲナシタルトキハ其度數ニ應シ欠勤償金三分ノ二配與ノ部ヨリ配當ス
- 一欠勤償金配與日數期間(前月二十一日ヨリ當月二十日マテ)ニ新任、轉免等ニテ勤續セサルモノハ計算加入セス
- 但分掌換ヘノモノハ當月五日ヲ以テ出務日數ノ多キ分掌ノ部ニ編入シ若シ前後何レモ同數ナルトキハ現分掌ノ部ニ編入シ參分ノ一配與ノ部ヨリ配當ス
- 一監所詰ノ各出務日數一方ハ九日ヲ超ヘ他方十日ニ滿タサルトキハ後者ノ出務日數ニ助勤者ノ出務日數ヲ加算シ其和ヲ以テ前者ノ出務日數ニ對スル平均數ヲ割出スモノトス
- 一監所詰一方ノ者欠勤償金配與日數期間欠勤スルトキハ十五度ヲ以テ平均數ト假定ス但二月ハ十四度ヲ以テ平均數ト假定ス
- 一監所詰ノ出務日數欠勤償金配與日數期間各十日ニ滿タサルトキ或ハ一方九日以下ノ出務日數アリテ他方出務日數ナキトキ若クハ何レモ出務日數ナキトキハ欠勤償金全額ヲ助勤度數ニ應シ助勤者ニ配與ス
- 一各分掌ニ於テ三分ノ一ヲ配與スヘキモノナキトキハ三分ノ二配與ノ部ヘ加入ス
- 一各分掌ノ勤務度數ヲ計算スルニハ本部詰ノ晝夜監所詰ノ晝夜海務係ノ晝夜及早出晝勤務陸務係ノ晝夜及早出晝勤務ヲ各一度トシ本部詰ノ夜出海務係ノ晝勤務夜勤務宵宿曉宿陸務係ノ晝勤務夜勤務ヲ各半度ト定ム

明治三十一年四月一日

ト、税關長官房

三十五、處務細則

税關長官房の設置は二十九年六月税關分課規程改正の時に在り當時税關長より

大阪税關各課及出張所

今般官房職第一六二號ヲ以テ税關分課規程中改正ノ義大藏大臣ヨリ御達相成候ニ付テハ庶務課中文書統計兩課ノ義ハ今ヨリ税關長官房文書係及統計係ト改稱ス此段相達ス

明治二十九年六月十一日

大阪税關長 穎川君平

と回達し更らに官房處務細則を規定して之を配布せり即ち

税關長官房

- 第一條 税關長官房ニ文書係統計係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 文書係ハ左ノ事項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 官吏ノ職務及身分ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ
- 第四條 申牒往復命令等ノ諸文案ヲ起草スヘシ
- 第五條 各課成案ノ回議ヲ調査シ意見アルモノハ其主務課ニ協議シ之レカ取扱ヲ爲スヘシ
- 第六條 訴願及訴訟ニ關スル事項ヲ調理スヘシ
- 第七條 税關法税關規則違犯者ニ對スル申渡ノ手續及犯則事件告發ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 官報ヲ閱覽シ及官報掲載ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ
- 第九條 各課擔任外ノ諸務ヲ調理スヘシ
- 第十條 關印及關長ノ官印ヲ管守スヘシ

第二章 分課事務



第二章 分課事務

百七十八

- 第十一條 諸法令ヲ調査シ年報書ヲ編纂スヘシ
- 第十二條 各課ヨリ資料ヲ蒐集調理シ本港外國貿易年報ヲ編纂スヘシ
- 第十三條 現員取調表並職員原籍表ヲ調製スヘシ
- 第十四條 吏員ノ勤惰ヲ調査シ職員勤務表ヲ調製スヘシ
- 第十五條 吏員ノ分課録印鑑簿履歷簿住居簿ヲ整理スヘシ
- 第十六條 外國人ノ諸文書ヲ接受反譯シ其答案ヲ起草シ及之ヲ發遣スヘシ
- 第十七條 外國人ノ應接ニ通辨シ及外國人引會始末ヲ登載スヘシ
- 第十八條 船難報告船難證書ノ證明手續ヲ取扱フヘシ
- 第十九條 外國人ノ往復書類ヲ編纂整理スヘシ
- 第二十條 内外新聞紙ヘ公告ノ事項ヲ取扱フヘシ
- 第二十一條 諸文書ヲ接受發遣シ及之ヲ件名簿ニ登載スヘシ
- 第二十二條 諸文書ヲ淨寫シ及文書回達諸表送達ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 第二十三條 接受ノ文書中回答ヲ要スルモノニシテ主任者ヨリ回答案ノ具申回付等延引遲滯スルトキハ之レカ督促ヲ爲スヘシ
- 第二十四條 郵便料及電信料ノ受拂ヲ爲スヘシ
- 第二十五條 吏員出勤簿ヲ整理スヘシ
- 第二十六條 常宿直員ノ配付指定ヲ整理スヘシ
- 第二十七條 諸法令及諸文書ヲ編纂整理保管スヘシ
- 第二十八條 監視部長ヨリ具申セル監吏補賞罰ノ擬定ヲ審査シ及其辭令案ヲ起草スヘシ
- 第二十九條 文書保存規則ノ規定ニ從ヒ文書ノ保存期限ヲ擬定シ關長ニ具申シテ之ヲ處理スヘシ

- 第三十條 公文簿冊ノ貸借ハ渾テ文書借覽規則ニ據リ之ヲ取扱フヘシ
- 第三十一條 吏員ノ出張俸給ノ増減及賞罰金等ノ事項ニ關シ其都度收入支出方通知ノ手續ヲ担理スヘシ
- 第三十二條 統計係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三十三條 輸出入物品ノ數量元價稅額及輸出入貨幣出入船舶ニ關スル諸件ノ統計ヲ爲スヘシ
- 第三十四條 輸出入品簿輸出入貨幣并地金簿出入船舶簿其他事務上必要ナル帳簿ヲ整理シ諸表編製ノ資料ニ備フヘシ
- 第三十五條 每半月官房第三課ヘ送付スル輸出入品價額表輸出入貨幣并地金表ヲ調製スヘシ
- 第三十六條 毎月官房第三課ヘ送付スル輸出品表輸入品表輸出入元價國別要計表輸出入貨幣並地金表出入船舶表輸入無檢査無稅品表及輸入藥種表輸出燐寸表等ヲ調製スヘシ
- 第三十七條 每半年官房第三課ヘ送付スヘキ外國往來船貨價額表ヲ調製スヘシ
- 第三十八條 每年主稅局ヘ送付スヘキ外國貿易年報ニ要スル前年比較表ヲ調製シ期限順次ヲ以テ速カニ鑑定課ニ送付スヘシ
- 第三十九條 輸出入申告書ノ諸項ヲ審査シ疑義アルモノハ之ヲ主務ノ課係ヘ通牒シ又ハ過誤アルヲ發見セハ尙之ヲ關長ヘ具申スヘシ
- 第四十條 輸入品元價及輸出入貨幣價額ハ總テ制規ニ依リ日本銀貨ニ換算スヘシ
- 第四十一條 貨物輸出入申告書并船舶出入港届書ヲ保管スヘシ
- 第四十二條 製表材料ヲ蒐集保存シ及統計ニ關スル諸件ヲ調査スヘシ
- 第四十三條 每半年主稅局ヘ送付スヘキ輸出入品噸量内外船舶表ヲ調製スヘシ
- 第四十四條 毎月出張所ヨリ送付スヘキ輸出品表輸出國別要計表出入船舶表等ヲ審査保管スヘシ

第三章 分課事務

百七十九



第四十五條 每半年出張所ヨリ送付スヘキ外國往來船貨價額表及輸出品噸量内外船舶表ヲ審査ス

ヘシ

第四十六條 每半月出張所ヨリ送付スヘキ輸出品價額及收稅要計ヲ審査スヘシ

第四十七條 前項ニ掲ケサル統計ニ關スル諸件ヲ臨時調査處理スヘシ

第四十八條 輸出入重要品ノ前年比較表ヲ調製シテ毎月之ヲ關長ニ提出スヘシ

第四十九條 輸出入品價額及輸出入貨幣ノ前年ニ比較セル要計表ヲ調製スヘシ

後三十一年四月更めて各課分掌規程を編み官房に屬する分掌を定めたり

第一條 稅關長官房ニ文書係統計係ヲ置ク

第二條 文書係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一 諸文書ノ接受及發送

二 稅關及稅關長ノ名ヲ以テスル諸文書ノ起草淨書

三 外國文書ノ反譯ニ關スル事項

四 法令及諸達ノ揭示通報

五 船 報告ニ關スル事項

六 公文記録ノ整理編纂保管

七 稅關年報及貿易年報ノ調製

八 外國貿易ニ關スル法令違犯者ノ處分ニ關スル事項

九 吏員ノ進退身分ニ關スル事項

十 吏員ノ勤惰ニ關スル事項

十一 當宿直ノ配布

十二 式禮ニ關スル事項

十三 官報及新聞紙ノ查閱

第三條 統計係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一 輸出入貨物入出港船舶其他貿易ニ關スル一切ノ統計及報告

二 甲號課稅原簿ノ整理

三 貿易年表及其他貿易統計ニ關スル書冊ノ保管

四 支署ヨリ送付スル貿易統計ニ關スル書類ノ調査及保管

五 輸出入申告書謄寫願ノ處理

非常出務に關する内規 二十九年六月非常出務内規を配布し火災、洪水等非常の際

し吏員の進退は一に之れに従はしむ

大阪稅關非常出務内規

第一 警鐘打撃ノトキハ其方法ニ注意シ直ニ出關スヘシ

第二 當宿員在關吏ハ近火ノトキ收稅及經費ニ關スル書類ハ倉庫ニ納メ次ヲ器具取片付ニ注意ス

ヘシ

第三 監視員ハ非常ノトキニ於テ保稅貨物ノ散亂ヲ防キ關内ノ取締ニ從事スヘシ

第四 各課員ハ出關ノ上各自擔當ノ書類ヲ始メ器具ニ至ル迄水夫小使等ヲ指揮シ取片付ヲナスヘ

シ

第五 庫ノ隔口ニ注意シ火防ニ盡力スヘシ

第六 本關備付ノ水道引管ハ監吏之ヲ保管シ非常ノ際其使用ヲ指揮スヘシ



第二章 分課事務

百八十二

第七 洪水ノ時上屋部内ノ貨物ニ害ヲ及ホスノ見込アルトキハ人夫ヲ指揮シ臨機ノ處分ヲ爲スヘキ事

第八 前條ノ場合ニ於テ各自ノ擔當ハ火災ノ例ニ依リ書類器具ノ取片付ニ盡カスヘシ  
二十九年六月三日

(備考) 税關長官房は二十九年六月九日大省の達示に依り同月十一日始めて大阪税關に新設す然るに右非常出務内規は同年六月三日を以て配布せるか故に之れを庶務課事務の中に編むは至當なりと雖も今便宜上是に收めたり

後三十一年三月六日更らに火災準備内則と題し左の内則を回示せり

火災準備内則

税關ハ輸出入貨物ノ徵稅ヲ爲スヲ以テ之カ取締ト保管トヲ完全ナラシムルハ最緊要ナリトス故ニ

火災其他非常ノ際税關官吏ハ本内則ニ從テ防禦準備ヲナスヘキモノトス

第一條 税關又ハ其近傍ニ於テ失火シタルトキハ各官吏ハ直ニ駆付ヘシ

第二條 火災準備ヲ分テ内外二部トス

第三條 内部準備ハ各課長若シタハ出頭中ノ首席員ニ於テ其分掌ノ文書諸帳簿器具運搬ノ事ヲ指揮スルモノトス

但閉關中ニ在テ各課員着關セサル間ハ監視部分擔シテ便宜内部準備ニ從事スヘシ外部準備ハ監視部長監吏補ニ於テ水夫定備夫駆付人夫等ヲ指揮シ消防手配貨物ノ保護運搬其他一切ノ取締出入人ノ調査税關ノ標燈掲示倉庫ノ目塗及税關官舎ヘ急報ヲナスモノトス

第四條 各課員ハ上官ノ指揮アルニ非ラサレハ執務場ヲ離ル、コトヲ得ス

第五條 在直守警ハ第三條ニ隨ヒ水夫定備夫小使駆付人夫等ヲ指揮シ倉庫ノ目塗關長部長各課長

及警察官ヘ急報シ税關ノ警燈及標燈ノ點火等ヲナスヘシ

但シ守警ハ當分ノ内當直監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 監視部長若クハ首席監吏ハ指揮總長トナリ在關監吏補ヲ三部ニ分チ監吏若クハ監吏補一名各部ニ指揮長トナリ又水夫定備夫小使駆付人夫ヲ二部ニ分チ之ヲ前記ノ一部二部ニ屬セシム第一部ハ消防ニ第二部ハ貨物ノ保護運搬ニ第三部ハ各門及關内海岸ノ守備並海上ノ取締ニ從事スヘシ

但事宜ニ依リ指揮長各部ノ人員ヲ彼是轉用スルコトヲ得ヘシ又守警ヨリ人夫ノ要求アルトキハ便宜幾分ヲ分遣スヘシ海上及倉庫ノ取締ヲ要スル場合ニ於テハ第三部員ノ内ヲ派遣スヘシ  
第七條 第三條ノ首席員及第六條中ノ指揮總長及ヒ指揮長ハ在場ノ席次ニ從ヒ直チニ之ニ充ツルヲ以テ其當該者到着スルトキハ之ニ引繼クモノトス

第八條 第六條ノ場合ニ於テ現監視者ハ監視位置ヲ離去スルコトヲ得ス

第九條 本關及監視部正門監視者ハ直ニ見舞人ヲ受付ヲナスヘシ

第十條 各門監視者ハ第三部指揮長ノ指揮ニ屬シ無用ノ者及混雜若クハ混雜ノ虞アルニ際シ車馬等ノ入ルコトヲ禁シ關内ノ雜沓ヲ防クコトニ注意シ左項ノモノ、外一切出入セシム可カラス

(一) 當衛ニ奉仕ノ者及駆付人夫

(二) 救護ノ爲メニ來ル内外軍艦員及警察官居留地警察員消防手

(三) 關内ノ陸揚會社ニ備仕ノ者

(四) 關内ニ貨物ヲ有シ救護ノ爲メ來ル者

第十一條 海岸監視者ハ第九條ニ掲クルモノ、外構内各海岸ヨリ上陸セントスルモノアルトキハ之ヲ拒絶スヘシ

第二章 分課事務

百八十三



- 第十二條 當務監吏ハ各波止場共必要ノ人員ヲ殘シ取締ヲ爲サシメ他ハ火災準備ノ場所へ送致スヘシ
- 第十三條 各課員ハ一定ノ標章ヲ帶ヒ各自擔當ノ場所へ駐付非直監吏補ハ制服ヲ着シ火災準備ノ場所ニ集合シ指揮ニ從事スヘシ
- 第十四條 指揮總長ハ晝間ハ監視船旗夜間ハ高張提灯ヲ目標トシ第一部指揮長ハ晝間ハ紅白染分旗夜間ハ綠燈第二部指揮長ハ晝間ハ紅旗夜間ハ紅燈第三部指揮長ハ晝間ハ白旗夜間ハ白燈ヲ以テ目標トス
- 第十五條 内部準備ヲ了シタルモノハ外部準備第二部ヲ補助スヘシ
- 第十六條 水夫定備夫小使及駐付人夫等使役ヲ命セサルモノハ皆指揮總長指定ノ場所ニ集合指揮ヲ待タシムヘシ
- 第十七條 關員ハ散亂放語スルコトヲ許サス必ス靜肅ヲ保チ一体ノ動作ヲ爲スコトヲ要ス
- 第十八條 稅關近傍ニ火災アリタルトキ若クハ近傍ナラサルモ風向ニ依テハ前各課ノ準備ヲ爲スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ火元實見ヲ命セシ者ノ外災所其他ニ到ルヲ許サス
- 第十九條 物品ノ保護運搬ヲ命シタルトキハ火災場最近ノ場所ヨリ着手スヘシ
- 第二十條 倉庫ノ目塗ヲ行フニハ可成堅要ニ塗ラシムヘシ
- 第二十一條 器具又ハ水等ヲ運搬スルトキハ其距離ニ應シ便宜人夫ヲ配付シ成ヘク手渡ニ爲サシムヘシ
- 第二十二條 總テ物品ヲ運搬スル場所ハ火災場ニ最離レタル空地ト定ムヘシ
- 官有物品ハ稅關倉庫又ハ火災場ニ遠サカリタル所ニ運送スヘシ

- 保稅倉庫ニ一般ノ輸出入貨物ヲ入ル、ハ倉庫課員及第二部指揮長ノ監督ニ從ヒ該倉庫ニ殊ニ餘裕アリテ且第二十四條若クハ借庫規則第十八條ニ掲クル外ニシテ他ノ貨物ニ危險ヲ及ボサハルモノト思料スルモノニ限リ一棟貸ノ倉庫ハ渾テ其借主ノ外使用スルヲ得ス
- 貨物ヲ解船ニ積ミ救護セントスルモノアルトキハ之レヲ許可スヘキニ依リ時狀ニ從ヒ監視船艇ノ準備ヲナシ水上必要ノ場所ニ監視者ヲ配置スヘシ
- 必要ニ從ヒ貨物ヲ稅關構外へ運出セントスルモノアルトキハ第三部指揮長ハ適宜監視者ヲ派遣スヘシ
- 第二十三條 斧又ハ其他ノ刃物類ヲ携帶スルモノハ動作ノ際ハ誤テ人ヲ傷害セサル様注意スヘシ
- 第二十四條 稅關倉庫ニ納ムヘキ文書物品ハ非常持退ノ記號アルモノヲ先キトシ然ル後尙ホ他ノ物品ニ及フヘシ
- 第二十五條 地方消防員ノ到着スルトキハ外部準備員ハ時機ニ從ヒ相當ノ應援ヲ爲シ專ラ稅關守衛貨物ノ監守ニ從事スヘシ
- 第二十六條 稅關又ハ稅關近傍ノ火災ニ於テハ警燈トシテ稅關内尤モ認メ易キ所ニ點火スヘシ
- 危險ニ迫ルトキハ指揮總長ノ指揮ニ依リ電線ヲ斷ツヘシ
- 第二十七條 災所ニ於テ消防ニ從事スルモノハ其發火物ノ性質ニ注意シ消火ノ應用ヲ認誤ルヘカラス警ヘハ水ヲ以テ消滅スルコト能ハサルモノ若クハ水ノ爲メニ火勢ヲ助クル恐レアル物品(石炭石油揮發物(アルコール)其他類似ノ物質)ヨリ發火シタルトキハ第一着ニ應用ノ消火器ヲ用ヒ若クハ砂泥灰粉等ヲ用ユル等是ナリ
- 第二十八條 防火使用ニ供スルハ左ノ物件トシ一ヶ月二回守警之ヲ點檢シ應變ノ注意ヲナスヘシ
- (一) 唧筒及附屬品



- (一) 揮發質物發火防消器
- (二) 帆木綿水囊及附屬網具
- (三) 手斧及斧口
- (四) 水道水管口
- (五) 砂泥灰粉及目塗土
- (六) 物品運搬器
- (七) 梯子提燈及其他消防必需品

第二十九條 守警ハ三ヶ月ニ一回ヲ標準トシ閉關中仕役ナキ日消防水射練習ヲ爲シ防火器其ノ運用ヲ檢スヘシ此場合ニ於テハ實地適用及習熟ノ爲メ監吏及各主任立會フヘシ

第三十條 守警ハ關内ニ於ケル各水道管口ニ目標并ニ番號ヲ附シ應變ノ用意ヲナスヘシ

第三十一條 暴風雨震災其他ノ變災ニ際シテハ本部在直監吏及監吏補ハ本内則ニ準シ相當ノ防禦

ニ從事スヘシ他ノ關員モ亦同シ

第三十二條 碇泊船中ニ火災アルトキハ直ニ軍艦又ハ警察官ニ急報シ成ヘク救助ヲ爲シ若シ海中

ヘ投棄セシ貨物アラハ其取締方ニ注意スヘシ

尋テ七月二十二日曩ニ配布せる火災準備内則を改竄して更らに非常準備内規と題し各課員に回覽服膺せしむ

非常準備内規

火災其他ノ變災ニ際シ文書ノ紛亂ヲ防キ應舍ノ安全ヲ謀リ貨物ノ保管ヲ完カラシメンニハ事ニ衝リ須ラク一体ノ動作ヲナスヲ要ス仍テ茲ニ防壓ノ法ヲ内規シ關員ヲシテ準據スルトコロアラシム

第一條 稅關又ハ其近隣ニ出火アルトキ及近火ナラサルモ風向ニ依リ關員ハ直ニ出廳ス可シ

第二條 火災準備ヲ分チ内外二部トス

第三條 内部準備ハ課部長若クハ首席員ニ於テ其分掌ノ文書帳簿器具等ノ運搬ヲ指揮スヘシ

但閉關中關員未着中ハ監視部員ハ本關當宿直員ト協力シテ内部準備ニ從事ス可シ外部準備ハ監視部長若クハ監吏ニ於テ水夫定備夫駐付人夫等ヲ指揮シ消防ノ手配、貨物ノ保護運搬其他一切ノ取締、出入人ノ調査、稅關ノ標燈警燈ノ掲出点火、倉庫ノ目塗、稅關官舍及警察官ヘノ急報ヲ爲スモノトス

第四條 監視部長若クハ監吏ハ指揮總長トナリ監視部員ヲ二部ニ分チ監吏若クハ監吏補壹名各部

ニ指揮長トナリ又水夫定備夫小使駐付人ヲ二部ニ分チ之レニ分屬セシム

第一部ハ消防ニ第二部ハ貨物ノ保護運搬、關前波止塙及之ニ接近セル河川上等各要所ノ守備取締ニ從事ス可シ

但事宜ニ依リ指揮總長ハ各部ノ人員ヲ彼此轉用スルコトヲ得可シ

第五條 各門監視者ハ左記ノ外一切出入ヲ禁シ以テ關内雜沓ノ防避ヲ務ム可シ

一 當衝ニ奉仕ノ者及駐付人夫

二 警察官并ニ消防手

三 關内貨物ニ利害ノ關係アルモノ及其被備者

第六條 本關員ハ一定ノ標章ヲ帶ヒ各自擔當ノ場所ヘ監視監吏補ハ制服ヲ着ケ火災準備ノ場所ヘ集合ス可シ

第七條 指揮總長ハ晝間ハ監視船旗夜間ハ高張提燈ヲ第一部指揮長ハ晝間ハ紅旗夜間ハ紅燈ヲ第二部指揮長ハ晝間ハ綠旗夜間ハ綠燈ヲ以テ目標トス



第二章 分課事務

百八十八

第八條 内外各部及一二兩部ノ準備ヲ了シタルモノハ互ニ相補助ス可シ

第九條 税關倉庫ニ納ム可キ文書物品ハ非常持退ノ記號アルモノヲ先トシ次ニ他ニ及フモノトス

第十條 保税倉庫ニ一般ノ輸出入貨物ヲ納ルハ課部長若クハ倉庫課員ノ指揮監督ニ從ヒ該倉庫ニ餘裕アリテ且第九條若クハ借庫規則第十八條ニ掲クル外ニシテ他ノ貨物ニ危険ヲ及ホサルモノト思料スルモノニ限リ又壹棟貸ノ倉庫ハ渾テ其借主ノ外使用スルヲ得ス

貨物ヲ解艇ヘ積ミ救護セントスルモノアルトキハ之ヲ許可スヘキニ依リ時狀ニ從ヒ監視船艇ノ準備ヲ爲シ水上必要ノ場所ニ監視者ヲ配置ス可シ

必要ニ從ヒ貨物ヲ税關構外ヘ運ヒ出サントスルモノアルトキハ第二部指揮長ハ適宜監視者ヲ派遣ス可シ

第十一條 火災場ニ於テ消防ニ從事スルモノハ發火物ノ性質ニ注意シ消火ノ應用ヲ誤認ス可カラ

第十二條 關員ハ散亂放語スルコトヲ許サス必ス靜肅ヲ保テ上官ノ指揮ニ從フ可シ

第十三條 斧、齧口其他ノ物ヲ携帯スルトキハ其使用ニ注意シ他ヲ傷害セサルコトヲ慎ム可シ

第十四條 左記防火用物件ハ一ヶ月二回指揮總長若クハ指揮長之ヲ點檢ス可シ

- 一 唧筒及附屬品
- 二 揮發質物發火消防器
- 三 帆布綿水囊及附屬網具
- 四 手斧及齧口
- 五 水道引管
- 六 砂、泥灰粉及目塗土

七 物品運搬器

八 梯子、提燈及其他消防必要器

第十五條 指揮總長若クハ指揮長ハ每三ヶ月壹回ツ、消防水射練習ヲ爲シ防火器具ノ運用ヲ檢ス可シ

第十六條 碇泊船中ニ火災アルトキハ直ニ警察官ニ急報シ可成救助ヲナシ若シ水中ニ抛擲セシ貨物アラハ其取締方ニ注意ス可シ

第十七條 風雨震災洪水其他ノ變異ニ際シテハ在直監視部員ハ本關當宿直員ト協議シ本内規ニ準シ相當ノ防禦ニ從事ス可シ

三十六、文書ノ發受 從來文書ノ發送若しくは接受は常に各課の分擔に屬し往々其統一を欠き整理保存の上に於て紛雜を來すの眞勢なからざるを以て遂に二十九年十二月二十五日是れか發送若しくは接受に關する規程を設け翌二十年一月一日より實施せしむ規定左の如し

文書ノ接受

- 一 接受件名簿ハ文書係之ヲ保管ス
  - 一 接受セサル文書ハ文書係之ヲ件名簿ニ記入シ整理回付保管ヲ爲スヘシ
  - 一 接受セル文書ニシテ本關及文書係ニ宛テタルモノハ文書係之ヲ保管ス
  - 一 但出納及用度ニ關スルモノハ原紙ヲ庶務課ニ送り寫ヲ文書係ニ備フ
  - 一 課部係ニ宛テタル文書ハ當該者之ヲ保管ス
- 文書ノ發遣
- 一 發遣件名簿ハ文書係之ヲ保管ス
  - 一 發遣スル文書ハ番號ヲ件名簿ニ記入スヘシ

第二章 分課事務

百八十九



第二章 分課事務

百九十一

一天、地、文及回ノ番號ヲ附スヘキ書類ハ起案淨書發遣共ニ文書係之ニ任シ併セテ之ヲ保管ス  
一課部又ハ係ノ番號ヲ附スヘキ書類ノ起案及保管ハ當該者之ニ任ス  
一發遣書類ニ使用スル記號ハ左ノ如シ

第一、關名又ハ關長名義ヲ以テスルモノ

天 大藏省ヘ宛テタルモノ

地 大藏省以外ヘ宛テタルモノ

第二、課部係名ヲ以テスルモノ

文 文書係

統 統計係

檢 検査課

鑒 鑒定課

徵 徵收課

倉 倉庫課

庶 庶務課

監 監視部

貨 貨物係

回 回達

文書係保管綴込書類

本省指分達

他官應照會往復

本省照會往復

文書係照會往復

回達簿

職員出勤簿

職員簿

原籍簿

職員住居簿

諸伺

辭令并受書

以上

監吏補賞罰人員表

給仕以下雇人出勤簿

分課簿

印鑑簿

現行諸内規

開關出勤簿

職員願届書類

三十七、官吏心得概則の配布 三十年二月六日關長より稅關官吏心得概則を配布して曰

凡ソ關稅官吏ハ其職掌直接ニ内外國人ニ對シ關稅ノ徵收若シクハ密商ノ防遏等ニ從事スルモノ職  
責ノ重クシテ且大ナル固ヨリ言ヲ俟タサルナリ是ヲ以テ平素服務ノ間亦一層ノ謹戒ヲ加ヘサルヘ  
カラス因テ此ニ關稅官吏心得ノ概要ヲ舉示シ以テ服膺スル所アラシム

第一 關稅官吏ハ自ラ持スル敬重ニシテ常ニ其舉止言動ニ注意シ内外人民ニ對シ威信ヲ失セス  
勉メテ謹厚ヲ旨トスヘシ

第二 關稅事務ハ最モ周到綿密ヲ要スト雖モ徒ラニ事ヲ繁縟ニシ人民ニ煩冗ヲ感セシム可カラ  
ズ又固ヨリ懇切ヲ要スト雖モ職務ノ分限ヲ踰越シ毫モ關涉スル等ノコトアルヘカラス

第三 事務ヲ處辨スルハ嚴正ニシテ敏活ナルヲ貴フト雖モ苛酷ニ流レ若クハ疎漫ノ弊ニ陥ルヘ  
カラス事ニ臨ンテ熟慮精察果斷ニシテ寛和ヲ失フヘカラス

第四 密商通稅ノ犯則ハ固ヨリ其取締ノ整否ニ關シ消長スルモノナレハ事ノ巨細トナク注意周  
密ニシテ須ラク之ヲ未萌ニ防止シ寧ロ犯則ノ累ナキヲ期スヘシ

第二章 分課事務

百九十一



- 第五 犯則ヲ發見シ若クハ犯則ト思料スルトキハ事實ノ如何ヲ精査シ之レニ處スル公正嚴格ヲ旨トシ詭辨ニ惑シ情誼ニ偏シ證左ヲ煙没スル等ノコトアルヘカラス
- 第六 關稅官吏ハ人民ノ貨財ニ對シ其職務ヲ行フモノナレハ特ニ素行ヲ修メ最モ清廉ナラサルヘカラス故ニ其私事ニ於テモ貨主ニ對シ人ノ耳目ヲ引ク等ノ舉動ヲ慎ム可シ
- 第七 關稅官吏ハ商家ノ機密ヲ見聞スルモ決シテ之ヲ他人ニ漏洩スヘカラス
- 第八 關稅官吏ハ人民ニ接スルニ相當ノ禮節ヲ失フヘカラス萬一人民ニ於テ無禮失言其他粗暴ノ舉動アルモ其職務ヲ妨害セサル以上ハ宜シク忍耐持重シテ公正之ニ當ルヘシ然レトモ其職務ヲ妨ケ威信ニ關スルニ至ラハ苟モ假借スヘカラス
- 第九 關稅官吏ハ職務ノ際ニ服裝姿勢ニ法意スルハ勿論全僚互ニ雜談論爭スル等威容ヲ失ヒ体面ヲ損スルノ舉動アルヘカラス
- 第十 執務中猥リニ私事ヲ以テ人ニ接シ或ハ使夫ヲ私役シ又ハ私信ヲ書シ私書ヲ讀ム等ノコトアルヘカラス
- 第十一條 執務中ハ各自其職掌ノ地位ニ從ヒ相犯シ相濫ルコトナク互ニ禮讓ヲ重スヘシ若シ全僚ノ過失誤謬アリト思惟セハ徐ニ忠告匡正シ互ニ補翼相提携シテ官務ノ舉クルヲ期スヘシ
- 第十二條 關稅官吏ハ上官ノ指揮ニ遵ヒ公正忠實其務ニ服スヘシ若シ事體變例ニ屬シ或ハ重大ナルモノハ狀ヲ上官ニ具シテ其指令ヲ受クヘシ
- 第三十八、文書類の取扱、編輯及保存規程 三十一年五月十日を以て文書取扱及び保存規程を各部課に記録編輯規程と文書係に配布實施せしめ從來の文書係保存規程を廢止せしむ

大阪稅關文書取扱規程

第一 文書ノ受理

- 第一條 總テ到達スル公文ハ官房文書係ニ於テ之ヲ受理スルモノトス但シ關稅ニ關スル一定ノ申告書類ハ當該課ニ於テ受理ス
- 第二條 文書ヲ接受スルトキハ之ヲ受付簿ニ記入シ其本關若クハ關長宛ノモノハ受付月日ヲ本書ヘ記入シ課長及關長ノ閱覽ヲ經テ關係課ヘ通知シ其課宛ノモノハ直ニ交付スヘシ
- 第三條 本關又ハ關長宛ノ文書ハ文書係之ヲ保管シ課宛ノモノハ當該課之ヲ整理保管ス
- 第四條 受付簿ハ文書係之ヲ保管ス
- 第二 文書ノ發遣
- 第五條 發遣スル文書ハ番號ヲ附シ之ヲ件名簿ニ記入シ其關名若クハ關長名ヲ以テスルモノハ文書係ニ於テ其課名ヲ以テスルモノハ當該課ニ於テ起案淨書保管スルモノトス
- 第六條 發遣書類ニハ左ノ記號ヲ附記スヘシ
  - 第一、關名若クハ關長名ヲ以テスルモノ
    - 天 大藏省ヘ宛テタルモノ
    - 地 大藏省以外ヘ宛テタルモノ
  - 第二、課名ヲ以テスルモノハ其頭字
- 第七條 發遣手續ヲ了シタルトキハ之ヲ庶務課ニ交付シ郵稅若クハ電信料ノ支拂ヲ受クヘシ
- 第八條 發遣スヘキ文書若クハ圖面ハ必ス扣書ヲ存スヘシ
- 第九條 本省所管各廳及本關支署間ノ電報ハ總テ所定ノ符號ヲ用ユヘシ
- 第十條 件名簿ハ文書係之ヲ保管ス
- 第三 雜
- 第十一條 令達其他重要ノ文書ハ回覽ヲ付シ各課ノ回覽ニ供スヘシ

第二章 分課事務



第二章 分課事務

百九十四

第十二條 凡ソ文書ハ起案若クハ關覽者ニ於テ必ス一定ノ位置ヘ捺印ス可シ  
第十三條 諸文書ノ紫摺其他字跡消滅ノ虞アルモノハ之ヲ改寫スヘシ  
第十四條 往復文書ハ處理結了ノ後一定ノ帳簿ニ綴込ミ一年毎ニ之ヲ編輯スヘシ

大阪稅關文書保存規程

第一條 稅關事務ニ關スル諸申告書及日常往復公文類ハ本規程ニ據リ一定ノ期限間各主任ノ課ニ於テ保存スルモノトス

第二條 例規徵證トナルヘキ文書若クハ他日ノ參考ニ資スヘキ簿冊ハ總テ永世保存トス概目左ノ如シ

- 一、輸出入、回漕、船移、入出庫ノ貨物及出入港船舶其他稅關雜收入ニ屬スル申告書類
- 二、貨物船舶ニ對シ附與シタル證書若クハ證明ニ關スル書類
- 三、歳入歳出及物品會計ニ關スル證憑書類
- 四、會計決算認可書類
- 五、大臣令達申牒伺指令其他例規徵證若クハ參考トナスヘキ一切ノ往復文書圖案ノ類
- 六、關長ノ達示命令ニ關スル書類
- 七、事務成績ニ關スル書類
- 八、文書保存ニ關スル書類
- 九、契約若クハ命令書ノ類
- 十、職員任免賞罰ノ辭令案並ニ受書其他監吏監吏補試驗成績表ノ類
- 十一、職員履歷書若クハ身元引受證書ノ類
- 十二、職員進退伺若クハ具狀書復命書ノ類

- 十三、傭人進退ニ關スル書類
  - 十四、指令ヲ與ヘタル人民會社諸願伺書類
  - 十五、輸出入、回漕、船移、若クハ上屋、倉庫出入ノ貨物出入港船舶ニ關スル登記諸帳簿謄寫簿若クハ船舶尋問簿ノ類
  - 十六、貨物船舶其他貿易ノ統計ニ屬スル諸原簿若クハ諸表ノ類
  - 十七、歳入歳出並ニ官有財產物品會計ニ關スル諸原簿仕譯簿補助簿若クハ計算書ノ類
  - 十八、公文ノ接受發遣ニ關スル諸帳簿
  - 十九、貿易年月表其他貿易統計ニ屬スル諸冊子類
  - 二十、諸法令其他永世參考ニ資スヘキ報告諸冊子類
- 第三條 前條ノ外一時ノ措辨ニ止マリ若クハ永世保存ノ必要ナキモノハ通常二十年以下二年以上ニ於テ適宜期限ヲ定メ保存スルモノトス概目左ノ如シ
- 一、積荷目錄 (二十年)
  - 二、領事船籍預リ證書 (五年)
  - 三、輸出入回漕船移及上屋倉庫出入ノ貨物内外航船遊船船解沖商業等ニ係リ人民會社ヨリ出セル諸願屆書類 (五年)
  - 四、直許ニ係ル輸出入品申告書其他貨物船舶ニ屬スル取扱濟ノ免狀類及預リ書ノ類若クハ吏員手帳ノ類 (五年)
  - 五、各課並ニ宿直員日誌ノ類 (五年)
  - 六、一時限リ措辨ノ往復書簡類 (五年)
  - 七、各部課間報告若クハ通知ニ屬スル書類 (二年)

第二章 分課事務

百九十五



- 八、送達簿ノ類 (二年)
  - 九、吏員并ニ傭人出勤簿ノ類 (二年)
  - 十、監吏補身元引受證書 但退職者ニ係ル分 (二年)
  - 十一、監吏補試験應答ニ關スル書類 (二年)
  - 十二、吏員傭人ヨリ出セル雜願屆書類 (二年)
  - 第四條 永世保存ヲ除クノ外總テ保存期限ニ達スルトキハ各部課長ヨリ關長ヘ伺ノ上決斷ヲ經テ廢棄ノ處分ヲナスヘシ
  - 第五條 各部課保存ニ係ル書類帳簿ハ毎年四月前年分ノ目錄ヲ調製スヘシ  
但保存期限滿了後廢棄ニ付セシトキハ其都度之ヲ目錄ニ記入スルモノトス
  - 第六條 廢棄ニ付スル書類ハ當該部課ニ於テ其都度書面ニ押捺セル官廳其他ノ印影ヲ抹殺スヘシ
  - 第七條 廢棄ニ附セシ書類ハ總テ之ヲ庶務課ヘ引繼クヘシ
  - 第八條 保存書類ハ當該部課ニ於テ常ニ類別整理シ且表紙ニ保存期限ヲ付記スヘシ
  - 第九條 第二條第三條所定ノ外新タニ事目ヲ加ヘタルトキ若クハ疑岐ニ涉ルモノアルトキハ其都度伺出ツヘシ
- 大阪稅關記錄編輯規程
- 第一條 記錄ハ本關必要ノ文書ヲ保管スルタメ官房文書係ニ於テ之ヲ編輯スルモノトス
  - 第二條 記錄ヲ分テ左ノ二種トス
    - 一、秘密文書
    - 二、通常文書

- 第三條 記錄ハ一年毎ニ之ヲ編輯スヘシ
- 第四條 記錄中ノ文書ニシテ彼此參照ヲ要スルモノハ符號ヲ設ケテ成ルヘク搜索ノ便ニ供スヘシ  
但シ歐文ハ譯文ヲ添フヘシ
- 第五條 往復公文ニ付帶セル別冊様式又ハ圖面ノ類ニシテ記錄中ニ合綴シ難キモノアルトキハ別ニ公文付屬書留ヲ設ケテ之ヲ綴込ミ事件ノ摘要ヲ傍記シ且ツ記錄中ノ公文ト共ニ卷數丁數ヲ符合スヘシ
- 第六條 既ニ編輯セシ文書ニシテ他日改正加除ノ通知ニ接スルトキハ原書ヘ之ヲ追記スヘシ
- 第七條 記錄編輯ノ分類事目ハ左ニ據ルヘシ
 

本省指令達	本省往復	諸官衙往復
課長往復	現行內規	諸 伺
親展往復	諸 令	
履 歷 書	年 報	貿易年報
文書往復		
- 第八條 隨時分類事目ノ増補ヲ要スルトキハカメテ先例ヲ推シテ順序ヲ立ツヘシ
- 第九條 記錄ハ毎年明細ノ目錄ヲ調製スヘシ
 

職員勤惰表調製心得

  - 一、職員勤惰表ハ半年毎ニ調製スヘシ
  - 二、初任若クハ他應ヨリ轉任ノ爲メ新ニ就職シタルモノハ總テ辭令面ノ日ヨリ計算スヘシ
  - 三、他應ヘ轉任ヲ命セラレタルモノハ總テ辭令面日付ノ前日迄ヲ計算スヘシ  
但退官又ハ死亡者ニ在テハ辭令面若クハ死亡ノ當日ヲ算入ス
  - 四、轉任者發令ノ日ヨリ赴任就職迄ノ日數ハ總テ休日ニ算入スヘシ
  - 五、皆勤者ハ出勤日數日ヲ朱書スヘシ



但祭日及忌引ハ皆勤日數ニ算入ス  
六、新任若クハ轉任退官等ノタメ當期中異動ニ係ルモノハ任免ノ欄ヘ其任免月日ヲ記入スヘシ  
七、當期中他廳ヘ轉任若クハ退官死亡ノモノハ現在員ノ位置ヨリ適宜數行ヲ隔テ、取纏メ列載スヘシ

八、勤隋表用紙ハ庶務課ヘ請求スヘシ

三十九、官吏出勤心得并宿直規則 三十一年六月八日官吏出勤心得并宿直規則を配布セリ

大阪税關官吏出勤心得并宿直規則

第一章 出勤心得

第一條 本關官吏ハ平日午前十時迄ニ登廳午後四時退廳スヘシ

但即日完結ヲ要スル殘務アルトキハ此限りニ非ラス

第二條 登廳ノ上ハ直ニ關長室ニ就キ出勤簿ニ捺印スヘシ

第三條 本關官吏ハ洋服ノ外着用スヘカラス

第四條 父母ノ祭日又ハ病氣ニ因リ引入ルトキハ祭日ハ前日中ニ病氣ハ當日午前十時迄ニ其屆書ヲ出スヘシ

但病氣届ハ其都度必ス引入日數ヲ豫定記入シ且引續欠勤十日毎ニ屆書ト共ニ醫師ノ診斷書ヲ出スヘシ

第五條 忌服ニ當ルトキハ即日忌引届ヲ出シテ引入リ指揮ヲ待ツヘシ

但七歳未満ノ小兒ニ對シテハ一日ノ遠慮届ヲ出スヘシ

第六條 父母ノ看病歸省墓參其他轉地療養等ハ總テ豫定日數ヲ記入シテ願出テ指令ヲ受クヘシ

第七條 出勤中發病等ノ爲メ退廳セントスルモノハ其屆書ヲ出シテ許可ヲ受クヘシ

第八條 暑中休暇ヲ賜フトキハ事務ノ繰合等ハ專ラ各部課長ニ於テ擔理シ人名日數ヲ届出スヘシ

第九條 出張ヲ命セラレタルモノ若クハ第六條ノ指令ヲ受ケタルモノ若クハ本關所管内ノ轉任ヲ命セラレタルモノハ出發歸着共各屆書ヲ出シ且ツ轉任者ニ在テハ任地到着届ヲ出スヘシ

第十條 出張官吏ハ歸着後二日以内ニ復命書ヲ出スヘシ

第十一條 出張其他旅費ノ支給ヲ受ケテ赴任スルモノハ旅行日記ヲ出スヘシ

第十二條 新任若クハ他廳ヨリ轉任ノ者ハ就職後速ニ履歷書并ニ宿所届ヲ出スヘシ

第十三條 族籍氏名ノ變更改印其他宿所移轉等ハ其都度速ニ届出スヘシ

第十四條 任免増俸其他賞罰ノ辞令ヲ受ケタルトキハ即日受書ヲ出スヘシ

但用紙ハ美濃紙ニ限ル

第十五條 本關出張所間ノ轉勤若クハ他廳ヘ出向等ヲ命セラレタルトキハ辞令受領後五日以内ニ

出發赴任スヘシ若シ該期日內ニ出發シ難キ事故アルトキハ事由ヲ具シテ關長ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條 新年紀元節天長節ニハ禮服用ノ上拜賀ノ爲メ出頭スヘシ

但拜賀時刻ハ當日午前九時トス

第十七條 本關近火其他天災事變等ノ場合ハ臨時速ニ出頭スヘシ

第十八條 職員ヨリ差出ス願伺届書其他具狀書ノ類ハ總テ關長ニ宛テ當該部課長ノ認印ヲ受ケテ之

ヲ官房文書係ヘ差出スヘシ

第十九條 職員ヨリ差出ス願伺届書類ハ總テ半紙若クハ半紙野紙ヲ用ウヘシ

第二章 宿直規則

第二十條 本關判任官(各部課長同心得ハ之ヲ除ク)毎日一名宛順番ヲ以テ本關ニ宿直スヘシ

第二章 分課事務



第二十一條 宿直ヲ分テ平日宿直及休日宿直ノ二種トス  
平日宿直ハ午後四時ヨリ翌日午前十時迄トシ休日宿直ハ午前十時迄トシ休日宿直ハ午前十時ヨリ翌日午前十時迄トス

第二十二條 宿直員ハ慰勞トシテ翌日正午ヨリ休暇ヲ賜ハルモノトス  
但事務ノ都合ニ依リ繰合セ難キトキハ此限リニ非ラス

第二十三條 日常出務ニ堪ユルモ他ニ感染シ易キ疾病アルモノハ詮議ノ上一時宿直ヲ除却スルコトアルヘシ

第二十四條 宿直ハ平日休日共左ノ例ニ依リ文書係ニ於テ一定ノ順序表ヲ製シ配付指定ヲナスモノトス  
但宿直當番ハ別ニ本人ヘ通知セサルヲ以テ各自常ニ文書係内ノ掲札ニ注意スヘシ

一 課部長解任者

二 新拜命及再奉職ノ者

三 他應ヨリ轉任ノ者

右ハ總テ一順後ニ組入ルヘシ

第二十五條 公務出張中又ハ急引中ハ宿直ヲ免除ス

第二十六條 欠勤中宿直當番若クハ宿直當日ニ至リ俄ニ欠勤スルトキハ一時其宿直ヲ猶豫シ追テ返勤トシテ平日宿直ハ出勤ノ翌日休日宿直ハ其二回目ニ組入ルヘシ

但長日引續欠勤ノ爲メ宿直返勤滞テ數回ニ及フト雖モ其返勤ハ一回ニ止マルモノトス

第二十七條 前條當番欠勤ノ場合ニ於テハ當日宿直ハ次順ノモノヲ繰上クヘシ

第二十八條 平日休日共同ノ者宿直前後連續スルトキハ後宿直ヲ一日繰下クヘシ

第二十九條 宿直當日父母ノ祭日ニ當ルモノハ宿直ヲ一日繰下クヘシ

第三章 宿直心得

第三十條 宿直員ハ閉廳後小使ニ於テ掃除済ミ次第各室ノ鎖鑰ヲナシ其他構内ノ諸取締ハ勿論殊ニ火ノ元等嚴重ニ注意シ宿直中ノ要件ハ遺漏ナク宿直日誌ニ記載シ置キ總テ關係ノ課ヘ之カ引繼ヲナスヘシ

第三十一條 閉廳中内外人ヨリ願出スル事件ハ總テ拒絕シ翌日開廳中ニ出願セシムヘシ  
但臨時開廳其他已ムヲ得サル事件ニシテ捨置キ難ク看認ムルモノハ其主務ノ課長ヘ通牒協議シ或ハ關長伺ヲ經テ相當ノ處辨ヲナスヘシ

第三十二條 天災又ハ近火等ノ爲メ當關營造物其他諸貨物ニ對シ危險損傷ノ虞アルトキハ相當ノ保護防禦ヲナスヘキハ勿論關長各課長等ヘ急報シ夫々臨機ノ取計ヒヲナスヘシ

第三十三條 宿直中諸方ヨリ到着スル公文又ハ諸物品ハ總テ宿直日誌ヘ記載シ左ノ通取計フヘシ  
一 關長宛ニ係ル親展電信、親展至急書翰類ハ直ニ關長又ハ課長ノ自邸ヘ送付スヘシ  
二 親展ノ外通常電信又ハ至急書翰類ハ直ニ課長又ハ文書係員ノ宅ヘ送付スヘシ其各課係宛ノモノハ當該課員ノ宅ヘ送付スヘシ

三 前記ノ外通常ノ書信及諸物品ハ總テ留置キ翌朝ニ至リ日誌ト共ニ自身文書係ヘ引繼クヘシ

第三十四條 宿直中接受セシ公文其他諸物品ハ宿直員ニ於テ漫リニ開披スルヲ禁ス  
但要急ノ件ト認ムルトキ又ハ必要ニ際シテハ此限ニアラス

第三十五條 前條開披ノ場合ニハ封皮ニ事件摘要及紙數等ヲ詳記シテ記名捺印シ且該處理ノ手續ヲ日誌ニ記載スヘシ

第三十六條 宿直員ヨリ文書又ハ物品ヲ送達スルトキハ其都度必ス送達簿ヘ記載シ領收者ノ印ヲ



徴スヘシ

但本文ノ場合ニハ宿直日誌へ送達ノ旨ヲ記入スヘシ

第三十七條 平日宿直及休日宿直ノ交代ハ午前十時トス交代ノ際引繼物件ノ授受ハ必ス各本人ニ於テ之ヲナスヘシ

第三十八條 宿直員ハ閉廳中各課ノ鍵箱及ヒ各室門戸等ノ鎖鑰ヲ管守シ開廳ノ時ハ帳簿ニ當該課員ノ認印ヲ受ケテ交付シ授受ヲ明カニスヘシ

第三十九條 宿直員ハ閉廳中必ス宿直室ニ詰切り漫リニ離去スルコトヲ得ス

附 則

第四十一條 出勤簿ノ捺印ヲ怠ルモノ無届欠勤ノモノ病氣引入中定期ノ届書及診斷書ノ呈致ヲ怠ルモノ休日宿直交代失期ノモノ若クハ宿直中ノ要件引繼或ハ整理ヲ等閑ニセシモノ等ハ總テ文書係ニ於テ事由書ヲ徴シ關長へ具申スヘシ

第四十二條 監視部員ノ出勤并ニ宿直ハ別ニ定ムル所ニ依ル

四十、犯則處分の實例 明治二十三年發布したる税關法及税關規則の實施後當關に於て處分したる犯則事件は甚だ鮮少なりとせず然れども概して些細の事件に屬し特に記録に値るものなしとす但た三十一年六月帝國汽船高知丸船長及同事務長に對する金塊沒收事件は告發の結果遂に大審院の手を煩はすに至る等事態稍々重大なるものあるを以て左に該事件の概要を述へて犯則處分の一例を示さん

該事件に關して先づ當關より犯則者に對して發したる處分通知書左の如し

原籍香川縣小豆郡野間村ノ内古江八番地  
寄留大阪市西區本田三番町六拾六番屋敷

前 田 音 松

原籍佐賀縣佐賀市柳町六拾五番地

寄留長崎縣下縣郡大手橋町拾叁番戶

堤 辰 一 郎

右ハ本月八日韓國釜山港ニ於テ積載シタル金塊壹包此目方六百九十六匁五分ヲ密ニ本港ニ陸揚シタル處右ハ對島國佐須奈港ニ於テ沿海通航船資格變更ノ際輸入免狀ヲ受ケサルモノニ付税關規則第十五條ノ違犯ト認ム依テ税關法第十條第二項ニ據リ現品ヲ沒收ス

明治三十一年六月十日

大阪税關長 佃 一 豫

二の通告に對して右犯則者は直に不服從の届出をなしたるを以て當關は之れを大阪地方裁判所檢事局に告發し當該檢事は直に起訴の手續を爲し遂に同裁判所に於て之れが判決を與へて曰く

香川縣小豆郡野間村ノ内古江八番地

當時大阪市西區本田三番町六十六番屋敷寄留平民

汽船高知丸船長 前 田 音 松

四十歳

佐賀縣佐賀市柳町六十五番地

當時長崎縣下縣郡大手橋町拾三番戶寄留平民

汽船高知丸事務長 堤 辰 一 郎

三十三歳

右税關法違反事件ノ公訴審理ヲ遂グル處 被告前田音松堤辰一郎ハ汽船高知丸ニ乗組明治三十一年六月四日韓國釜山港ヨリ諸貨物ヲ積載シ同日對馬國佐須奈港ニ到着同所長崎税關支署ニ於テ請



貨物輸入ノ手續ヲ爲ス際釜山第一銀行ヨリ大阪第一銀行支店ニ送ル金塊壹包此目方六百九十六匁五分ニ對シ誤リテ輸入免狀ヲ受ケス且積荷目録ニ記載漏ノ儘同八日大阪港ニ到着シ大阪税關監吏補安野松太郎ノ調査ヲ受クルニ該リ右免狀ヲ受ケサリシコト及目録ニ記載漏ナルコトヲ心付キタルモ之ヲ陸揚ケシ旭運輸商店マテ持行キタルハ同監吏補ノ認可ヲ得タル上ノコトニテ加フルニ該品ハ素ト無税品ニ係ルヲ以テ税關規則第十五條ニ違犯シタルモノト認メ難ク隨テ税關法第十條第二項ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス

判決

被告前田音松堤辰一郎ヲ無罪明治三十一年七月八日大阪地方裁判所刑事第四部公廷ニ於テ檢事成田元衛立會言渡ス

裁判長 湯川慎三郎  
判事 岩關克  
判事 岡本孟  
書記 室信之助

立會檢事は是の判決に服せず直に控訴の手續をなしたりしか當關に於ては更らに檢事長に對して左の如く注意する處あり曰く

去ル六月十八日日本官ヨリ大阪地方裁判所檢事局へ告發シタル高知丸船長前田音松同船事務長堤辰一郎ノ税關法違犯事件ハ去月八日同地方裁判所ニ於テ右ハ税關法第十條第二項ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ストシテ兩名トモ無罪ノ宣告ニ相成タル處立會檢事ハ其裁判ニ服セス控訴セラレタル趣ニ有之候個ハ告發狀中犯則構成ノ時及場所ニ於テ或ハ不明ノ廉アリシヨリ右様ノ裁判ニ相成候哉

トモ被考候間爰ニ其告發ノ主意ヲ教演スルノ必要モ可有之ト存候這般高知丸カ外國貨物ヲ積ミ韓國釜山港ヨリ對州佐須奈港ニ入津シ同所ニ於テ沿海通航船ニ其資格ヲ變更シタルハ一件書類ニ徵シ事實明晰タリ抑沿海通航船ハ税關規則第三十六條ニ依リ開港間ニ回漕スル場合ノ外輸入手數未濟ノ外國貨物ヲ船積スルコトヲ得サル筋合ナリ加フルニ對州佐須奈港ハ税關規則ニ謂フ所ノ開港ニ非ラス特ニ朝鮮貿易ノ爲メ開カレタル一海港ニ過キサレハ本件高知丸ノ如キハ前記開港間ノ廻漕ヲ爲シ能ハサル次第ニ有之候然ルニ被告等ハ前記佐須奈港ニ於テ沿海通航船ニ資格變更ノ際他ノ搭載貨物ハ總テ同所長崎税關支署ニ於テ其輸入手數ヲ爲シタルニモ拘ラス所爭ノ物件タル金塊ニ至リテハ船内ニ隱匿シテ其輸入手數ヲ爲サス其儘沿海通航船タル同船ニテ同港ヲ出發密輸入ヲ遂ケタルモノニ有之候故ニ本案犯則ノ場所ハ對州佐須奈港ニシテ本官カ被告等ヲ告發シタルモ實ニ以上ノ犯則行為ニ外ナラス告發狀中當大阪港ニテ竊カニ陸揚云々ノ事ヲ記載シタルハ右犯則ノ結果タル事後ノ所爲ヲ示シ併セテ被告等カ當關管轄區内ニ於テ該犯則物件ヲ所持シ居タルヲ顯然タラシメンカ爲ノミニシテ此點ニ對シテハ別ニ處分ヲ請求シタル次第ニハ無之候將又該判決文中該物件ハ無税品ニ屬スルヲ以テ税關規則第十五條ノ違犯ハ認メ難シトアレトモ同條ハ輸入貨物ノ有税無税ヲ論セス一般ノ輸入貨物ニ對スル輸入手續ヲ規定シ有税品ナラハ其税ヲ納ムヘシトノ事ヲ示セシモノト解釋セサルヲ得ス何トナレハ税關法規中別ニ無税輸入貨物ニ對スル輸入手續ヲ規定シタル條項ナキヲ以テ視ルモ無論無税貨物モ本條ノ手續ニ依ルヘキコトハ推知シ得ラルヘクト存候然レハ則チ輸入手數ヲ經スシテ無税品タリトモ外國貨物ヲ輸入シ得サルハ同條及税關法第十條第二項ノ規定ニ依リ事理明白ト思料致候條御參考ノ爲メ此段具陳候也

明治三十一年八月四日 大阪控訴院檢事長宛

大阪税關長



然るに控訴院は原判決を取消し更らば下の如く判決して再び無罪を宣告せり

香川縣小豆郡野間村ノ内古江八番地平民

當時大阪府大阪市西區本田三番町六十六番屋敷寄留

瀧船高知丸船長 前 田 音 松

安政三年一月生

佐賀縣佐賀市柳町六十五番地平民

當時長崎縣下縣郡大手橋町十三番戸寄留

瀧船高知丸事務長 堤 辰 一郎

文久三年十一月生

右税關法違犯被告事件ニ付明治三十一年七月八日大阪地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ同廳檢事ヨリ控訴シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

被告音松ハ瀧船高知丸ノ船長辰一郎ハ同船事務長トナリテ共ニ同船ニ乗リ組外航船トシテ明治三十一年六月四日韓國釜山港ニ於テ諸貨物ヲ船積シ同日本邦對島佐須奈港ニ廻航シ同所長崎税關支署ニ届出テ右船積貨物ノ輸入手續ヲ爲ス際其貨物ノ内量目六百九十六匁五分ノ金塊ヲ船内ノ金庫中ニ藏匿シ置キ故ヲニ積荷目録ニ記載セスシテ陸揚免狀ヲ受ケス而シテ同港ニ於テ外航船ノ資格ヲ本邦沿海通航船ノ資格ニ改メタルモ右金塊ハ依然船積ノ儘大阪港ニ廻漕シ同月八日同港ニ於テ右金塊ヲ密ニ船卸セントシタル事實ハ大阪税關長佃一豫ノ告發書前審公判始末書中證人安野松太郎陳述ノ部分及當公廷ニ於ケル被告兩名カ供述ノ各一分ニ徴シ明確ナルモ金塊ヲ船卸シタル事實ナキヲ以テ犯罪ヲ構成セサルモノトス因テ刑事訴訟法第二百五十八條第二百三十六條第二百二十

四條ニ依リ無罪之言渡ヲ爲シ押收ノ金塊ハ同法第二百二條ニ依リ處分スヘキモノトス然ルニ原判決カ誤テ輸入免狀ヲ受ケスシテ大阪港ニ到着シ(中畧)加フルニ該品ハ素ト無稅品ニ係ルヲ以テ税關規則第十五條ニ違反シタルモノトハ認メ難ク隨テ税關法第十條第二項ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラスト判決シタルハ失當ナルニ依リ檢事ニ於テ被告ニ税關法違犯ノ所爲アリトスルノ論旨ハ正當ナラスト雖モ原判決ヲ失當ナリトスルノ論旨ハ正當ナルニ付本件控訴ハ結局其理由アルニ歸スルモノト爲サレハカラス因テ當控訴院ハ刑事訴訟法第二百六十一條ノ規定ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

原判決ヲ取消シ更ニ被告兩名ヲ無罪トス

大阪税關ノ保管ニ係ル金塊ハ其差出人ニ還付ス

明治三十一年九月二十一日

檢事全田達次郎干與ス

大阪控訴院刑事第二部公廷ニ於テ宣告ス

裁判長判事	田 丸 稅 稔
判 事	澤 崎 頼 之 助
判 事	奥 宮 彦 五 郎
判 事	大 野 金 三 郎
判 事	元 木 直 一
裁判所書記	増 岡 武 一 郎

原本ニ依リ此謄本ヲ作ルモノ也

明治三十一年九月二十六日



於大阪控訴院

裁判所書記

中根庸

此第二審判決に對し檢事局は之れに屈せず更らに上告の手續をなせり之れと同時に當關は此顛末を具して大藏大臣に上申して曰く

高知丸船長及事務長税關規則違犯之義ニ付御届

本年六月八日内國船高知丸船長前田音松同船事務長堤辰一郎ノ兩名ハ本年六月四日韓國釜山港ニ於テ積載シタル金塊壹包ヲ當港へ陸揚シタル處右ハ對馬國佐須奈港ニ於テ沿海通航ニ資格變更ノ際輸入免狀ヲ受ケサルモノニ付税關規則第十五條ノ違犯ナルヲ以テ別紙甲號ノ通現品沒收申渡セシ處不服ノ旨<sup>乙</sup>ヲ以テ届出候ニ付<sup>丙</sup>ヲ以テ大阪地方裁判所へ告發セシカ無稅品ナルヲ以テ税關規則第十五條ノ違犯ニ非ラストシ無罪ノ旨<sup>丁</sup>ヲ以テ判決相成檢事ハ該裁判所不服ニテ直ニ之ヲ控訴セリ依テ別紙<sup>戊</sup>ヲ以テ事ノ情狀ヲ具シ大阪控訴院檢事へ提出致置候然ル處同控訴院ハ被告ハ同金塊ヲ船卸シタル事實ナキヲ以テ犯罪ヲ構成セストノ理由ヲ以テ是又無罪ノ宣告ヲ爲セリ控訴院檢事ハ該裁判ニ對シ不服ニテ目下上告中ニ有之候依テ本件書類壹括相添此段及御届置候也

明治三十一年十月十九日

大阪税關長

大藏大臣宛

翌三十二年一月大審院に於て第二審判決を取消し當關請求の如く遂に税關法規則第十五條税關法第十條第二項に依り金塊を沒收すとの判決を與へられたる旨大阪控訴院檢事局より通知し來り爰に斯の事件を結了せり當時之れを傳へ開ける各船主貨主の如きは該判決書類を謄寫して船長事務員等に配布して大に將來を警戒せりと云ふ

新税率并に新條約實施の期迫れるを以て三十一年九月十三日

之れに關して一篇の訓示を爲し大に屬僚を訓戒せり曰

各部課係員

新税率并新條約實施ノ期モ今ヤ目前ニ迫リ税關事務ノ煩雜多端ヲ加フヘキハ勿論ノ義ニ有之隨テ税關官吏ノ職務執行上更ニ一段ノ注意ト奮勵トヲ要スル次第ニシテ税法施行ノ當否ハ國家ノ財源ヨリ体面ニ關シ其影響ノ及フ處極メテ重大ナルモノナレハ税關官吏ハ深ク其點ニ注意シ事ヲ處スル簡便敏捷ヲ主トシ人民ニ接スル嚴正廉潔ナルト同時ニ懇切丁寧ヲ旨トシ其本分ヲ誤ラサル様致度旨大藏大臣ノ命ニ依リ大藏次官ヨリ特ニ通牒ノ次第モ有之此等ノ義ハ此際殊更注意ヲ要スル事項ナルヲ以テ各自互ニ相戒飾奮勵以テ右示諭ノ旨ニ悖ラサル様致度此段及傳達候也

明治三十一年九月十三日

大阪税關長

佃一豫 印



明治三十八年九月三十日印刷  
明治三十八年十月三日發行

# 橫濱稅關

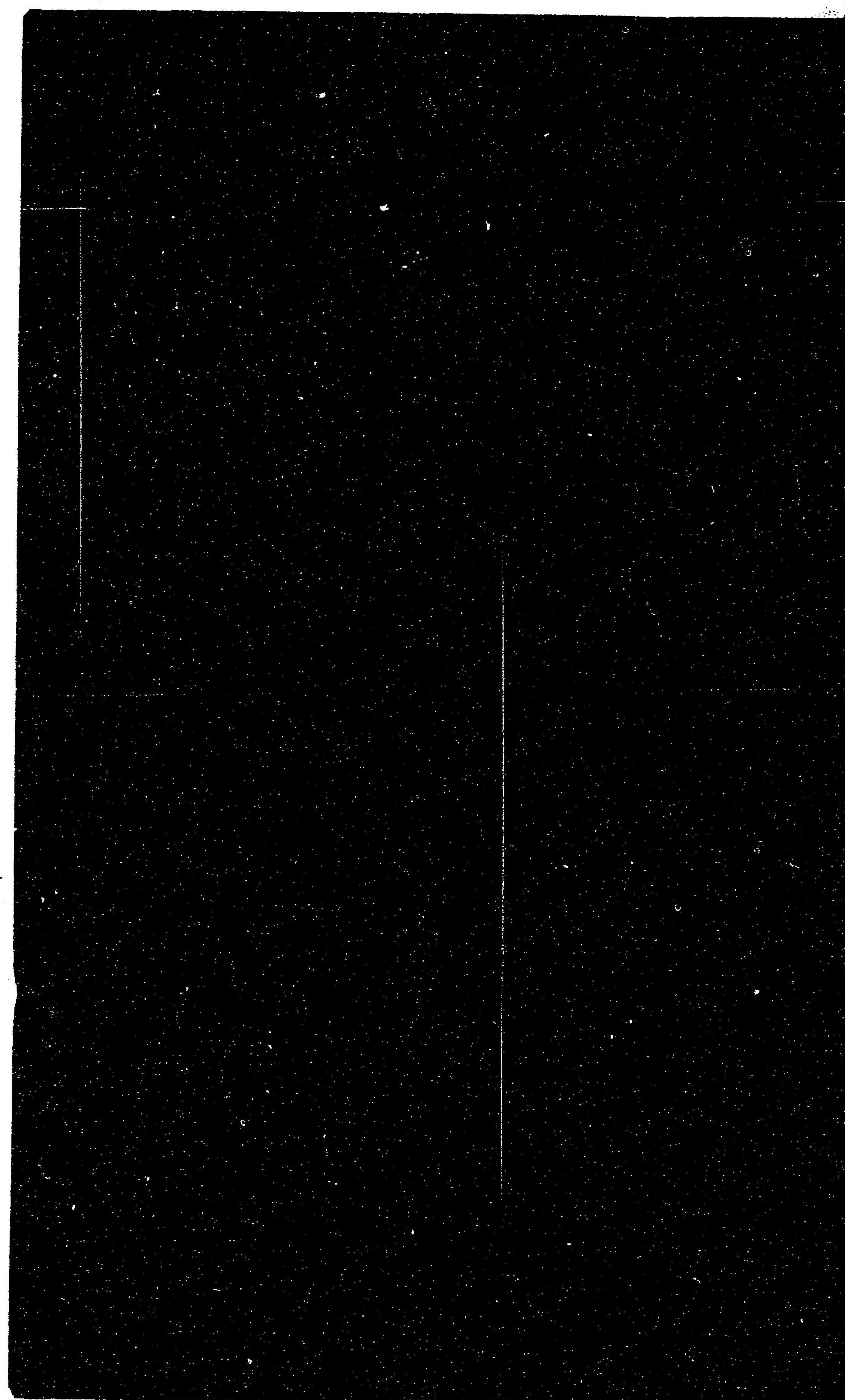
橫濱市太田町三丁目五十五番地  
印刷人 吉本光太郎

印刷所 吉本印刷所



319  
94



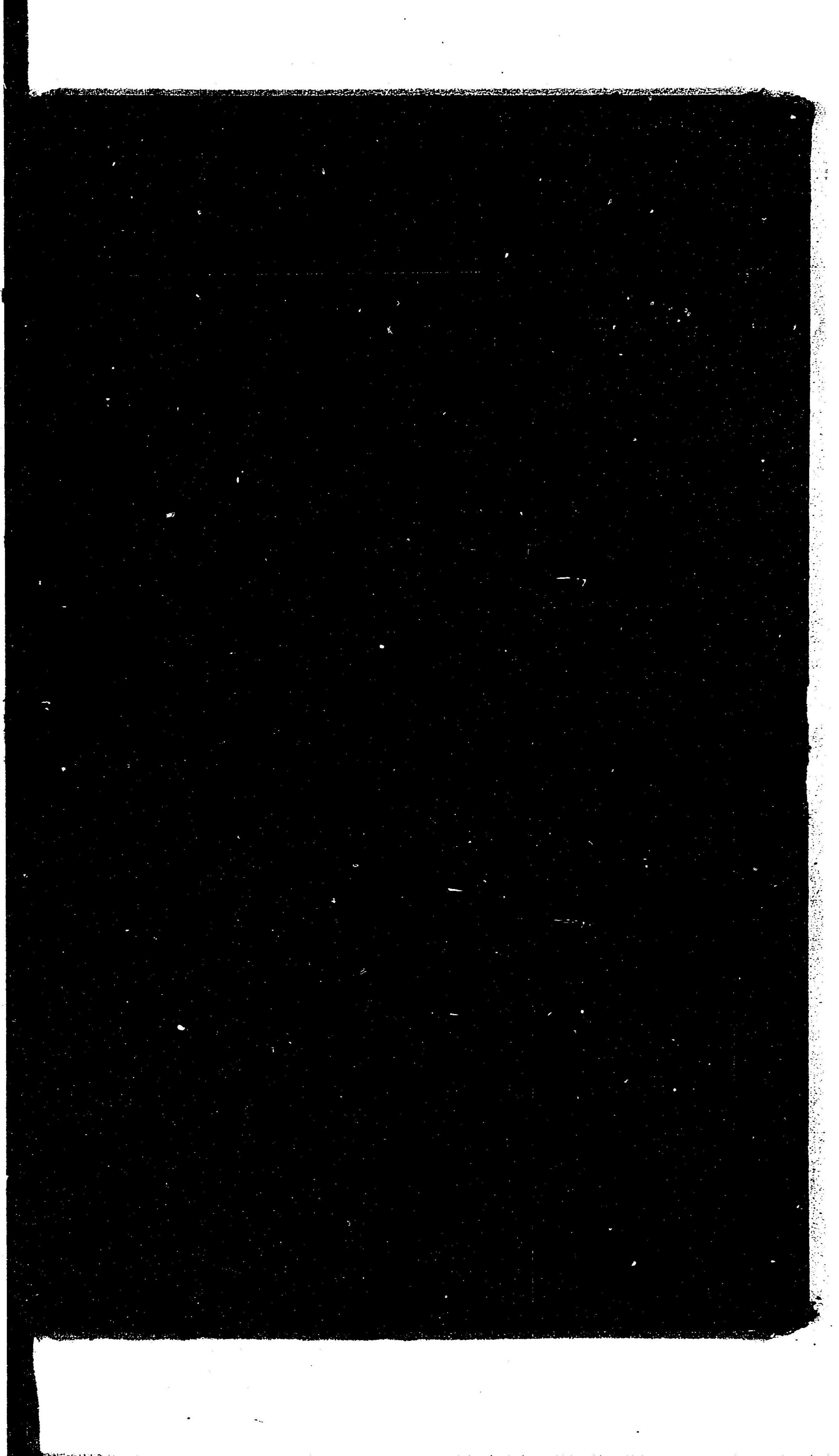


37



319
94







319  
94



